

青田山 龍胤 通撰
稻田 龍吉
林春 雄編
富士川 游

第二册 [二二九乃至
二二二頁]

體 質 論

日本內科全書

九 卷

昭和十一年十一月

吐鳳堂發行

(第四十二回出版)

24/9 1939

緯

24/9 1939

緯

稟告

日本内科全書第九卷醫學博士大里俊吾氏述體質論製本出來豫約諸君ニ配布致シ
候事ヲ得ルハ弊堂ノ大ニ光榮トスル所ニ御座候、引續キ殘餘ノ原稿整理刊行致シ可申候
此段併セテ稟告致候

昭和十一年十月

日本内科全書發行書肆

吐
鳳
堂
敬
白

謹告

一。日本内科全書ハ全十卷。毎巻紙數約九百頁ヲ標準トシ、毎月一冊、二百五十六頁宛ヲ刊行スル豫定ナルガ故ニ、毎冊ハ記事ノ途中ニテ中絶スルコトアルベシ。故ニ、毎冊ノ表紙ニ、卷數冊數・頁數ヲ明記スルヲ例トス。

二。毎冊ノ内容ハ表紙ニソノ大要ヲ示スノミテ別ニ目次ヲ附セズ。毎巻ノ終末(毎巻最後ノ冊子)ニ、其巻ノ目次索引扉紙ヲ附スベキガ故ニ、製本ニ際シテハ、コノ點ニ留意アラソコトヲ望ム。又希望ニヨリテハ、製本用ノクロス(金文字入)ヲ送附スベシ(但、コレハ頁數ノ多少ニヨリテ價格ニ差異アルガ故ニ、毎巻ノ結了ト共ニ價格ヲ定メテ報告スベシ)。

三。本書ニ用フルトコロノ術語及ビ用語ハ、成ルベクコレヲ一定センコトヲ企テタリ。譯語ノ選定ニツキテハ、撰者、編輯委員、及ビ在京執筆者諸氏ノ會合ノ席ニテ、從來行ハレタル譯語ニシテ專門家諸氏ガ選用セラレタルモノハコレヲ其儘ニ用ヒ、不適當ト認ムルモノ及ビ新ニ譯字ヲ定ムベキモノハ編輯委員會ニテコレヲ議定スルコトニ評議一決シ、コノ目的ニテ編輯委員會ヲ開クコト、大正元年八月ヨリ毎月一回、特ニ斯學ニ造詣深キ大槻如電翁ヲ煩ハシテ、毎回出席ヲ乞ヒ、委員富士川游ノ原案ニ基ツキ、譯字ノ可不可ヲ討議シテ一定セルモノヲ用ヒタリ。

新定又ハ選定ノ譯字ハ、本文中ニ西洋語ヲ插入シテ明示スルガ故ニ、讀過スレバ自カラ明瞭ナルベシト雖、試ミニ卷一第一冊卷二第一冊及ビ卷二第二冊中ニ現ハレタルモノノ内、著シキモノヲ舉ゲレバ左ノ如シ。

基質	Anlage	枯瘦	Marasmus	能働性	Aktiv
姿質	Habitus	物質代謝	Stoffwechsel	受働性	Passiv
稟質	Temperament	害物	Schädlichkeiten	機能	Funktion

症狀	Symptome	潛出血	Okulte Blutung	注流雜音	Durchspritzgeräusch
潤爛	Maceration	氣脹	Flatulenz	壓通雜音	Durchpressgeräusch
包纏法	Einpäckung	鼓脹	Metorismus	畏食症	Stiphobie
壓注	Douche (Dusche)	消化困難	Dyspepsie	送出	Austreibung
透熱法	Thermopenetration	按撫法	Streichen	嚔入	Einziennung
鬱積	Wallung	震搖法	Vibration	橫隔膜性內臟脫	Eventratio
鬱滯	Stauung	レントゲン輻射線	Röntgenstrahlen	diaphragmatica	
病前史	Anamnese	荷重試驗	Belastungsprobe	囊脹	Divertikel
辨症	Differentialdiagnose	食慾	Appetit		

病名ノ中ニハ、從來西洋ノ語ヲ漢字ニテ書キタルモノト、假名ニテ書キタルモノトアリ、本書ニハソノ書式ヲ一定シテ、タトヘバ、腸窒扶斯實布埜里・僕麻質斯等、已ニ廣ク公私ノ間ニ行ハレタルモノハ、漢字ニテ書クコトトナシ(漢字ノ中ニテモンノ一種ヲ選ビタリ)、ソノ他ハ、スベテ假名ニテ書クコトトシタリ、タトヘバ、ラチーフス・アングーナ・ヒステリー・スコルブート・マデリア・イレウス・インフルエンザ等ノゴトシ。

藥物ノ稱呼ハ、大體、日本藥局方所定ニ基キ、一ノ點ニ修正ヲ加ヘテ、一定セルモノヲ用ヒタリ。

四。用語ニ關スル事項中、一ノ特ニ舉ゲテ、注意ヲ乞フコトハ本書ニテハ、『蓋、又、亦、甚、屢、始、漸』等ノ文字ニシテ、一字ニシテソノ意義ヲ盡クスモノハ句點ヲ附スルノミテ假字ヲ附セズ、若、ソノ文字ノハタラクニ變化アル場合、タトヘバ『及ビ、及フ』等ノ場合ニハ、常ニ假字ヲ附スルヲ例トセリ。又、新ニ假名ヲ製造シテ用ヒタルモノ數種アリ、左ノゴトシ

チ (a) ツ (h) ル (m) ヂ (e) ロ (o)

斯ノ如ク、Lノ音ヲアラハスガタメニ普通ノ假名ヲ、リ、ル、レ、ロ、ニ。ヲ附シタルモノヲ新ニ製シ用ヒテ、Rノ音ト區別シタリ。

チ cha ツ chi ヂ che ロ ch

斯ノ如クchノ音ヲアラハスタメニハ、ヒ、ヘ、ホニ△ヲ附シタル活字ヲ新製シタリ。

ヂ エ ヅ コ

丁ノ音ヲアラハスタメホチ、ツニ。ヲ附シタル活字ヲ新製シタリ。

又、從來發音ノ詰マル場合ニハツノ假字ヲ小サク書クラ例トシタレドモ、拗音(タトヘバキ、キ、キ等)ヲ示スニモ同一ノ書式ヲ用ヒザルベカラ
ザルガ故ニ、本書ニハ新ニツノ字ヲ製作シテ、用ヒタリ、タトヘバ

ペツテンコーセル (Petenkofler)

五。地名ニハ右側ニ複線ヲ附シ、人名ニハ右側ニ單線ヲ附スル等ハ、普通ノ例ニ依レリ。

六。本書ノ凡例等ハ、第一卷ノ終末冊ニ附スベク、本卷ノ目次及ヒ索引等ハ本卷ノ終冊ニコレヲ附スベシ。

編輯委員

謹言

目次

第一章 緒論	一三	五、血管神經症性體質	一五
第二章 遺傳及ヒ遺傳病	一四	六、無力性體質異常	一九
第三章 體形的検査法竝ニ體型	一五	七、アレルギー及ヒソノ體質トノ關係	一九
第四章 發育異常	一五	第九章 體質ノ改善	二〇
其一、全身の發育異常	一五		
一、小兒型	一五		
二、巨人竝ニ長身	一六		
三、類宦症性長身	一六		
四、早老	一七		
第五章 發育異常	一七		
其一、部分的發育異常	一七		
一、形成不全	一七		
二、生活力缺如	一七		
三、變質徵候	一七		
第六章 年齢ト體質	一七		
第七章 液態體質	一八		
附、體質血清學	一八		
第八章 體質異常	一八		
一、胸腺淋巴體質	一八		
二、發育不全性體質	一九		
三、アルトリヂスムス	一九		
四、滲出性體質	一九		

- | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|---|
| (16) Choleric | (7) Galen. (131-200) | (1) Hippocrates (460-Ca 377 v. Chr.) |
| (17) Melanchorisch | (8) Humoralpathologie | (2) Gut und schlecht |
| (18) Phlegmatisch | (9) Temperamentenlehre | (3) Stark und schwach |
| (19) Paracelsus (1493-1541) | (10) Blut (11) Schleim | (4) Schlaife, fette und feuchte |
| (20) Salz | (12) Gelbe und schwarze Galle | (5) Straffe, gedrungene und trockene |
| (21) Schwefel | (13) Dyskrasie | (6) Max Neuburger, Zur Geschichte der Konstitutionslehre. Zeitschrift f. Konstitutionslehre. Bd. I. 194. S.4. |
| (22) Quecksilber | (14) Temperament | |
| (23) Iatrochemiker | (15) Sanguinolent | |

體質論

第一章 緒論

醫學博士 大里俊吾 述

科學的研究方法ノ未、發達セザル時代ニ於テ、疾病ノ外因ニ關スル研索ト智識ノ陷缺ヲ、内因的考察ニ依テ補ヒテ説明セント試ミタルハ當然ノコトニシテ、古代ノ醫家ガ個人的特質ニ多クノ關心ヲ持チタルコトモ首肯セラルトコロナリ。醫聖ヒポクラテース⁽¹⁾ハ既ニ良—不良⁽²⁾、—強—弱⁽³⁾、弛緩セル、脂肪ニ富メル、且、濕潤ナル體質ト緊張セル、鞏固ナル且、乾ケル體質⁽⁴⁾等ヲ區別セリ。(ノイブルゲル氏⁽⁵⁾ニ據ル)。ソノ後、ガレン氏⁽⁷⁾ニ至リテ完成セラレタル液體病理學⁽⁸⁾及ビ稟質論⁽⁹⁾ニテハ血液⁽¹⁰⁾・粘液⁽¹¹⁾・黃色及ビ黑色膽汁⁽¹²⁾ノ調合ノ不均ガ疾病ヲ起スモノナリトセリ(血液不良⁽¹³⁾)。人ノ稟質⁽¹⁴⁾モ亦、コレニ依リテ左右セラルトシテ、多血質⁽¹⁵⁾・膽汁質⁽¹⁶⁾・憂鬱質⁽¹⁷⁾及ビ粘液質⁽¹⁸⁾ノ四個ノ重ナル稟質ヲ區分セリ。即、ヒポクラテースノ忠實ナル觀察ニ基ツキタル分類ヨリ、假説ヲ主トシタル見方ニ移行シテ、ソレハ文藝復興ノ時代マデ變ルトコロナカリキ。バラツェルズ氏⁽¹⁹⁾ハ鹽⁽²⁰⁾・硫黃⁽²¹⁾・水銀⁽²²⁾ノ三基質(コレ等ハ素ヨリ象徴的命名ニ過ギズ)ヲ生體ノ組成ノ上ニ考ヘタリ。所謂、醫療化學派⁽²³⁾コレナリ。

- (22) Exsudative Diathese, Czerny (1905)
- (23) Status hypoplasticus, Bartel
- (24) Martius
- (25) Tandler
- (26) Bauer
- (27) His
- (28) Lubarsch
- (29) Hart
- (30) Kraus
- (31) Borchardt
- (32) Kaup
- (33) Rautmann
- (34) Rössle
- (35) Rohden
- (13) Rokitsky
- (14) Anthropometrische Bestimmung
- (15) F. Hueppe
- (16) Brugsch. Einführung in die Konstitutionslehre, ihre Entwicklung zur Personenlehre: in Biologie der Person. I. Band 1926. Berlin. S. 1.
- (17) Rosenbach
- (18) Gottstein
- (19) Disposition
- (20) Status thymicolymphaticus, Paltauf (1889)
- (21) Status asthenicus, Stiller
- (1) Sylvius
- (2) Scrofulose
- (3) Arthritische
- (4) Apoplektische
- (5) Carcinomatös
- (6) Bazain (1807-1878)
- (7) Lancereux (1829-1910)
- (8) Temperamentenlehre
- (9) Diathese
- (10) Virchow
- (11) Koch
- (12) Benecke (1878)

シカシナガラ、時代ノ推移ト科學ノ進展トハ、獨、體質ニ關スル見解ノミラ假說ノ境地ニ遺スコトナカリキ。シルヴィウス⁽¹⁾氏ハ腺病質⁽²⁾ト肺癆トノ關係ヲ實際的ノ觀察ニ基キテ記述セリ。氏ハ又、關節質性⁽³⁾・卒中性⁽⁴⁾・癌性⁽⁵⁾等ノ體質ヲ擧ゲタリ。ソノ後、解剖學、及ビ生理學等ノ發達ニ伴ヒテ、體質ニ關スル見解モ次第ニ進歩セシガ、近代科學ノ上ニ建テラルベキ體質論ノ發達ハ、尙、甚ダシク後レタリ。唯、佛國ニ於テハ、早クモバザン⁽⁶⁾、プランスロー⁽⁷⁾等諸氏ハ古ノ稟質論⁽⁸⁾ニ基キテ、素質⁽⁹⁾ノ教義ヲ完成シタリ。

ウルビヨウ氏⁽¹⁰⁾ノ細胞病理學、次テコッポ氏⁽¹¹⁾ノ細菌學等、相嗣テ興リ、獨逸醫學ガ駸駸タル進歩ヲ致セル間ニ、ベネツケ氏⁽¹²⁾出テテ、初メテ近代體質論ノ確乎タル礎石ヲ置キタリ。―彼ノ前ニロキタンツキイ氏⁽¹³⁾ガ先驅ヲナセリト云ハル。―氏ハ死屍ニ就テ人類學の計測法⁽¹⁴⁾ヲ行ヒ、疾病ト體形トノ關係ノ闡明ニ努メタリ。

他方ニ又、細菌學、及ビ免疫學ノ進歩ニ伴ヒ、感染及ビ免疫ト個體ノ特質トノ間ノ關係ガ注目セララルニ至レリ。此點ニ就テハヒツペ氏⁽¹⁵⁾(ブルグシ⁽¹⁶⁾氏⁽¹⁶⁾ニ據ル)ガ先覺者ナリトセラル。即、ローゼンバツパ⁽¹⁷⁾、ヒツペ、ゴツトスタイン⁽¹⁸⁾等諸氏ハ素因⁽¹⁹⁾ニ就テ力説シタリ。

胸腺淋巴體質⁽²⁰⁾・無力性體質⁽²¹⁾・滲出性素質⁽²²⁾・發育不完全性體質⁽²³⁾等ノ特殊體質、若クハ異常體質トモ云フベキモノハ、多クハ臨牀的見地ヨリ命名セララルモノニシテ、コレニ反シテ、科學的ノ立脚點ヨリ體質論ノ系統ヲ組立テタル功績ハマルヂウス氏⁽²⁴⁾ニ歸スベシトハ、多數學者ノ見解ノ一致セルトコロナリ。コレニ次デ、タンドル⁽²⁵⁾、パウエル⁽²⁶⁾、ヒス⁽²⁷⁾、ルバーシ⁽²⁸⁾、ハルト⁽²⁹⁾、クラウス⁽³⁰⁾、ブルグシ⁽³¹⁾、ボルムハルト⁽³²⁾ソノ他多クノ名ガ獨逸學派ノ體質研究者ノ中ニ發見セラル。又、カウブ⁽³²⁾、ラウトマン⁽³³⁾、レヅス⁽³⁴⁾、ローデン⁽³⁵⁾等諸氏ガ盛ニ人體ノ計測ヲ行ヒ、就中、カウブ、ラウトマン等諸氏ハ規準論⁽³⁶⁾ヲ體質研究ノ基礎トスベキコトヲ論セリ。

- (9) Phänotypus
- (5) Castellino
- (6) Friedrich v. Rohden, Methoden der konstitutionellen Forschung: Handbuch der biologischen Arbeitsmethode. Abt. IX. Teil 3. 1929. S. 692.
- (7) Genotypische od. idiotypische
- (8) Konditionell od. paratypisch
- (1) Sigaud, C.: Essai d'interpretation de l'évolution individuelle de l'homme par la morphologie abdominale. 1904.
- : La forme humaine. 1914. (J. Bauer = 據ル)
- (2) Giovanni
- (3) Viola
- (4) Pende

體型ノ研究ニ於テモ佛國學者ハ先鞭ヲ著ケ、一千九百四年、シガウ氏⁽¹⁾ハ彼ノ四體型ニ就テ述ベタリ。氏ノ此ノ分類ハ、矢張、佛國派傳統ノ機能的觀點ニ重キヲ置キタルモノトセラレテ居ル。伊國ニ於テ、ジオウエン⁽²⁾、ウイオラ⁽³⁾、ペンデ⁽⁴⁾、カステヅノ⁽⁵⁾等一派ハ身體的計測、臨牀的觀察等ニ基ツキタル體質論ノ系統ヲ組成シタリ。(ローデン氏⁽⁶⁾ニ據ル)

以上ハ體質研究ノ大體ノ潮流ヲ述ベタルニ過ギザルガ、體質ナル語ノ意義スラ、今日、尙、學者ニ依テ解釋ヲ異ニセリ。即、純粹ニ生殖細胞ノ遺傳的要素ノミヨリ成ル、遺傳範型或ハ成系型⁽⁷⁾ノ性質ヲ目スル狹義ノ解釋(タンドル、パウエル氏等)ト受胎後ノ母胎内外ニ於ケル生活中ニ受ケタル外界ノ影響ニ依テ獲得シタル性質⁽⁸⁾ヲモ籠メタル、廣義ノ解釋(多クノ學者ハ此ノ見解ニ從ツテ居ル)トガ對立セリ。『吾人ハ今日、體質論的研究ノ初期ニ立テルニ過ギズ』トハ總テノ學者ノ一樣ニ唱フルトコロナルガ、實際、體質學ト云フヤウナモノヲ組ミ立テルニハ、ソノ關係スル範圍ガ餘リニ廣汎ニシテ、又、餘リニ多クノ未開拓ノ領域ガ存スルナリ。

個體ノ表現タル現象型⁽⁹⁾ハ遺傳型ニ外的影響ガ加ハリテ生ズルモノニシテ、外的影響ハ時時刻刻ニ變化シ得ルモノナルガ、遺傳型ハ一生ヲ通ジテ一貫シタルモノヲ有スルモノトス。シカシナガラ、ソレガ外界ヘノ表現ハ決シテ同一ナルコトヲ得ズ。タトヘバ、年齢的變化ノミヲ考フルモ、相當著シキ變遷ヲ示スモノナリ。私ハ人ノ一生ヲ織物ノ中ノ一條ノ經⁽¹⁰⁾ニ譬ヘテ見ル。ソレハ澤山ノ細キ纖維ノ集合ニシテ、仔細ニ檢スレバ決シテ一樣ノ質ト形ヲ備ヘタモノニアラズ。況、絢リヤ染色等ノ影響ハ、一層ソノ各部ノ變化ヲ複雑ナラシム。

斯ノ如ク類似ノ經ノ幾條カノ群ガ出來、ソレガ幾群トナク竝列サレ、コレニ緯⁽¹¹⁾(コレヲ私ハ疾病ノ外因ニ譬ヘル)ヲ通シテ、ソコニ織物ガ出來ルデアラウ、ソノ織物ノ綾、縞柄等ガ、教科書的ノ疾病ト見做スコトガ出來ヤウ。クラウス、ブルグシ

- (1) Person: Fr. Kraus : Allgemeine und Spezielle Pathologie der Person. Leipzig 1926. Brugsch u. Lewy : Biologie der Person. Berlin u. Wien.
- (2) Individualisierung
- (3) Martius

- (4) Strümpell
- (5) Lubarsch
- (6) Brugsch
- (7) 稲田龍吉. 疾病ノ治療ト體質ノ內科的方面ト診断ト治療ノ臨時増刊 昭和三年二月
- (8) Borchardt, Klinische Konstitutionslehre.

- Zweite Auflage 1930.
- (9) Phänotypus (Johannsen)
 - (10) Genotypus (Johannsen)
 - (11) Anpassungen
 - (12) Kondition (Tandler)
 - (13) Paratypus (Lenz, Siemens)
 - (14) Erbanlage
 - (15) Gregor Mendel
 - (16) De Vries

等ノ一派ハ、コノ一本ノ經ヲ「人」トシテ觀察セントシタリ。シカシナガラ、ソレガ餘リニ事柄ヲ複雑ニスルコトハ見易キ理ナリ。私ハ寧、類似ノ緯ノ一群一群ヲ取扱フコトニ、體質論ノ本來ノ意義ガ存スルと思フ。個人化⁽¹⁾、ソレハ患者ノ診療ニ當リテハ、重要ナルコトナルモ、學問トシテ取扱フトコロノ體質論ニテハ、分類トイフコトガ一つノ重要ナル項目ナラズンバアラズ。コレハ私ノ事新シキ主張ニアラズ、先進學者ノ等シク取レルトコロノ態度ニ外ナラザルナリ。

體質ト云フ言葉ノ定義ヲ下スコトモ、簡單ニ且、明確ニハナサレ難シ。マルヂウス⁽²⁾、ストルムムベル⁽³⁾、ルバー⁽⁴⁾、ブルグ⁽⁵⁾等諸氏ハ何レモ、體質ナル語ノ中ニ形態的要素ト機能的要素トヲ包含セシメタリ。後者ハ刺戟若シクハ外界ノ影響ニ對スル個體ノ反應ノ模様、若シクハ態度ヲ意味スルト解セリ。氏等ハ此ノ機能的方面ヲ殊ニ重要視シタリ。私ハ上ニ個人ノ體質的特質ヲ織物ノ一筋ノ經ニタトヘシガ、ソレハ經ノモツ形状ノミアラズ、ソレガ有スル鞏度ナドヲモ包含スルコトナル。

附言。體質論ニ關聯シテ種種ノ類似ノ語ガ一つ一つ相當難解ニシテ且、紛ハシキ意義ヲ有セリ。コレニ對シテ稲田氏⁽⁶⁾ノ解説ハ最明快ナルモノトシテ推奨スベシ。又、ボルバルト氏著臨牀體質論⁽⁷⁾卷末ノ語彙モ亦、便利ナリ。

第二章 遺傳及ビ遺傳病

現象型⁽⁸⁾ガ父、母ヨリ傳ヘラレル遺傳型⁽⁹⁾ト、母胎内外生活ノ間ニ受クタル諸種ノ影響、及ビコレニ對スル生體順應⁽¹⁰⁾、即、要約⁽¹¹⁾、後天型トヨリ⁽¹²⁾支配サレルコトハ上述セルガ、前者、即、遺傳素地⁽¹³⁾ニヨリ定マル部分ハ生殖細胞、即、卵細胞及ビ精子ノ兩者ニ包含セラルル性質ノ遺傳ニ因ルモノニシテ、ソレハ全ク遺傳ノ法則ニ從フモノトス。

一千八百六十五年、メンデル氏⁽¹⁴⁾ニ依リテ植物ノ遺傳法則ガ發見サレ、次デ一千九百年、ド・フリース⁽¹⁵⁾、コレ

- (14) Ueberkreuzung
- (15) Mode
- (16) Binomiale Kurve
- (17) Quetelet
- (18) 古屋芳雄. 醫學統計法ノ理論ト其應用. 東京金原書店昭和九年三九頁
- (19) Variationskoeffizienz
- (8) Dominant
- (9) Rezessiv
- (10) Andalusierhühner
- (11) Spaltungsregel
- (12) Unabhängigkeitsregel
- (13) Chromosomen
- (1) Correns
- (2) Tschermak
- (3) Homozygot
- (4) F₁-Generation
- (5) Uniformitätsregel
- (6) Mirabilis Jalappa
- (7) Antirrhinum majus

ルレンス⁽¹⁶⁾、チルマツク⁽¹⁷⁾等諸氏ニ依リテ再、世ニ出サレテヨリ、今日ニ至ルマデ、コノ法則ハ不磨ノ原則トシテ行ハレ居レリ。同一ノ遺傳形質ヲ有セル兩親(同質接合體⁽¹⁸⁾)ノ間ニ、全ク同一ノ形質ノミノ子孫ガ出來ルノハ勿論ナリ。若、相異ナル形質ノ兩親ガ配合セラレタ場合ニハ、次ノ如キメンデル氏ノ法則ニ依ツテ、ソノ性質ガ子孫ニ現ハレルモノトス。

一、第一代⁽¹⁹⁾ニ於テハスベテ同一形質ノモノヲ生ズル(劃一則⁽²⁰⁾)。此際、三ツノ様式ガ認めラレル。(一)兩者ノ中間質ヲ呈ス、タトヘバ白ト紅トノおしろいばな⁽²¹⁾ノ間ニハ淡紅色ノ花ガ生ズ。(二)全然兩親ノ一方ノ形質ヲ呈ス。タトヘバ紅トノさんざんぎよそ⁽²²⁾ノ間ニハ唯、紅花ノミヲ生ズ。此ノ場合、紅ヲ優性⁽²³⁾、白ヲ劣性⁽²⁴⁾ト云フ。(三)全然兩親ト異ナリタル形質ヲ呈ス。タトヘバ黒ト白ノ「アンダールシヤン」鶏⁽²⁵⁾ノ間ノ第一代ハ青羽毛ヲ有ス。

二、第二世代ニ於テハ、コレガ一定ノ割合ノ形質ヲ有スル個體ニ分レル(分裂則⁽²⁶⁾)。タトヘバ前項ノ(一)ノ場合ニハ紅1、淡紅2、白1、ニ、(二)ノ場合ニハ紅3、白1ニ、(三)ノ場合ニハ黒1、青2、白1ノ割合トナルナリ。

三、數個ノ形質ガ兩親ヨリ傳ヘラルル時ニハ分裂ハ各形質間ニ獨立性ヲ保持ス(獨立則⁽²⁷⁾)。

遺傳形質ハスベテ生殖細胞核ノ染色體⁽²⁸⁾中ニ一定ノ配置ヲ以テ包含セラレテ居ルトイフコトガ今日ノ定説ナリ。人類ノ生殖細胞ハ四十八個ノ染色體ヲ有シテ居リ、コレガ減數分裂ニ依ツテ卵子・精蟲共ニ各二十四個宛ノ染色體ヲ持チ寄ツテ受精ヲ行フ。從ツテ此ノ四十八個ノ染色體ノ組ミ合セハ非常ニ複雑トナルモノトス。且、染色體ノ分裂ノ際ニ違乘⁽²⁹⁾ノ現象等ガ起リテ、一層、複雑化スルヲ見ル。從ツテ同ジ兩親ノ間ニ生ゼル子孫ニテモ、全ク同一形質ノミヨリ成立スル個體ハ生ゼザルナラム。シカシナガラ、純粹ナル人種ノ間ニアリテハ、或ル一つノ形質、例之、身長ト云フカ如キモノハ一定ノ竝數⁽³⁰⁾ヲ中心トシテ規則正シキ二項式曲線⁽³¹⁾ニ從ツテ變異ヲ示ス。タトヘバケトラー氏⁽³²⁾ハ英國軍人ニ就テコレヲ認メタリ(古屋氏ニ據ル)。古屋氏⁽³³⁾ハ本邦内地人ノ頭蓋指數ノ變異係數⁽³⁴⁾ハ、 \llcorner ニシテ、「アイヌ」人ニテハ

- (1) Guyer et Smith, Studies on Cytolysins. Transmisson of increased eye defects. J. of exper. Zoolog. 1920. Vol. 31. p. 171.
- (2) Otto Naegeli, Allgemeine Konstitutionslehre. 2. Aufl. 1934. Berlin. S. 81.
- (3) Zürich
- (4) 長尾正人譯. John M. Coulter 著. 遺傳學概論 昭和二年東京改造社發行ニ據ル
- (5) A. Engler
- (6) Mutation (De Vries)
- (7) Idiovariation (Siemens)
- (8) De Vries
- (9) Oenothera Lamarkiana Ser.
- (10) Müller et Altenberg
- (11) Drosophila

V-306ナリ。「アイヌ」人ハ内地人ニ比シテ種族的ニ純粹ナリ、從ツテソノ頭形モ亦、内地人ヨリハ一定セルコトヲ述ベタリ。

受胎後ニ獲得セラレタル性質ガ、遺傳形質タリ得ルヤノ問題ハ、生物進化ノ問題ト關聯シテ、久シキ間、學者間ニ議論セレテ、今日ニ至リテモ尙、全クハ決定セラレザルガ如シ。獲得性質ノ遺傳ヲ證明セントスル多數ノ學者ノ努力ノ大部ハ徒勞ニ終レリ。殊ニ後天的ノ身體ノ一部ノ損傷ニ因テ得タル畸形ノ如キハ、決シテ遺傳セラレザルコトハ決定的ナリ。コレニ反シテ、生殖質ニ加ヘラレタ影響ニ依ル獲得性質ガ遺傳セラレ得ルコトハ、下等動物ノミナラズ高等動物ニ於テモ證明セラレタリ。ガイヤー⁽¹⁾氏ハ妊娠家兔ニ、家兔ノ抗「レンズ」血清ヲ注射スルコトニ依リテ、母親ニハ何等ノ變化ヲ呈セズシテ、ソノ仔兔ニ白内障ヲ起シ、ソレガ雄性ヲ經テメンデル氏ノ劣性遺傳ヲ呈スルコトヲ證明セリ。而シテ、コノ抗「レンズ」血清ニヨル傷害ハ、只、生殖細胞ニ對シテノミ可能ナルコトハ實驗的ニ證明セラレタルコトナリ。

コノ實驗ニ關聯シテ考ヘラルルコトハ、人類ノ酒精、ソノ他ノ嗜好品トシテ長年月用ヒラルル毒物ノ影響ノ遺傳ナリ。コレニ關シテネーグラー氏⁽²⁾ハ酒精、ソノ他ノ惡影響ノ如キハ、高高、三、四代ノ後ニハ解消サレルコトヲモーリビ⁽³⁾市ノ或ル學者ノ家系ニテ祖先ニ大酒家ヲ持タルモノノ例ヲ引キテ敘述セリ。

環境ノ影響ガ相當、幾世代ヲ通ジテ子孫ニ傳ヘラルルコトハ、高等植物ナドニテモ見ラルルコトナリ⁽⁴⁾。(エンゲル氏⁽⁵⁾)。

突然變異⁽⁶⁾ 遺傳型異常⁽⁷⁾

ド、フリース氏⁽⁸⁾ガ「おほまつよいぐさ」⁽⁹⁾ニ就テ、初メテ見タル突然變異ノ現象ハ、ソノ後植物界ノミナラズ、動物界ニ於テモ證明セラレタリ。ミュルレル⁽¹⁰⁾及ビアルテンベルグ氏⁽¹¹⁾ハ猩猩蠅⁽¹²⁾ノ染色體ニ就テ、コノ突然變異ノ機構

- (1) Naegeli (2) K. H. Bauer, Schinz u. Buschke (3) Fischer-Vasel, Gruber, Heidenhain (4) H. Auler, Konstitution und Gewächse: in Konstitutions- und Erbbiologie. Herausgegeben von W. Jaensch. Leipzig. 1934. S. 99. 參照 (5) Bauer, Konstitutionelle Disposition zu inneren Krankheiten. III. Auflage. Springer 1924. (6) T. Komai, Contribution to the Genetics of the Japanese Race. I. Pedigrees of Hereditary Disease and Abnormalities found in Japanese Race. Kyoto. 1934. (7) 駒井卓. 日本人ノ遺傳. 東京養賢堂發行. 1934. (8) Epidermolysis bullosa (9) Ichthiosis vulgaris (10) Alopecia congenita (11) Hare-Lip (12) Arachnodactyly (13) Multiple exostosis (14) Amaurotic idiocy (15) Otosclerosis (16) Hereditary spastic spinal paralysis (17) Naegeli, Klinische Erbbiologie innerer und Nervenkrankheiten. Verhandlungen der deutschen Gesellschaft für innere Medizin 46. Kongress, Wiesbaden. 1934, S. 54

ヲ詳細ニ研究シタリ。(第八章參照)。ド、フリース氏ハ突然變異ノ現象ヲ生物進化ノ重要ナル原因トナセルガ、醫學ノ方面ニ於テハネーグラー氏⁽¹⁾ガソノ體質學上重要ナル意義ヲ有スルコトヲ強調セルアリ。氏ハ氏ノ最得意トスル血液學ノ方面ニ於テモ、血友病、溶血性貧血症、ソノ他、數種ノ遺傳性疾患ヲ以テ、突然變異ニ依テ起リ、遺傳形質ニ數ヘラルベキ疾患ナリトセリ。近來ハ惡性腫瘤⁽²⁾ナドヲモ、突然變異ヲ以テ説明セントスル學者アリ⁽³⁾。又、コレニ對シテ懷疑的若クハ否定的立場ニ立テル學者アリ⁽⁴⁾。

遺傳性疾患。人類ノ疾病中ニテ直接遺傳セラレ、若シクハソノ素地ヲ遺傳スルモノトシテ舉ゲラレタル疾患ノ種類ハ、非常ニ多數ニ上ホレリ。タトヘバ、内科方面ニテモ一度、バウエル氏⁽⁵⁾ノ著書ヲ繙クトキハ、ソコニハ多數ノ種類ガ掲載セラルルヲ見ルベシ。本邦ニ於ケル遺傳的疾患ノ貴重ナル文獻ハ、最近、駒井卓⁽⁶⁾氏ニ依テ公ニセラレシガ、ソコニハ七十四種目ノ遺傳性ノ疾患若シクハ畸形ニ關スル諸家ノ報告ノ實例ガ分類シテ掲載セラレ、且、多數ノ家系圖ガ示サレタリ。即、皮膚疾患ニテハ上皮下水疱症⁽⁷⁾、尋常性魚鱗症⁽⁸⁾、先天性禿髮症⁽⁹⁾等、十三種、齒顎唇等ニテハ兔唇⁽¹⁰⁾等三種、骨格系統ニテハ蜘蛛狀指趾⁽¹¹⁾、多發性贅骨腫⁽¹²⁾等五種、内臓ニテハ内臓倒錯症、先天性心臟病、糖尿病、溶血性黄疸、氣管枝喘息、アルギー性疾患等、八種目、眼耳等ニテハ斜視、青色鞏膜、綠内障、近視、色素性網膜炎、小口氏病、黒内障性痴呆⁽¹³⁾、中耳硬化症⁽¹⁴⁾等、三十三種、筋肉、神經系統ニテハ進行性筋性筋萎縮症、トムセン氏病、先天性萎縮性脊椎麻痺⁽¹⁵⁾、結節性腦硬化症等十二種目ガ掲ゲラレタリ。以上ノモノヲバ病名別ニスレバ更ニ多數トナル。若、各種ノ成書ヲ漁ツテ從來、遺傳的疾患ト見做サレタルモノヲ數フレバ非常ナル多數ニ上ボルナラム。昨年ノ獨逸内科學會宿題報告ニ於テネーグラー氏⁽¹⁶⁾ハ内科及ビ神經系ノ遺傳性疾患ニ就テ述ベタリ。右ノ各種疾病ノ中ニハ嚴格ニ見テ遺傳的疾患ニアザルモノモアリ、又ハ單ニ素地ノミヲ遺傳スルモノモアリ。或ハ幾種カノ疾患ニ共

第一表 (Borchardt 氏ニ據ル)

優性遺傳 Dominant	劣性遺傳 Rezessiv	伴性遺傳 Geschlechtsge koppelt-rezessiv
	感覺器 Sinnesorgane	
Hemeralopie 夜盲症	Tagblindheit 日盲症	Netzhautatrophie 網膜萎縮
Myopie 近視	(totale Farbenblindheit) 全色盲	Rotgrünblindheit 紅綠色盲
Hyperopie 遠視	症	Erb. Sehnervenatrophie 遺傳性視神經萎縮
Distichiasis 睫毛重生	Retinitis pigmentosa 色素性網膜炎	Albinismus des Auges mit Nystagmus 眼震盪症ヲ伴ヘル白子
Erb. Ophthalmoplegie 遺傳性眼筋麻痺	Makulaverödung 黃斑荒廢症	Nachtblindheit mit Myopie 近視ヲ伴ヘル夜盲
Coloboma n. opt. 視神經缺損症	Allg. Albinismus 全身性白子	
„ iridis 虹彩缺損症	Erb. Taubheit und Taubstummheit 遺傳性聾啞ニ聾啞	
Iridermia 虹彩缺乏	Otosklerose 耳硬化症	
Ectopia lentis 水晶體轉位		
Angeb. juven. u. Altersstar 先天性弱年性及老年性白內障		
Erb. Hornhauttrübung 遺傳性角膜濁濁		
Glaukom 綠內障		
Erb. Nystagmus mit Kopfwackeln. 頭部動搖ヲ伴ヘル遺傳性眼球震盪症		
Ptosis 眼瞼下垂症		
Astigmatismus 亂視		
Labyrinthschwerhörigkeit 迷路重聽		
	神經系 Nervensystem	
Erb. spast. Spinalparalyse 遺傳性痙攣性脊髓麻痺	Friedreichsche Ataxie フリードライビ氏失調症	Progress. neurot. Muskelatrophie 進行性神經性筋萎縮症
Erb. zerebell. Ataxie 遺傳性小腦性失調症	Myklonusepilepsie 間代性筋肉痙攣性癲癇	
Progr. Muskelatrophie 進行性筋肉萎縮症	Amaurotische Idiotie 黑內障性白痴	
Huntingtonsche Chorea ハンチングトン氏舞蹈病	Myopathische Muskelatrophie 筋病性筋萎縮症	
Thomsensche Krankheit トムセン氏病	Spinale Muskelatrophie 脊髄性筋萎縮症	
Fam. periodische Myoplenie 家族性、週期性筋麻痺	Fortschreitende spast. Paraplegie 進行性痙攣性麻痺症	
Erb. Tremor 遺傳性震顫		
Neurofibromatose 神經纖維腫症		
Angioneurot. Oedem 血管神經症性浮腫		
Migräne 偏頭痛		

第一圖



同胞五名ニ發病セル進行性筋性筋萎縮症(自家實驗例)

通性ノ素地ヲ遺傳スルモノアリ。タトヘバ、糖尿病・肥胖病・痛風・動脈硬化等ハ同一家系ニ頻發スト稱セラル。胃癌・胃潰瘍・慢性胃消化不良・胃神經症等ガ同一ノ家系ニ發現スルノミナラズ、氣管枝喘息・偏頭痛等ノ所謂アレルギー性疾患トモ、植物神經ヲ通シテ共通ノ素地ヲナセルヲ認ム。

從來報告セラレタル遺傳性疾患ノ家系圖ニ於テ、明カニメンデル氏ノ優性遺傳ノ法則ニ從ツテ、親子相嗣デ一定ノ數的割合ニ發病スルモノ甚、多シ。コレニ次テハ、劣性遺傳ノ形式ニ從ヒ、數、傍系ニ或ハ一代隔テテ發病シテ看過サレ易キモノモアリ。劣性遺傳性疾患ニテハ數、兩親ガ外觀健康ニシテ、同胞數名ガ發病シテ、恰、遺傳的素因ニ依ラズシテ環境・榮養等ノ外的原因ニ因ルモノカト疑ハシムルモノアリ。第一圖ハコノ種ノ遺傳性疾患ニ屬スルモノニシテ、同胞七名中、五名ノ男子ノミニ發病シタル進行性筋性筋萎縮症患者ナリ。彼等ノ兩親ハ健康ナリ。血友病ハ第三ノ遺傳形式タル伴性遺傳ノ最、著シキ例ニシテ、女性ヲ介シテ遺傳シ、多クハ男子ニ發病ス。一般ニ性ニ隨伴セル遺傳病ニテハ劣性遺傳ノ多キコトハ、性ヲ決定スル染色體ハ二十四個中一個ノミ存スルモノニシテ、今X

- (6) Polyphämie
 (7) L. Borchardt, Klinische Konstitutionslehre. Berlin et Wien. 1930. S. 51.

- (1) 古屋芳雄, 人類遺傳學, 東京雄山閣發行, 昭和六年參照
 (2) M. Fischer
 (3) Gocht (4) Reichman
 (5) 勝沼精藏, 血液病ト體質, 稻田氏編 疾病治療ト體質, 東京 診斷と治療社發行, 昭和三年, 五三五頁

第二圖

Eineiige Zwillinge		Zweieiige Zwillinge	
Blutgruppen: 100:0		Blutgruppen: 64:36	
Tuberculum Carabelli: 99:1		Tuberculum Carabelli: 47:53	
Quant Wert d Fingerleisten: 88:12	Gleichheit	Quant Wert d Fingerleisten: 13:87	
Schwachsinn: 88:12	Ungleichheit	Schwachsinn: 7:93	
Schizophrenie: 75:25		Schizophrenie: 0:100	
Kriminalität: 70:30		Kriminalität: 32:68	
Tuberculose: 70:30		Tuberculose: 25:75	
Scharlach: 59:41		Scharlach: 45:55	
Pneumonie: 25:75		Pneumonie: 18:82	
Masern: 96:4		Masern: 90:10	
Keuchhusten: 96:4		Keuchhusten: 87:13	

種々ノ程度ノ一致並ニ不一致ガ該當セル疾病若クハ目標ニ對スル遺傳並ニ環境ノ影響ヲ示ス(v. Verschuer ニ據ル)

ヲコノ場合ノ疾病ノ遺傳形質トスレバ、女性ノ性染色體ハX/Xナルガ、X'ガ劣性ナルガタメニ發病セズ。然ルニ男性ノ染色體ハX'YニシテX'ガ一個シカ含マレテ居ラザルガタメニ發病スルナリ。女性が發病スルタメニハX'Xナル性染色體ノ存在ヲ必要トス。今假リニ一ツノ社會ニ於ケル男子ノ患者ガ1/nノ割合ニ存在スルトスレバ、女子ノ患者ハ1/nノ割合、即、非常ニ稀ニシカ現ハレザルナリ。タトヘバ上述ノ血友病ニテハ主トシテ男性ニ發病スルモノナルモ、稀ナル例トシテ、フヰル⁽²⁾、ゴボト⁽³⁾、ライピマン⁽⁴⁾等諸氏ニ依ツテ確實ナル女子ニ於ケル發病ガ報告セラレタリ(勝沼氏⁽⁵⁾ニ據ル)。

性ニ隨伴スル優性遺傳病ノ存在ハ確實ニハ證明セラレズ。男性若シクハ女性ノミニ發病シテ性ニ制限セラルル遺傳病ノ多クハ性器ニ關係セリ。多型性遺傳⁽⁶⁾トイフモノアリ。コレハ一個ノ遺傳因子ニ原因シナガラ、現象型的ニ異ナル多クノ症狀ヲ呈スルモノナリ。タトヘバ劣性ノ性ニ隨伴スル夜盲症ハ多クハ近視症ヲ伴フ。全身性白子ハ殆、必、視力障礙ヲ伴フモノトス。第一表ハホルバルト氏ノ著書⁽⁷⁾ニ據レルモノニシテ

皮膚 Haut

- | | | |
|---------------------------------------|---|---|
| Epidermolysis bullosa simpl. 單純性表皮水疱症 | Allg. Albinismus 全身性白子 | Bullöse Dystrophie 水疱症性榮養不良 |
| Keratosis palm. et plant. 手掌及足蹠角化症 | Epidermolysis bullosa dystrophica 榮養不良性表皮水疱症 | Anidrosis mit Hypotrichosis 毛生不全ヲ伴ヘル發汗減少症 |
| Porokeratosis 汗腺孔角化症 | Xeroderma pigmentosum 色素性乾皮症 | Keratosis follicularis (Typ. Laméris-Siemens) 脂腺口角化症(デメリス-ジューメンス氏型) |
| Atherome 粉瘤 | Ichtyosis congenita (nur die schwereren Formen) 先天性魚鱗癬(唯、重症ノモノノミ) | Albinismus localisatus 限局性白皮病 |
| Hypertrichosis 毛髮過多症 | Hydroa aestivale 夏期水疱 | |
| Hyperkeratosis unguinum 爪過角化症 | | |
| Anonychie u. Leukonychie 先天性無爪症及白爪病 | | |
| Epheliden 夏日斑 | | |
| Hyperidrosis 發汗過多 | | |
| Xanthomatose 黃色腫症 | | |
| Mult. Teleangiectasien 多發性毛細管擴張症 | | |
| Ertl. chron. Trophödem 遺傳性慢性榮養性浮腫 | | |
| Ichthyosis vulgaris 尋常性魚鱗癬 | | |

其他 Sonstiges

- | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|----------------|
| Zystinurie チスチン尿症 | Chondroaplasie 軟骨缺損症 | Hämophilie 血友病 |
| Fam. Hypospadie 家族性尿道下裂 | Mikrocephalie 小頭顱 | |
| Eunuchoidismus 類宦症 | Angeb. Hüftverrenkung 先天性股關節脫臼 | |
| Ertl. Diabetes insipidus 遺傳性尿崩症 | Klumpfuß 內翻足 | |
| Polydaktylie 指趾過多 | Perniziöse Anämie 惡性貧血 | |
| Syndaktylie 指趾癒著 | Alkaptonurien アルカプトン尿 | |
| Brachydaktylie 短指畸形 | | |
| Ankylose der Fingergelenke 指關節強直 | | |
| Mult. kartil. Exostosen 多發性軟骨性外骨腫 | | |
| Dupuytren'sche Kontraktur づデュイトラン氏攣縮 | | |
| Osteopsatyrosis 骨質脆弱 | | |
| Kniescheibenmangel 膝蓋骨缺損 | | |
| Hasenscharte 兔唇 | | |
| Progenie 下顎突出 | | |
| Spaltfuß 裂足症 | | |
| Hallux valgus 內翻趾 | | |
| Trichterbrust 漏斗胸 | | |
| Asthenie 衰弱 | | |
| Fam. hämolyt. Ikterus 家族性溶血性黃疸 | | |

- (1) v. Verschuer, Allgem. Erbpathologie. Verhandlungen der deutschen Gesellschaft f. innere Medizin. 48. Kongress. 1934. S. 35.

- (2) Somatoskopie
- (3) Somatometrie

- (4) Körperhaltung
- (5) Komplexion
- (6) Lloyd T. Brown

主ナル遺傳性疾患トソノ遺傳形式ヲ示シタルモノナリ。
人類ニ於ケル遺傳ノ問題ハ、近來、雙生兒ニ就テノ觀察ノ統計的研究ガ進ムニ從ツテ餘程明瞭トナレリ。第二圖ハ
ズルシール氏⁽¹⁾ニ據レルモノニシテ、血液型、ソノ他、數種ノ疾患ノ遺傳性ノ純度ガ、一卵性雙生兒ト二卵性雙生
兒トノ間ノ一致度ノ比較ニ依リテ極メテ明確ニ示サレタリ。

第二章 體形的検査法並ニ體型

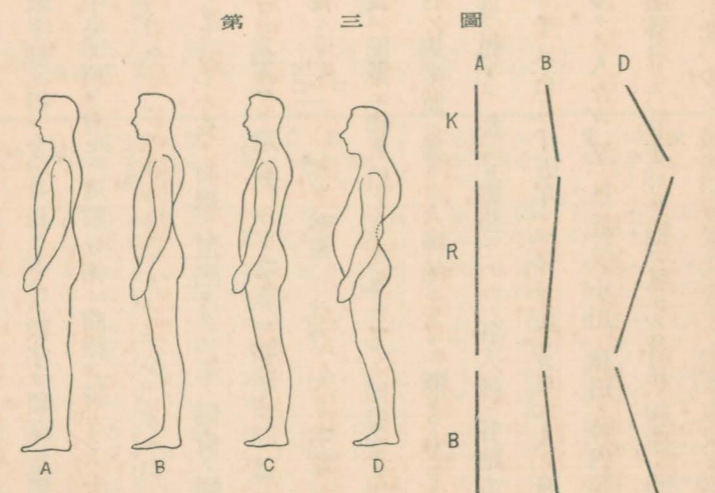
體形ハ最、多ク遺傳範型ニ影響セラルルトコロノ現象型ノ一ニシテ、スベテノ體質學者ヨリ重要視セラレ、從ツテ最、深
ク且、廣ク研究セラレタリ。

體形ノ研究ニハ、主トシテ二ツノ方法ガ用ヒラレル。一ハ身體望診法⁽²⁾ニシテ、他ハ身體計測法⁽³⁾ナリ。身體望診法ハ檢
者ノ視覺ニ依ル検査法ニシテ、吾人ノ視覺ガ極メテ微妙ナル相異ヲモクク識別シ得ルコトハ、百人千人ノ顔貌ヲモ夫々
區別シ得ルコトニヨリテモ明カナルガ、時トシテ主觀ニ流レ、且、錯誤ニ陥ルノ缺點アルノミナラズ、コノ方法ニ依リ多數ノ被
檢者ヲ、全ク客觀的ニ且、數量的ニ比較分類スルコトハ困難ナルノ缺點アリ。コノ點ハ計器ヲ用ヒテ行フ身體計測法ノ
ミガ能クストコロナリ。

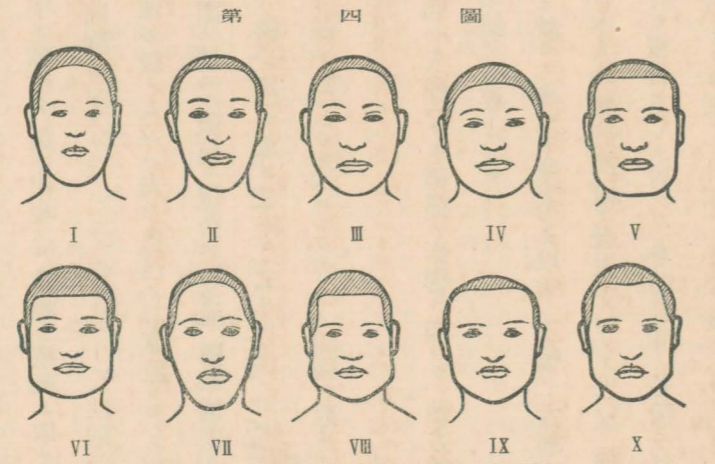
身體望診法ニ於テハ姿勢⁽⁴⁾、皮膚・皮下脂肪・筋肉・顔貌⁽⁵⁾（顔色・頭髮・眼色、ソノ他ヲ含ム）、頭形・顔形・口腔・
舌・頸・胸形・背部・腹・腰・性器・四肢等ガ注意セラルルコト、内科的診察ニ於ケルト異ナルトコロナシ。而シテ、コレヲ綜
合シタルモノガ體型トシテ分類セラルルナリ（後述）。

姿勢ニ就テハブラウン氏⁽⁶⁾ノA、B、C、D型ノ分類ガ極メテ巧妙ニシテ、一般ニ引用セラル（第二圖）。顔形ニ就テ

- (1) Martin
- (2) Kretschmer
- (3) Pösch u. E. Birbach
- (4) Burgsch: Die Lehre von der Konstitution, Jena. 1934. S. 30 =據ル
- (5) Anthropometer



若年者ノ姿勢型; Brown 氏ノ模式圖
A, B 及 D 姿勢型ノ模式圖 (Rohden =據ル)



Pösch 氏ノ顔形; E. Birnbach 氏ノ模式圖
I 橢圓形、II 卵形、III 倒卵形、IV 圓形、V 方形、
VI 四角形、VII 菱形、VIII 楕形、IX 倒楕形、X 五角形
(Brugsch =據ル)

ハマルデン氏⁽¹⁾ハコレヲ人類學的觀察點ヨリ論ツテ居リ、クレツデメル氏⁽²⁾ハ氣質ト關聯シテ觀察シタリ。學者ニ依
ツテ多少ノ意見ノ相違ハ免レズ。茲ニハベツビ及ビビルバツ⁽³⁾ハ兩氏⁽³⁾ノI—Xノ顔形ヲ圖示ス（第四圖）⁽⁴⁾。
身體ノ計測ニハ今日、殆、一般的ニ、マルデン氏ガ人類學的研究ニ考案シタル人體測定器⁽⁵⁾ガ用ヒラル。コレハ身

第二表

(日置陸奥夫、親部之道。體質ニ關スル研究。第一編。成人體格ニ就テ。十全會雜誌。第三十八卷。第十三號。昭8年12月。3969頁)

21-30歳

Table with 7 columns: 種目, 性, 人員N, 中央値Mi, 算術平均及其平均誤差M±Em, 變差範圍極大(變差)極小Mx(V)Mn, 標準誤差及其標準誤差σ±Eσ, 變差係數及其標準誤差V±Ev. Rows include 體重, 身長, 軀幹前壁ノ高さ, 坐高, 指極, アクロミオン間幅, 胸廓最大幅, 胸圍, 腕ノ長さ, 前膊ノ長さ, 前最大膊圍, 手ノ長さ, 前腸骨棘ノ高さ, 膝關節ノ高さ, 下腿ノ長さ, 足ノ長さ, 上腿最大圍, 水平頭圍, 頭圍.

- (13) Baelz: Mitteil. d. deutsch. Gesellschaft f. Natur- u. Völkerkunde Ostasiens. Bd. 4. H. 4. 1885
(14) 文獻日置氏ニアリ
(15) 日置陸奥夫其他。體質ニ關スル研究第一乃至第三篇。十全會雜誌第三八卷。第十三號(昭和八年十二月)及ビ第三十九卷。第二號(昭和九年二月)
(1) Anthropometer (2) Stangenzirkel (3) Tasterzirkel (4) Bandmass
(5) Rudolf Martin: Lehrbuch der Anthropologie. I. Aufl. I. Bd. 1928. Jena
本計測器ノ使用法ハ吉田章信體力測定。藤井書店發行及ビ上掲古屋氏著書ナドニモ記述セラル
(6) Binomiale Kurve (7) Kaup (8) Günther (9) Rautmann (10) Rössle (11) Borchardt (12) Norm

體計(1)測臂(2)測計器(3)卷尺(4)等ヨリ成レリ。コレニ體重測定用ノ秤ヲ備フレバ、特殊ノ目的以外ノ大概ノ用ヲ辨ズ(秤以外ハ携帶ニ便ナル手頃ノ箱ニ藏メラル)。

計測ノ細目ハ全身ニ互レリ。ソノ一々ノ記載ハ成書(5)ニ讓ル。多數ノ人ニ就テ計測ヲ行ヒ、ソノ一種目、例之、身長ニ就テハ、大多數ノ人ハ大凡、一致セル身長ヲ有シ、コレヲ中心トシテ上下ニ次第二頻出度數ノ減少ヲ致セル一連ノ數字群ヲ得。今、身長ヲ表ハス數字ヲ順序ニ横軸ニ、各數字ノ被檢人員ニ出現スル度數ヲ縱軸ニ取ルトキハ、大凡、中央ニ頂ヲ有セル度數分佈ノ曲線ヲ得、コレハ大凡ニ項式曲線(6)ヲ呈スルモノニシテ(ケトラー氏法則)、カウプ(7)、ギンテル(8)、ラウトマン(9)、レツスシ(10)、ボルバルト(11)、ソノ他多數ノ人々ハ夫々自己ノ計測値ヨリシテ規準値(12)ヲ定メタリ。ソレハ右ノ曲線ノ頂點ヨリ一定ノ偏倚ノ幅ヲ取ツタ範圍ニ屬スル數値ヲ包含ス。普通、標準偏差σ = sqrt(1/n * sum((Pi - M)^2)) (P = 各級ノ變數、e = 各級ノ算術平均Mトノ差、n = 檢人員)ヲ求メM ± σ (M = (V1P1 + V2P2 + VnPs...)/n) 或ハ、ZVP、V = 各級ノ大サ、P = 各級ノ變數、n = 檢人員)ニテ現ハサレタルモノノ範圍ヲ取ル。ボルバルト氏ハ簡單ニ總人員ノ九十五%マデノ偏倚度ヲ規準値ニ入レタリ。

右ノ規準値ハ素ヨリ人種ノ大ナル開キヲ呈スルモノナルガ、同一人種ニテモ種種ノ影響ニ因ツテ、地方的ニ多少ノ相違ヲ免レズ。從ツテ嚴格ニ云ヘバ各人種ノ各地方、夫々規準値ヲ必要トスルナリ。

一千八百八十五年、ベルツ氏(13)ガ日本人ノ身體的特徵ニ就テノ論文ヲ發表シテ以來、三輪(14)古瀬、吉田、ソノ他多クノ人々ガ、又、最近ニハ小川、秋田、竹内等ノ諸氏ガ日本人身體計測値ヲ發表セルモノアリ。又、内務省、陸軍省等ヨリモ、壯丁、ソノ他ニ就テノ身長、胸圍、體重等ノ統計ガ報告セラレテ居ルガ、身體計測ノ各種ニ互ツテ行ヘルモノハ甚、少シ。最近、日置氏等(15)ハ金澤市及ビ附近住民ニ就テノ詳細ナル計測ノ結果ヲ發表シタリ。ソノ中ノ一部分

(3) Typus cerebrialis

(2) Sigaud(1904)

(1) 吉田章信: 體育衛生統計類纂 診斷と治療社發行. 昭和四年.

第四表 日本人壯丁身長別ローレル身體充實指數表

身長階級 cm.	員數	平均*	最大—最小	標準偏差	偏差係數	確率誤差
151	165	134.1	100—179	12.62	9.41	±0.663
152	172	132.9	102—158	11.25	8.46	±0.578
153	200	134.1	109—163	11.60	8.05	±0.553
154	260	131.4	103—169	10.37	7.89	±0.432
155	351	130.9	100—177	11.05	8.44	±0.397
156	295	129.5	98—164	10.75	8.30	±0.420
157	381	127.4	96—167	11.22	8.81	±0.387
158	531	127.3	93—175	11.43	8.98	±0.334
159	366	126.0	101—187	11.94	9.48	±0.421
160	413	124.9	95—170	11.72	9.38	±0.389
161	418	124.1	99—165	11.17	9.00	±0.368
162	556	123.5	93—179	11.29	9.14	±0.322
163	349	123.3	92—194	11.98	9.72	±0.432
164	360	122.6	93—163	10.63	8.67	±0.378
165	342	119.8	91—195	11.93	9.96	±0.435
166	211	118.9	94—173	11.75	9.88	±0.545
167	212	118.6	92—162	11.48	9.68	±0.531
168	220	117.5	87—167	12.17	10.35	±0.553
169	134	116.7	93—164	12.42	10.64	±0.723
170	105	114.2	93—148	10.18	9.70	±0.670
計	6244	—	—	—	—	—

* 此表デハ普通ニ掲ゲラル値ニ 100 ヲ乘ジタ値ガ掲ゲラレテ居ル

ノ計測値並ニ相關數ヲ示セバ第二表ノ如シ。コノ成績ヲバ日本人全般ニ及ボスコト能ハズトシテモ、コレヲ以テ大概ノ値ヲ知ルコトヲ得ベシ。第三表及ビ第四表ハ吉田氏⁽¹⁾ニ據レルモノニシテ、日本人壯丁ノ身長別ノ平均體重及ビローレル氏指數ヲ示セルモノナリ。

體型ノ分類

望診ト計測ノ兩方面ヨリノ結果ヲ綜合スレバ、比較的誤ラザル體形ニ就テノ判斷ガ得ラルベシ。正常人體型ノ分類ヲ比較的早ク行ヒタルハ佛國ノシガウ氏⁽²⁾ニシテ、ソノ後、多數ノ學者ハ夫々自己ノ主張ニ基ツキタル體型ノ分類ヲ發表セルガ、ソコニハ比較的簡明ニ且、種々ノ條件ヲ滿サントスル學者ノ苦心ノ跡ガ窺ハレル。左ニソノ二三ヲ舉グレバ、シガウ氏ハ四種ノ基本體型ヲ掲ゲタリ(第五圖)。

一、腦型⁽³⁾ 頭腦ガ比較的大キク、コレニ比シテ

體形的検査法並ニ體型

體質論

形態學的 顔面高	男女	232 110	11.2 10.2	11.7±0.031 10.7±0.040	13.4(3.4) 12.0(2.3)	10.0 9.7	0.71±0.022 0.64±0.029	6.06±0.188 5.94±0.276
額骨弓ノ 幅	男女	232 110	11.6 10.5	12.1±0.050 11.1±0.075	15.4(5.6) 14.1(4.8)	9.8 9.3	1.14±0.035 1.18±0.054	9.43±0.220 10.63±0.494
鼻ノ長サ	男女	232 110	4.39 4.03	4.44±0.142 4.10±0.207	5.5(2.0) 5.0(1.6)	3.5 3.4	0.32±0.010 0.32±0.015	7.30±0.227 7.90±0.365
充實指數	男女	232 110	1.23 1.39	1.28±0.007 1.41±0.008	2.00(1.00) 1.76(0.67)	1.00 1.09	0.15±0.005 0.13±0.006	11.38±0.371 9.76±0.452
指極對身 長ノ比	男女	232 110	101.0 100.2	101.6±0.122 100.7±0.174	111.0(17.8) 109.9(17.7)	93.2 92.2	2.79±0.086 2.72±0.125	2.74±0.085 2.70±0.124
軀幹長對 身長ノ比	男女	232 110	30.9 31.2	31.7±0.085 31.7±0.129	38.7(10.7) 39.3(12.6)	28.0 26.7	1.94±0.060 2.02±0.092	6.12±0.190 6.37±0.294
胸圍對身 長ノ比	男女	232 110	51.0 52.2	51.8±0.113 52.8±0.182	60.1(15.1) 61.3(14.5)	45.0 46.8	2.58±0.079 2.85±0.131	4.97±0.154 5.39±0.248
胸圍對軀 幹長ノ比	男女	232 110	162.3 163.5	165.2±0.601 166.5±0.710	205.4(76.4) 191.7(47.7)	129.8 144.0	13.68±0.424 11.10±0.510	8.28±0.261 6.60±0.305
身長ヲ充ス ニ足ル頭蓋 長數	男女	232 110	68.0 65.6	68.7±0.130 66.2±0.163	7.66(16.3) 7.15(10.3)	6.03 6.12	2.96±0.091 2.56±0.117	4.31±0.133 3.86±0.177
形態學的 顔面指數	男女	232 110	92.9 97.2	95.4±0.427 97.3±0.618	127.5(53.5) 122.5(45.1)	74.0 77.4	9.72±0.301 9.67±0.444	10.18±0.318 9.93±0.461

第三表 日本人壯丁身長一センチメートル別平均體重表

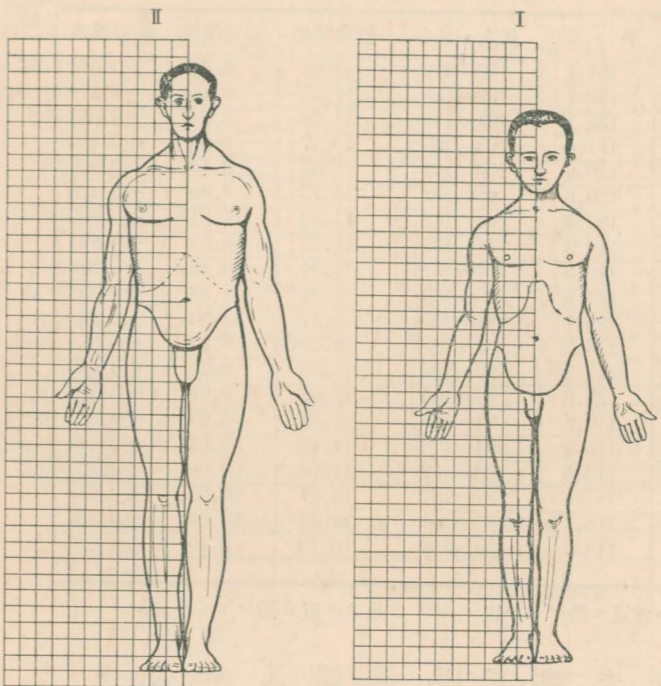
身長階級 cm.	員數	平均體重 kg	最小—最大	標準偏差	偏差係數	確率誤差	身長一 種ニヨル 體重ノ差
151	165	46.1	34.5—61.1	4.319	9.362	±0.2267	—
152	172	46.7	35.8—54.9	3.954	8.469	±0.2035	+ 6.6
153	200	48.1	39.2—58.3	4.127	8.579	±0.1969	+ 0.4
154	261	47.9	37.9—62.1	3.788	7.910	±0.1582	- 0.2
155	351	48.8	36.8—65.3	4.032	8.268	±0.1452	+ 0.9
156	297	49.3	37.5—62.1	4.096	8.310	±0.1603	+ 0.5
157	382	49.2	34.1—64.5	4.394	8.929	±0.1517	- 0.1
158	531	50.3	37.1—69.8	4.505	8.953	±0.1319	+ 1.1
159	366	50.9	40.5—74.6	4.862	9.555	±0.1714	+ 0.6
160	413	51.2	38.5—69.8	4.841	9.450	±0.1609	+ 0.3
161	418	51.7	41.1—68.8	4.623	8.943	±0.1526	+ 0.5
162	557	52.1	39.5—75.9	4.792	9.192	±0.1369	+ 0.4
163	349	53.3	39.8—83.4	5.158	9.672	±0.1863	+ 0.2
164	360	53.9	41.3—71.3	4.727	8.767	±0.1681	+ 0.6
165	342	54.1	41.3—88.5	5.363	9.919	±0.1956	+ 0.2
166	211	54.4	42.8—79.2	5.153	9.465	±0.2394	+ 0.3
167	212	55.2	42.8—75.6	5.419	9.811	±0.2509	+ 0.8
168	220	55.7	40.7—78.8	5.705	10.251	±0.2595	+ 0.5
169	134	56.4	44.6—78.7	5.962	10.568	±0.3476	+ 0.7
170	105	56.1	45.6—72.4	5.088	9.067	±0.3349	- 0.3
計	6046	—	—	—	—	—	+ 0.5

- (1) Typus respiratorius
- (2) Typus digestivus
- (3) Typus muscularis
- (4) Kretschmer
- (5) Leptosomer Typus
- (6) Athletischer Typus
- (7) Pyknischer Typus

- (8) Giosvanni
- (9) Viola
- (10) Pende

體軀ハ細シ。四肢及ビ筋肉ノ發育ハ不良ナリ。
 二、呼吸型⁽¹⁾ 軀幹細長ニシテ、上腹角ハ銳角ヲナス、顔面中央部ノ發育著シ。
 三、消化型⁽²⁾ 顔面下部ノ發育良ニシテ、軀幹ハ短ク太ク、腹部ノ發育ト脂肪ノ沈著ガ良、上腹角ハ鈍角ヲナス。
 四、筋型⁽³⁾ 一見、筋骨ノ逞シキ、四肢ノ發育良好ニシテ、四角ナル頭ヲ呈セリ。

四體型ノ分類



呼吸型
=據ル)

腦型

クレツタメル氏⁽⁴⁾ハ纖維細型⁽⁵⁾シ
 ガウ氏ノ呼吸型ニ近シ、力士
 型⁽⁶⁾シガウ氏ノ筋型ニ相當ス、
 肥滿型⁽⁷⁾シガウ氏ノ消化型ニ
 相當スヲ區分セリ。氏ハ氣質・性
 格等ト體型トヲ結び付ケタル關係
 上、頭蓋・顔面ノ形ヲ詳細ニ論ッ
 タリ。

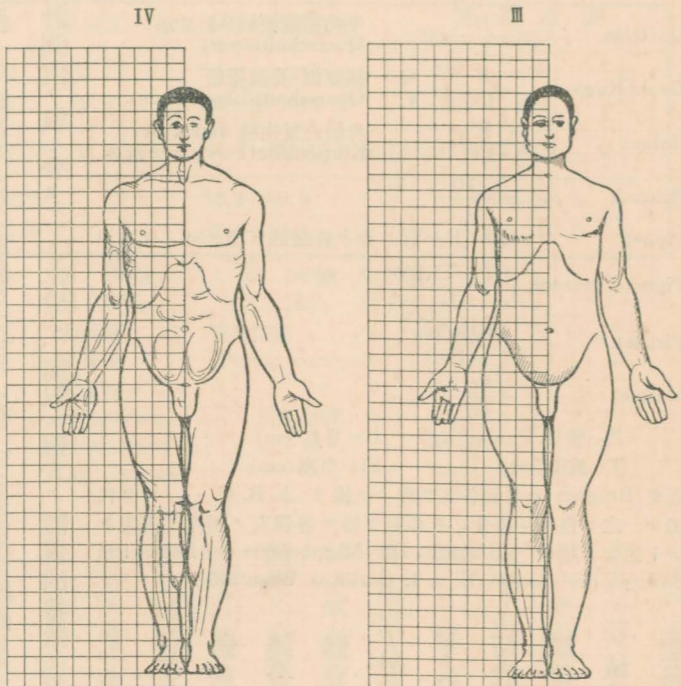
伊太利ノジラヴンニー⁽⁸⁾、ヴィオ
 プ⁽⁹⁾、ペンデ⁽¹⁰⁾等ノ一派ハ大ニ身
 體計測ヲ行ヒ根本的ニ體型ノ分
 類ヲ論ゼリ。即、比較的全身ノ平
 衡ヲ得タル發育ヲ呈セルモノヲ規準

- (1) Normotypus
- (2) Mikrosplanchniker
- (3) Longiltypiker
- (4) Makro- od. Megalosplanchniker
- (5) Brachytypiker

- (6) Vegetatives System
- (7) Animalischer System

- (8) 上掲
- (9) Weidenreich
- (10) Eurysumer
- (11) Leptosomer
- (12) Pykniker

第五圖



消化型 (Bauer)

筋型

型⁽¹⁾、兩極ニ軀幹ノ細長ク(小腹
 型⁽²⁾)四肢ノ長キモノ(長型⁽³⁾)ト、短
 大ナル軀幹(大腹型⁽⁴⁾)ト短キ四
 肢トヲ有セルモノ(短型⁽⁵⁾)トヲ區
 別セリ。規準型ハ身長一・六八メ
 ートルニシテ五六%、大腹型ハ二
 一・五%、小腹型ハ二二%ヲ占
 メタリ。シカシ、右ノ分類ニ適合スル
 ハスベテノ人ノ五〇%ニ過ギズ、殘
 餘ノ五〇%ハ不純混合型ナリト
 云フ。氏等ハ身體計測ニ端ヲ發シ、
 コレニ發生學的考察ヲ加味シテ、
 植物系統⁽⁶⁾ト動物系統⁽⁷⁾トノ發生

學的拮抗的位置ニ著眼シ、前者ハ發生學的ニ古クシテ、後者ハ新シキコトヨリ、植物系統ノ發育良好ナル大腹型ヨリ
 ハ、動物系統ノ發育セル小腹型(長型)ノ方ガ高等ノ體型ナリトシタリ。
 日置氏⁽⁸⁾ハワイデンライビ氏⁽⁹⁾ノ廣身型⁽¹⁰⁾、狹長型⁽¹¹⁾トセル言葉ヲ以テ合理的ナリトシ、コレニ肥滿型⁽¹²⁾ヲ加ヘテ基本
 體型ヲ立テタリ。尙、コレニ形態學的顔面指數ヲ配シテ次ノ如キ體型ヲ區分シタリ。

- (4) Hauchmann (1) Pignet
- (5) Pignet Vervaeck (2) Rohrer
- (3) Index der Körperfülle

第五表 諸家ノ體質指數一覽

Quételet	$\frac{P}{L}$	平均横断面値(Q)ヲ示ス Querschnittswert
Gould-Kaup	$\frac{P}{L^2} = \frac{Q}{L}$	横断面-身長指數 Querschnitt-Längenindex
Rohrer	$\frac{P}{L^3}$	身體充實指數 Index der Körperfülle(Pハgニテ示ス)
Brugsch	$\frac{T \cdot 100}{L}$	
Pignet	$[L - (P+T)]$	全ク經驗的ニ得タモノデアアル
Pignet-Vervaeck	$\left[\frac{(P+T) \cdot 100}{L} \right]$	
Pirquet	$\frac{100^3 \sqrt{10p}}{Si}$	
Matinet	$\frac{L}{Tr}$	

P=體重 Pondus(kg) L=身長(cm)
T=胸圍(cm) Si=坐高(cm)

近來 Brugsch ハ身體各部ヲ現ハス値ヲ A. B. C. ...ニテ代表シ、之ヲ色々ニ組合シテ指數ヲ得テ各個人ノ體型ヲ表現セント企テ居ル (Brugsch: Die Morphologie der Person: in Biologie der Person. II. s. 1. Berlin u. Wien/1931.)

種ノ計測値ヲ組ミ合セルコトニ依リテ、簡單ニ個人ノ體質的特徵ヲ表ハサントスル企圖ガ種々ノ人々ニヨリ成サレタリ。第五表ハ夫等ノ主ナルモノヲ示セルモノナリ。コノ中ニテモ、ビネー氏⁽¹⁾ノ指數ハ經驗的ノ式ナルガ、體重・胸圍・身長ヲ包括シテ居リ、比較的實際ニ適合セルモノトセラル。ローレル氏⁽²⁾ノ指數モ亦、身體充實指數⁽³⁾トシテ、數、用ヒラル。正常成人(西洋人)ニアリテ1.10—1.90ノ間ニアリ、二十五歳ノ男ニテハ1.2—1.5ナリ。日置氏ハハウブマン氏⁽⁴⁾ノ所說ニ贊シテ、ビネー⁽¹⁾スル⁽⁵⁾ツクク氏⁽⁶⁾ノ指數ヲ一層優レタリトシ、氏等ノ計測成績ヨリシテ成年男女ノ値ヲ算出シタリ(第六表)。

體格榮養ノ判定ニ關シテハ第五表ニ掲ゲタルモノ

Pykniker mit Mesoprosopie Euryprosopie
Euryprosopie
Euryprosopie
Leptosomiker mit Mesoprosopie
Leptosomiker mit Mesoprosopie
Leptosomiker mit Leptoprosopie
Leptoprosopie

曩ニヘルツ氏ハ日本人ノ體型ニ長州型、薩摩型トヲ區分セルガ、日置氏ハ前者ヲ Leptosomiker mit Leptoprosopie ニ、後者ヲ Euryprosopie mit Euryprosopie ニ匹敵スルモノトナセリ。

- (4) Habitus(Asthenischer Habitus(Stiller); (1) 大串菊太郎: 體格榮養判定標準表並ニ原理. 大Pyknischer Habitus, Apoplektischer Habitus 大阪荒木伊兵衛書店. 大正十一年)
- (5) Paralytischer Thorax, Emphysematöser Thorax. (2) Rohden: Die Methoden der konstitutionellen Körperforschung. Abderhaldens Handbuch der biologischen Arbeitsmethoden. Bd. IX. Abt. 3. Heft 4. 1929 Tabelle 3 參照
- (3) Sigaud

第六表 日本人 Pignet-Vervaeck 指數(日置氏ニ據ル)

性	年齢	例數	中央値	算術平均士標準誤差	偏差範圍 極大 (變差) 極小
男	21—30	232	83.4	84.2±5.013	101 (28) 73
女	18—20	153	82.9	83.8±5.418	99 (27) 72
			$[M-2\alpha] - [M-0.42\alpha-0.1]$	$[M-0.42\alpha] - [M+0.42\alpha]$	$[M+0.42\alpha+0.1] - [M+2\alpha]$
男		74.2—82.0		82.1—86.3	86.4—94.2
女		72.9—81.4		81.5—86.1	86.2—94.7

身長 男 145種 女 140種 以下矮小
男 170,, 女 160,, 以上巨大

基本體型 肥滿型 體質指數 92.3以上
廣身型 (Pignet-Vervaeck) 82—92.2
狹身型 74—81.9

顔面型 Euryprosop. 顔面指數 84以下
Mesoprosop. 84—88
Leptoprosop. 88以上

ノ外ニ、國ニ依リ、學者ニ依リテ、指數計算式ノ公ニセラレタルモノ甚、多シ。コレ等ハ稍、古キ處ニテハ大串氏ノ著書⁽¹⁾中ニ概說セラレタリ。日本ニテモ遠藤、吉田、難波、三輪、木下、山下、川村、高橋、長谷川、圓治、平井、西脇、高田、ソノ他ノ諸氏ノコノ問題ヲ論ゼルモノアリ。大串氏ハ身長・胸圍・體重ヲ基本トシタル公式並ニコレヨリ算出シタル判定標準表ヲ公ニシテコノ問題ニツキ大ニ論議シタリ。

體型ノ分類ニ關スル學者ノ主張ハ種種ニシテ、ソノ命名⁽²⁾ノ如キハ甚、一致セザルガ、要スルニ、ソノ粗ヒドコロハ一ニシテ、細長纖弱ナル體型ト、廣身短太ナルモノトノ兩極ノ間ニ中間型ヲ考ヘテ、コレニ或學者ハ筋肉ノ相違ト脂肪肥滿ノ状態ナドヲ顧慮シテ特殊ノ型トナセルナリ。シガウ氏⁽³⁾ノ分類ハソノ命名ニヨリテ明カナルガ如ク、機能的ニ體型ヲ分類セントセルモノナルガ、近來ノ計測ヨリ出發スル學者ノ多クハコレヲ以テ嫌ラズトスルモノ多キガ如シ。右ノ如キ分類ノ著眼點ヨリシテ見レバ、ソノ極端ナルモノヲ捉ヘテ、主トシテ臨牀上ノ立場ヨリシテ命名シタル姿質⁽⁴⁾・胸型⁽⁵⁾等ノ或モノハ、純

- (1) Brugsch: Biologie der Person, 1931. S. 14 参照
- (2) 上掲
- (3) Sigaud
- (4) 角田眞一: 十全會雜誌. 第三十六卷, 昭和六年

- (5) 角田眞一: 兵員ニ於ケル軍陣人類學的研究, 金澤醫科大學解剖學教室業績第二十一冊. 昭和十一年三月
- (6) 長谷部言人: 壯丁ノ身長ヨリ見タル日本人ノ分佈, 東北醫學雜誌第二卷大正六年一五二頁

粹ナル臨牀的ノ習慣語ナルガ、又、嚴格ナル體型分類ノ用語ニ取り入レタルモノモアリ。ブルグシュ⁽¹⁾、ローデン氏⁽²⁾ノ掲ゲタル諸家ノ體型分類ノ一覽表ニ見ルモ、分類ニ關スル諸家ノ著眼點ガ大凡、一致シテ居ルコト明カニシテ、コレ等ハ體質學ガ更ニ發達シテ國際學會ナドガ成立シタル曉ニハ、當然統一サルベキモノナリ。

右ノ如キ次第ナルガ故ニ、日本人ノ體型ト雖、當然何レノ著書ノ分類法ニ從フモ、分類シ得ラルベキモノニシテ、タトヘバシガウ氏⁽³⁾ノ分類ニ就テハ、岡本氏ガ既ニソノ適用可能ナルコトヲ述ベ、氏ノ指導ニテ角田氏⁽⁴⁾ハ富山縣壯丁五二二九名ニ就テ、純型ノ分布ハ呼吸型二五・五%。筋型五〇・二%。消化型三・二%。腦型六・六%ナルコトヲ認メタリ。日置氏ハ上述ノ計測ヨリシテ、肥滿型ハ二十五乃至三十歳ノ男子二百三十二名中十一名(四・七%)ニ過ギズ、コレヲシガウ氏ノ消化型ニ匹敵スルモノトスレバ、前記角田氏ノ三・二%ニ比シテ極メテヨク一致セル成績ナルコトヲ知ル。日置氏ハ爾餘ノ三分ノ二ハ廣身型ニシテ、三分ノ一ハ狹身型ニ屬ストナセリ。氏等ノ計測人員中ニテ粗大型ト見做スベキモノ一例アリ。即、日本人ノ體型ハ肥滿型、甚、尠ク、廣身型ヘノ傾向ガ認メラルト云フ。

日本人ハ人種學的ニハ相當複雑ナル民族ノ混血ニ依テ成レルモノト云ハレテ居リ、日本國ノ地形モ南北ニ非常ニ狹長ナル點ヨリ考ヘテ、右ノ如キ體型ノ分布ハ地方的ニ餘程異ナルモノナラム。コレハベルツ氏ガ長州型・薩摩型ト云フ如キ地方名ヲ以テ體型ノ特徵ヲ現ハセシコトナドヨリモ、首肯セラルベシ。因ミニ日置氏ノ計測ノ偏差係數ハ第二表ニ示シタリ。

本文ノ脱稿ハ昭和十年四月ナルガ、其後日本人ノ基本體型ニ關スル幾多ノ業績中、最近ノ角田氏⁽⁵⁾ノ北陸地方ノ壯丁ニ就テノ計測ハ最モ優レタルモノナリ。

〔附言〕 日本人ノ體格ガ地方的ニ甚ダシキ差異ヲ示スコトニツキテ、長谷部氏⁽⁶⁾ハ大正四年壯丁身幹尺度表ヲ材料トシテ、壯丁身長ノ數字ガ相當複雑ナル分布ヲ示スコトヲ明カニシタリ。近來、コノ問題ハ一層ノ興味ヲ以

第七表 福井縣下兒童身長ノ地方的比較(古屋氏ニ據ル)

身長(男)			
年齢	地方別	M ₁ -M ₂	$\sqrt{m_1^2+m_2^2} \times 3$
6-7	市部—平地部	1.58	0.759●
	市部—山間部	2.58	0.759●
	平地部—山間部	1.00	0.759●
7-8	市部—平地部	1.06	0.741●
	市部—山間部	2.62	0.759●
	平地部—山間部	1.56	0.741●
8-9	市部—平地部	2.02	0.804●
	市部—山間部	2.56	0.828●
	平地部—山間部	0.54	0.783●
9-10	市部—平地部	0.64	0.704●
	市部—山間部	1.78	0.783●
	平地部—山間部	1.14	0.783●
10-11	市部—平地部	1.40	0.870●
	市部—山間部	2.78	0.891●
	平地部—山間部	1.38	0.828●
11-12	市部—平地部	0.80	0.894●
	市部—山間部	1.80	0.933●
	平地部—山間部	1.00	0.849●

身長(女)			
年齢	地方別	M ₁ -M ₂	$\sqrt{m_1^2+m_2^2} \times 3$
6-7	市部—平地部	1.44	0.789●
	市部—山間部	2.62	0.789●
	平地部—山間部	1.18	0.731●
7-8	市部—平地部	0.12	0.731●
	市部—山間部	2.48	0.783●
	平地部—山間部	2.36	0.765●
8-9	市部—平地部	1.88	0.828●
	市部—山間部	2.66	0.849●
	平地部—山間部	0.78	0.783●
9-11	市部—平地部	1.26	0.849●
	市部—山間部	2.54	0.891●
	平地部—山間部	1.28	0.849●
10-11	市部—平地部	1.52	0.870●
	市部—山間部	2.32	0.909●
	平地部—山間部	0.80	0.849●
11-12	市部—平地部	1.80	0.971●
	市部—山間部	3.12	0.999●
	平地部—山間部	1.32	0.909●

●印ハ特ニ注目スベキ數字ヲ示ス

- (1) 小泉馨: 兒童發育規準ニ關スル學校衛生學的研究. 第一及第二報. 民族衛生. 第四卷. 第三一六號.
- (2) Martin
- (3) Längen-Breiten-Index des Kopfes
- (4) Morphologischer Gesichtindex

テ論ゼラルルコトナレリ。第七表ハ金澤醫科大學衛生學教室ニ於テ古屋氏ノ指導ニヨリテナサレタル福井縣下ノ小學兒童ノ身長ノ分布ヲ右ノ見地ヨリシテ取扱ヘルモノナリ。

本研究ハ其ノ後小泉氏⁽¹⁾ニヨリテ完成發表セラレタリ。

頭部ノ計測ハ人類學的興味ヨリシテ廣ク行ハレ、既ニ種種ノ指數ガ舉ゲラレタリ。マルチン⁽²⁾氏ハ頭長幅指數⁽³⁾

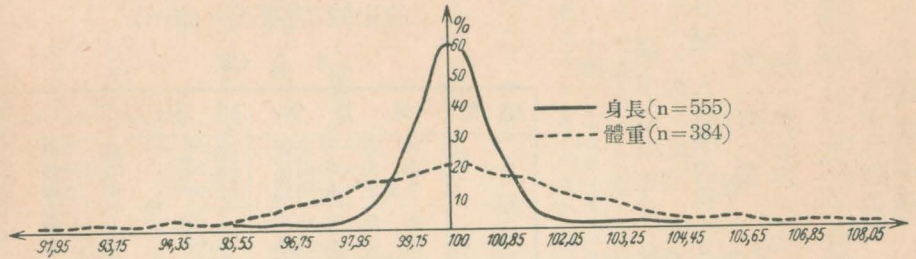
頭ノ最大幅
頭ノ最大長
× 100

ヲ甚、重要視シタリ。氏ハ又、形態學的顔面指數⁽⁴⁾

形態學的顔面高
額骨弓徑
× 100

- (1) Verschuer: Allgemeine Erbpathologie. Verhandlungen d. deutschen Gesellschaft für innere Medizin, 48. Kongress. 1934, S. 35
- (2) 大澤天臣: 一新方法ニ依ル體形ノ曲線的圖示法. 十全會雜誌. 第三十九卷, 第一號, 昭和九年一月

第六圖



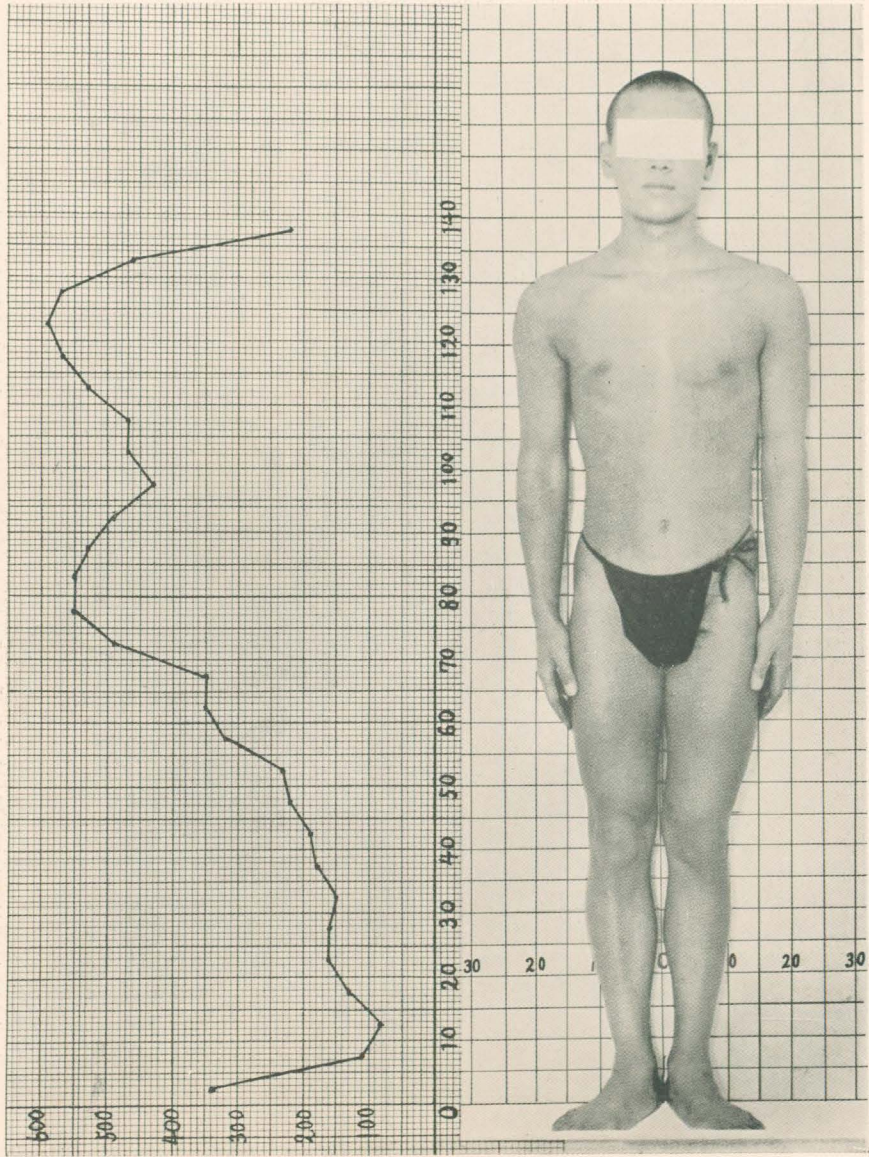
一卵性雙生兒ニ於ケル身長(環境ニ影響セラレ難シ)及ビ體重(環境ニ支配セラレ易シ)ノ環境ニヨル偏倚度ヲ示ス。身長及ビ體重ハ夫々實數ニ非ズシテ各雙生兒對間ノ平均値ニ對スル百分率ヲ以テ表ハス (v. Verschuerニ據ル)

ニモハク Hyperureyprosop (X-78.9) Euryprosop (79.0-83.9) Mesoprosop (84.0-87.9) Leptoprosop (88.0-92.9) Hyperleptoprosop (93.0-X)ノ順ニ、顔面ノ短キモノヨリ、細長キモノヘノ分類ヲナセリ。日置氏ハ氏等ノ計測ヨリ日本人ノ形態學的顔面指數ハ長顔型ニ偏向セリト云フ。

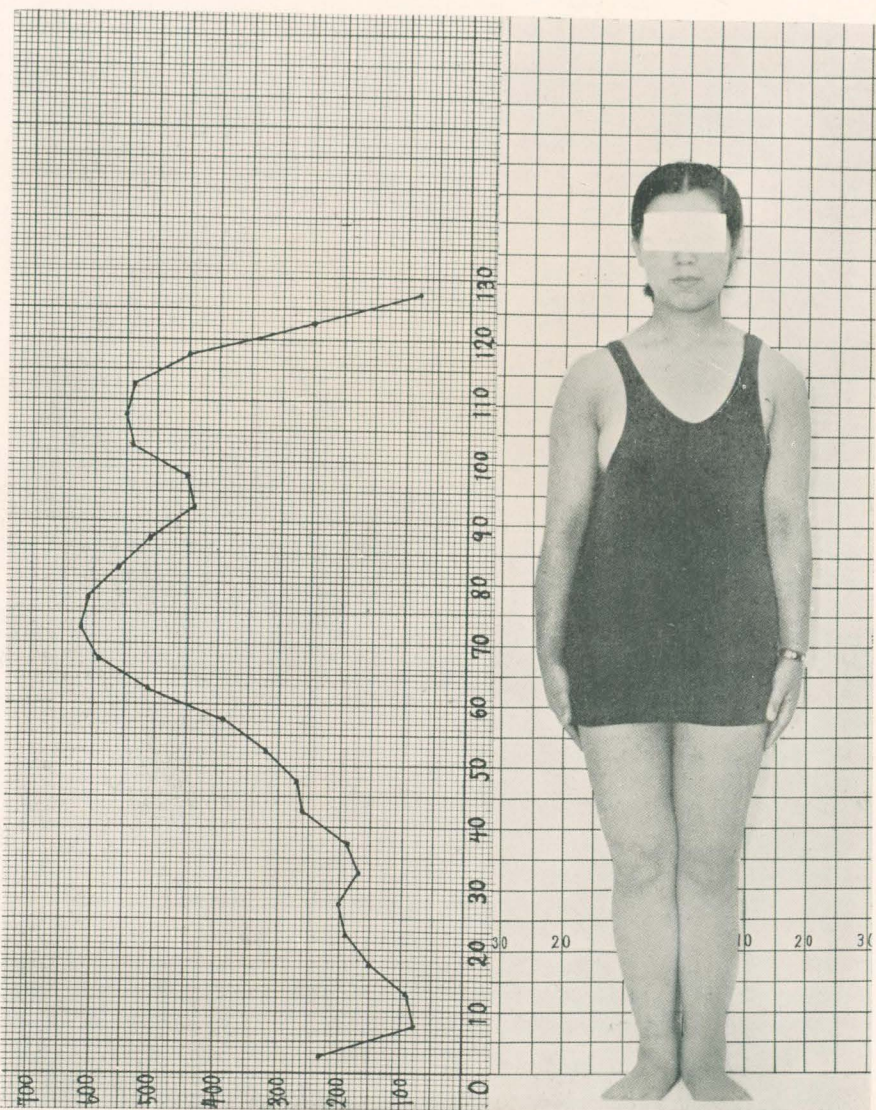
身體ノ種種ノ計測値ノ中ニテ、主トシテ遺傳範型ニミ支配セラルルモノト、著シク環境ノ影響ヲ受クルモノトアリ。第六圖ハスルシュール氏⁽¹⁾ニ據レルモノニシテ、多數ノ一卵性雙生兒ニ就テノ觀察ヨリ得タルモノニシテ外界ノ影響ヲ受クルコト少ナキ身長ト、環境ニ支配セラレ易キ體重トガ雙生兒間ニアリテ相違スル度數分布ヲ示シタルモノナリ。前者ニテハ曲線ガ急傾斜ヲ以テ竝數ニ集中セラレ、後者ニテハ緩傾斜ヲ以テ擴散セラレテ居ルコトガ認めラレル。

次ニ私ハ從來行ハレ居ラザル體形ノ一新研究法ニ就テ簡單ニ述ベントス。ソハ最近ニ我教室ノ大澤氏⁽²⁾ガ考案シタル身體橫断面ノ曲線的圖示法ニ就テナリ。切口ノ一定シタル圓筒形ノ水槽ニ大凡、體溫ニ等シキ溫度ノ水ヲ容レ、被檢者ハ裸體ニテ直立ノ姿勢ヲ取リテ頸マデ浸ル。今、水槽ノ底ニ近キ水栓ヨリ單位ノ高サ丈ケ宛、水ヲ排出シテコレヲ秤

第七圖 (大澤氏ニ據ル)



第八圖 (大澤氏ニ據ル)



ルトキハ、計算ニヨリテ容易ニ身體各部ノ横斷面積ヲ得ベシ。コレヨリシテ第七圖(男)及ビ第八圖(女)ニ示スガ如キ身體横斷面積曲線圖ガ得ラルル。コノ方法ハ多少手數ヲ要スル缺點アレドモ、多數ノ人ノ體形ヲ直接比較スル上ニハ甚、便利ナル方法トス。ソノ應用ノ範圍等ニ就テ私ハ大ナル期待ヲ有セリ。

第四章 發育異常

其一、全身の發育異常

體格ノ大小ハ人種的ニ甚、異ナルモノニシテ、日本人ノ大凡ノ體格ノ範圍ニ就テハ既ニ前ニ述ベタリ。單ニ吾人ノ目測ヲ以テシテモ、巨大ナル體格(巨人⁽¹⁾)、長身⁽²⁾ト、矮小ナル體格(侏儒⁽³⁾)、小兒型⁽⁴⁾トヲ見分ケルコトハ容易ナル場合多シ。本章ニテハ主トシテ全身の發育異常ニ就テ述フベシ。

(一) 小兒型 Infantilismus.

發育異常ノ中ニテ最、多く、從ツテ最、重要ナルモノナリ。全身若シクハ身體ノ一部ガ小サクシテ、而カモソノ發育ノ頂點ニ達スル時期ハ遅延セザルモノヲ云フ。タンドル氏⁽⁵⁾ハコレニ普遍的竝ニ部分的小兒型⁽⁶⁾ヲ區別セリ。ソノ成長ノ停止シタル發育期ノ狀態ニ從ツテ胎兒型⁽⁷⁾、小兒型⁽⁸⁾、幼年型⁽⁹⁾、少年型⁽¹⁰⁾ノ數種ニ分ツ。何レニシテモ、スベテノ狀態ガ小兒期、若シクハ幼年期ノ發育程度ニ止マリ、外形ノミナラズ骨、生殖器、精神の發育、ソノ他、身體全部ヲ包含シタル發育不全ナリ。

ボルバルト氏⁽¹¹⁾ハ小兒型ヲソノ成長ニ從ツテ、次ノ如ク區別セリ。

一、異常生長素地ニ因ル小兒型(遺傳的小兒型)⁽¹²⁾

- | | | |
|---|--|-------------------|
| (11) Borchardt: Der Infantilismus, Kraus-Brugsch: Spezielle Pathologie und Therapie innerer Krankheiten. Bd. XI. 1927. S. 303 | (6) Infantilismus universalis et partialis | (1) Riesenwuchs |
| (12) 同上。Klinische Konstitutionlehre. II. Aufl. Berlin u. Wien. 1930 | (7) Fötalismus | (2) Hochwuchs |
| (13) Erblicher Infantilismus | (8) Infantilismus | (3) Zwergwuchs |
| | (9) Puerilismus | (4) Infantilismus |
| | (10) Juvenilismus | (5) Tandler |

- (1) Blastophthorie
- (2) Mongolismus
- (3) Monoglandulärer Infantilismus
- (4) Pluriglandulärer Infantilismus
- (5) Intestinaler Infantilismus
- (6) Zerebraler Infantilismus
- (7) Zirkulatorischer Infantilismus

二、生殖細胞ノ傷害ニ因ル小兒型(レントゲン・ラヂウム線・アルコール・鉛・水銀・燐・硫黄・アニン、煙草等)幼芽損傷⁽¹⁾

三、蒙古型⁽²⁾ノ部分現象トシテノ小兒型(老齡ノ兩親、若シクハ、兩親ノ年齡の相違ノ餘リニ甚ダシキ場合ノ生殖細胞ノ劣勢ナルコト等ニ因ル)。

四、胎兒ノ傷害ニ依ル小兒型(レントゲン・ラヂウム線・アルコール・鉛・水銀等ノ職業的中毒。微毒・發熱・急性傳染病・骨炎等ノ母體ニ存スルコト等)。

五、一腺性小兒型⁽³⁾

a、甲狀腺不全型 b、腦下垂體不全型 c、胸腺缺損型

六、多腺性小兒型⁽⁴⁾

a、不十分ナル脂質供給(饑餓・榮養不足)

b、脂質吸收不全(腸性小兒型⁽⁵⁾)

c、脂質利用不全(?) (脾臟性小兒型)

d、脂肪奪取ニ因ル(慢性傳染病及ビ中毒・殊ニ微毒、結核)

七、腦性小兒型⁽⁶⁾

a、間腦ニ病竈ヲ有セルモノ

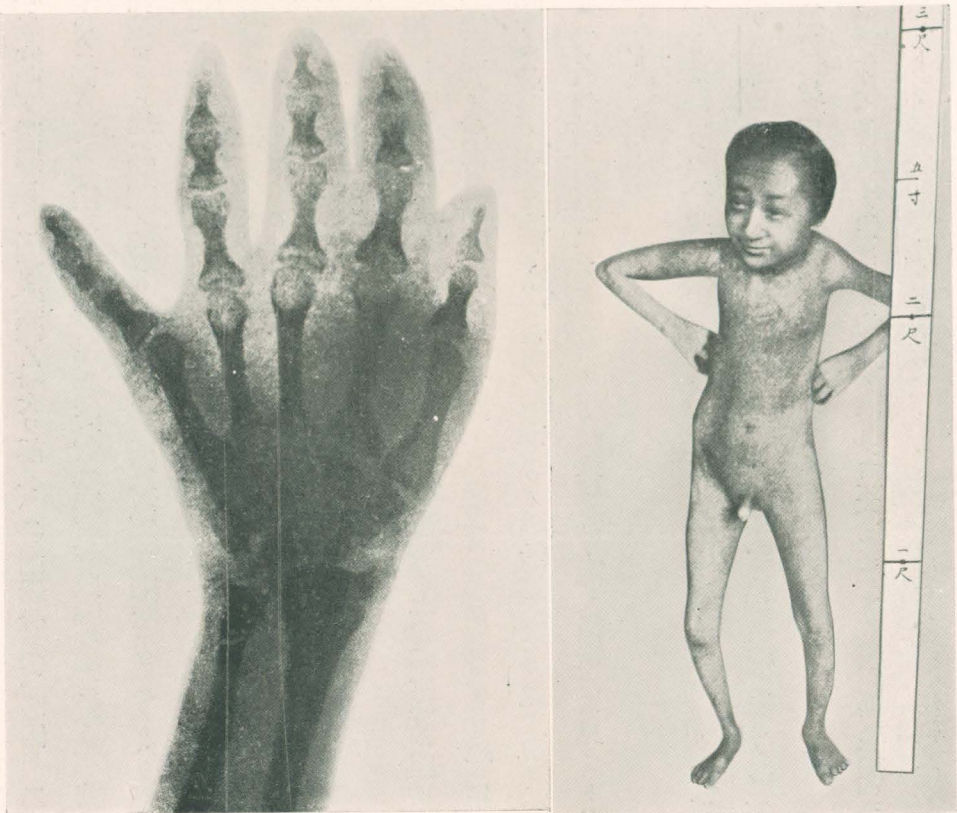
b、腦下垂體附近ノ巨大腫瘍ニテ植物神經中樞ニ壓迫ヲ及ボセル場合

八、循環器性小兒型⁽⁷⁾ 先天性若クハ早期後天性心臟障

(1) Dystrophischer Infantilismus

(2) 内田守一: 内分泌腺障碍ニ基ク小兒實ノ一例. 東北醫學雜誌. 大正六年. 第一頁

第九圖 (甲) (乙)



多腺性小兒型(内田氏ニ據ル)

〔附言〕 右ノ中(六)ニ

屬スルモノノ大部ハ所

謂榮養障碍性小兒

型⁽¹⁾ニ包含セラルルモ

ノニシテ、ボルバルト

氏ノコノ見解ニ對シ

テハ必シモ異論ナキニ

シモアラザルベシ。

第九圖ハ内田氏⁽²⁾ニ據レ

ルモノニシテ、十九歳ノ男

子、體重僅ニ七・九二キロ

グラム(九ヶ月健康兒ノ平

均體重ニ相當ス)、身長

八五センチメートル(曲尺ニ

尺八寸強ニシテ三歳ノ小

兒ノ平均數ニ相當ス)ニ過

ギズ。甲狀腺ヲ觸レズ、レン

- | | |
|---|---|
| (7) Hanhart | (1) Borchardt |
| (8) Aschner | (2) dimentional |
| (9) Infantiler Typus | (3) Nanosomia primordialis (v. Hansemann) |
| (10) Nanosomia infantilis Typus (Paltauf) | (4) Zwergvölkör |
| (11) Primordialer Zwergwuchs | (5) Kollmann |
| (12) Hyperpituitärer Riesenwuchs | (6) Kümmerzwerge |

トゲン線ニテ胸腺ノ暗影ナク、腦下垂體ノ増大ヲ認メズ、骨端縫合ハ尙、哆開ス。二、三年前ヨリ陰阜ニ二乃至三センチメートルノ長サヲ有スル陰毛ノ發生ヲ見ル。辜丸ハ陰囊及ビ鼠蹊管内ニ存セズ。精神状態ハ一年半乃至二年ニ相當スル程度ナリキ。氏ハ種種ノ點ヨリシテコレヲ多數内分泌腺ノ障碍ニヨルモノトセリ。彼ハソノ後、尙、數年間、東北大學小兒科ニ「正チャン」ナル愛嬌者トシテ在院セリ。著者モ當時同大學ニ在任シ、彼ガ二十一歳ノトキ徴兵検査ニ出頭スベク、新調ノ羽織袴ニテ、シカシ三歳ノ小兒ノ大サ位ノ軀ヲ以テ、各醫局ニ挨拶シ廻ハレルコトヲ記憶セリ。彼ノ死後木村教授執刀ノ下ニ剖檢セラレ、曩ノ内田博士ノ診斷ハ證明セラレタリ。

侏儒 Zwergwuchs (Nanismus, Nanosomia)

多クノ成書ノ記述ニハ小兒型ト侏儒トハ用語ノ上ニモ、解釋ノ上ニモ確然タル區別ナキガ如シ。ボルバルト氏⁽¹⁾ハ侏儒ハ只、普通人ノ身體ヲ方的⁽²⁾ニ小サクセルニ過ギズ。換言スレバ「オペラゲテスヲ逆ニ用ヒテ成人ヲ見タルモノニ過ギズト言ヘリ。從ツテ身體ノ大サヲ除キテハ、スベテノ状態ガソノ年齢ニ相當セル成熟度ヲ示セリ。(原始性矮小人⁽³⁾)。即、生來ノ小人ニシテ、如斯ノ個體ハ、アフリカノ小人種族⁽⁴⁾等ヲ除キ、散發性ニ見ルコトハ極メテ稀ナリ。コルマン氏⁽⁵⁾ハコレヲ矮小人⁽⁶⁾ト稱セリ。

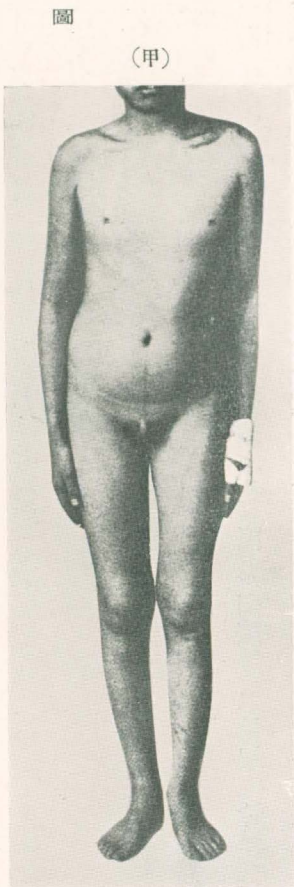
從來、見ラレタル例ニテハ、全身ノ鈞合ガ取レテ居テモ、生殖器不全(ハンハルト氏⁽⁷⁾)ヲ呈シ、或ハ殊ニ腦下垂體前葉ノ缺如(アシネル氏⁽⁸⁾)ヲ呈シ、小兒性體型⁽⁹⁾(小兒性矮小人⁽¹⁰⁾)ニ屬スベキモノ多シ。

(二) 巨人竝ニ長身 Riesenwuchs und Hochwuchs.

侏儒ノ反對ニシテ、骨骼ノ他ガ全ク均勢ヲ取リテ巨大ナルモノナリ。原始性侏儒⁽¹¹⁾ニ對シタルモノトシテ、體質的染色體性ノ異常トシテ遺傳的ニ優性トシテ現ハレルモノアリ。コレニ反シテ、内分泌性ノ腦下垂體機能亢進性巨人⁽¹²⁾ノ多ク

(1) Akromegalie

ハ、指端巨大症⁽¹⁾ノ傾向ヲ有スルモノニシテ、時トシテ腦下垂體前葉ノ腫大ニ相當シテ、土耳其鞍ノ擴張ガレントゲン像ノ上ニ證明セララルコトアリ。



類宦官症(土屋氏ニ據ル)

(三) 類宦官症性長身

Eunuchoider Hochwuchs (Tandler und Gross)

モ亦、内分泌障碍性ノモノニシテ、生殖器ノ發育不全、性特徴ノ不完全ナル發育若クハ缺如ヲ呈シ、體毛・皮下脂肪・筋肉等ニ性特有性ヲ失シ、男子ニテハ、青年期ノ音聲轉換ヲ缺ギ、腰部ナドモ女性ニ近キ觀アリ。上腿・腰部・下腹部・乳房等ノ脂

- (1) 土屋文雄: 體性, 第二二卷, 第三號, 昭和十年三月
- (2) Bauer
- (3) Evolution
- (4) Involution

- (5) Senilismus universalis et partialis
- (6) Pubertas praecox, Macrogenitosomia praecox

肪沈著著シク、骨骼ニ於テハ、恥骨縫際、足趾間距離ガ頭頂、恥骨縫際間距離ニ比シテ遙ニ大ニシテ、換言スレバ、軀幹ニ比シテ下肢ガ甚ダシク長キ等ノ特有ノ體形ヲ呈セリ。且、身長ガ常人ニ比シテ異常ニ大ニシテ、身幅ノ發育ハコレニ伴ハザルモノ多シ。此種ノ長身ハ、腦下垂體前葉ノ不全性ノモノナリ。第十圖ハ土屋氏⁽¹⁾ニ據レルモノニシテ、十五歳ノ男子、特有ノ體形ヲ呈シタルモノナリ。パウエル氏⁽²⁾ハ此ノ外ニ、本質的染色體的類宦症ノ存在ヲ認め居レリ。

(四) 早老 Senilismus.

發育⁽³⁾及ビ衰頹⁽⁴⁾ノ時間的經過竝ニ強度ハ、個人的體質のニ、大ナル軒輊アルモノニシテ、長生ノ家族ガ、一方ニアリ、他方ニハ早老、早衰ノ系統ヲ存ス。遺傳的ニ四十歳ニシテ既ニ白髮ヲ來タシ、顯著ナル老人の皮膚(顔面ノ皮膚ガ老人ニ特有ナル皺ノ寄リタル外觀ヲ呈スル)血管硬變、變形性關節炎、角膜老人環、水晶體濁濁、等ノ老人現象ガ來タリ、女性ニテハ早期ニ月經閉止シ、精神狀態モ老人性トナル。一般竝ニ局部性早老症⁽⁵⁾ガ區分セラレル。屢、生殖腺ノ内分泌機能ト密接ナル關係ヲ存ス。

一般ニ内分泌機能ハ、身體ノ發育異常ト密接ナル關係アリ、殊ニ腦下垂體前葉ハ生殖腺・甲狀腺・副腎皮質等ヲ支配スルホルモンヲ有シ、長身・小兒型・侏儒等ノ異常體形ノ外ニ、單ニ生殖器ノ一部分の小兒型、若シクハ類宦症ヲ將來ス。而シテ小兒期ニ腦下垂體前葉不全ニ陥レル個體ニテハ、骨端化骨線ガ長時殘存セルコトヲ認ム。ソノ他ノ内分泌腺異常トシテ、松果腺ノ腫瘍等ニテ巨人ガ現ハレ、又、生殖器早熟⁽⁶⁾ヲ來タスモノアリ。副腎皮質ニアリテモ、ソノ肥大ガ生殖器早熟ヲ來タスコトアリ。但、コレハ從來、女性ノミニ見ラレタリ。

(五) 骨骼ノ發育ニ於テ均勢ヲ保タズ、下肢ガ異常ニ短キ型ノ侏儒アリ。コレハ骨端化骨線ノ異常ナル早期ノ閉鎖ニ依ル

(1) Chondrodystrophie

- (2) Infantilismus universalis
- (3) Örtlicher Infantilismus
- (4) Hypoplastische Konstitution (Bartel)

- (5) 中村八太郎. 胸腺淋巴體質ト成形不全體質. 醫事公論. 昭和四年一月
- (6) 中村八太郎. 細菌性心内膜炎ノ發生. 東京醫事新誌. 昭和六年一月

モノニシテ、化骨線成長異常ニ屬シ、佝僂病・モンゴリズム等ノ外ニ、内分泌性ノ生殖腺・副腎皮質・松果腺等ニ關係セリ。稀有ノ狀態トシテ軟骨榮養異常性骨形成⁽¹⁾ハ、又、體質性遺傳的ニ來タルモノニシテ、軀幹、頭部等ノ發育不正ヲ致シ、長管狀骨ノ生育ガ早期ニ止マルタメニ、極メテ不均衡ナル體形ヲ備ヘタル成長不全狀態ヲ呈スルニ至ル。

第五章 發育異常

其二 一部分的發育異常

(一) 形成不全 Hypoplasie.

個個ノ臟器、又、組織ニ發育抑制、若シクハ早期ノ發育停止アルトキハ、コレヲ形成不全ト稱ス。學者ニ依リテハ全身の小兒型⁽²⁾ニ對シテ局部的小兒型⁽³⁾トモ名ヅク。形成不全ハ多クハ機能的ノ不全ヲ伴フモノニシテ、若、コレガ内分泌臟器等ニ現ハルトキハ、ソノ影響ノ及フトコロハ屢、全身ニ關係セリ。發育不全ガ一個ノ臟器ニ限ラズシテ、或臟器系統ニ現ハルトキハ、臨牀的ニ症狀群トシテ現ハレルナラム。又、二、三以上ノ臟器ニ同時ニ存在スルコトモ稀有ニアラズ。ソノ比較的顯著ナルモノニ成形不全性體質⁽⁴⁾ナル名ガ與ヘラレル。急性傳染性疾患ナドニテ偶發的ノ影響ナド尠クシテ、而カモ不良ノ經過ヲ取ルモノノ中ニ、剖檢上、胸腺殘存、若シクハ肥大、副腎髓質ノ成形不全、狹小、菲薄ナル大動脈、漏斗狀若シクハ異常ニ長キ蟲樣突起、腎臟分葉形ノ殘存、ソノ他種種ノ成形不全徵候ノ共存セルヲ發見スルコト甚、多シ。中村氏⁽⁵⁾ハ氏ノ剖檢セル敗血症性心臟内膜炎、ソノ他ニテ不良ノ經過ヲ取レルモノガ、成形不全體質ナリシ興味アル剖檢例ノ多數ヲ述ベテ、疾病ノ觀方ニ關スルコノ方面ヘノ注意ヲ喚起シタリ。如斯、成形不全ハ肉眼的可視ノモノ多キモ、又、顯微鏡的ニノミ證明シ得ルモノモ尠ナカラズ。後者ハコレヲ形態的ニ

- (1) Abiotrophie (2) Degenerationszeichen
- (3) 村田秀太郎、大動脈ノ計測的研究。其一乃至其三。十全會雜誌。第三五卷。第十二號。第三六卷。第四號。同。第九號(昭和五年十二月。昭和六年四月及九月)
- 村田秀太郎、大動脈ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究。十全會雜誌。第三六卷。第一號。(昭和六年十一月)

- (4) Mehnert
- (5) Mikrogastrie(Barfour)
- (6) Curschmann
- (7) Atresie
- (8) Aplasie
- (9) Friedreich
- (10) Asthenische Konstitution

變化ナク、而カモ先天的早期ノ機能衰退ヲ有セル生活力缺如⁽¹⁾ト、明確ニ分ツコト難カラム(後述參照)。又、成形不全ノアルモノハ、所謂、變質徵候⁽²⁾ニモ數ヘラルルモノニシテ、場合ニ依リテハ單ニ見方ヲ異ニシタル命名トモ考ヘラルルモノアリ。

循環器ノ成形不全ハ屢、全身トノ交渉ヲ有セリ。心臟全體狹小ナルコトノ外ニ、局部等ニ大動脈・肺動脈・僧帽瓣口等ノ先天性ノ狹小ガ時ニ見ラル。村田氏⁽³⁾ニ據レバ大動脈管ノ發育ハ年齢的ニ異ナル外ニ、體質的ニモ、單ニソノ直徑口ノ大サ、管壁ノ厚サ等ノ計測的相違ノミナラズ、ソノ壁層ノ組織學的所見ニ於テ興味アル相違ガ見ラレル。即、先天的成形不全大動脈ニテハ成形不全形中膜ヲ標徴トシ、後天性成形不全大動脈ニテハ内膜組織ノ比較的發育澁滯ヲ有スルト云フ。

肺ノ如キ彈力纖維ニ富ミ、胸腔ヨリ取出スキニ收縮スル臟器ニ就テ、ソノ先天的ノ萎小形ヲ確認スルコトハ困難ニシテ、且、コレト肺結核ナドノ關係ヲ論ズルコトハ許サレザルコトナラム。ソノ他ノ實質性臟器ノ成形不全ハ腎・肝等ニ於テハ數、コレヲ異常分葉ニ認メル。

消化管ニ於テ稀ニ體質性食道狹窄(メーネルト氏⁽⁴⁾)・小胃⁽⁵⁾・腸管ノ異常・短形等(クルシマン氏⁽⁶⁾)ガ記載セラル。ソノ高度ノモノ、即、先天性ノ管腔閉塞⁽⁷⁾・發生缺如⁽⁸⁾等ハ寧、畸形ニ數ヘラル。

内分泌臟器ノ成形不全ハ、ソノ關係スルコロ大ニシテ、全身的小兒形ト密接ナル關係アルコト前述シタリ。神經系統ニ於テ、多クノ成形不全ガ見ラルモノ、ソレハ局部的ノ外ニ、フリードライヒ氏病⁽⁹⁾ノ如キハ脊髓・小腦ノ神經索路系統ノ成形不全ニヨルモノト做サル。

骨・筋肉・結締組織系統ノ成形不全ハ、無力性體質⁽¹⁰⁾トシテ、臨牀的ニ重要ナル意義ヲ有スルモノトス(ボルハルト

- (1) Borchardt
- (2) Rosenbach
- (3) Adler
- (4) Gowers
- (5) Abiotrophie
- (6) Martius

- (7) Normale Bildung mit mangelnder Lebensenergie
- (8) Edinger
- (9) Aufbrauchkrankheiten des Nervensystems

(10) Jendrassik

氏⁽¹⁾

(二) 生活力缺如 Abiotrophie.

ローゼンバツパ⁽²⁾(一千八百九十二年)、アドシル⁽³⁾(一千九百一年)、ガワース⁽⁴⁾(一千九百二年)等諸氏ガ、神經系統若シクハソノ一部ニ就テ、生來ノ生物學的ノ弱點ノタメニ、正常ノ機能ニ堪エ得ズ、作爲力ノ低下セルモノアルコトヲ述ベ、ガワース氏ハコレヲ生活力缺如⁽⁵⁾ト稱セリ。マルヂウス氏⁽⁶⁾ハコレヲ正常ナル成形ニシテ生活エネルギーノ缺陷⁽⁷⁾ト稱シ、エチンゲル氏⁽⁸⁾ハコレヲ神經系統ノ消耗症⁽⁹⁾ト名ヅケタリ。ガワース氏ハ種種ノ遺傳性家族性神經疾患ノ外ニ、中毒性神經炎・脊髓癱瘓・痲痺性痴呆ナドモ、ソノ發生ノ主因タル毒素ノ影響ノ外ニ神經系ノ生活力缺如ニ原因ノ一部ヲ歸スベシトナセリ。

アビオトロフィー⁽¹⁰⁾ナル語ハ初ハ主トシテ遺傳性家族性神經系疾患ニ限ラレシガ、ソノ後、身體ノ他ノ領域ニ於テモ早期ニ機能脱落ヲ來タス遺傳的ノ状態ニ對シテモ、用ヒラルルニ至レリ。タトヘバ早期ノ脫毛及ビ頭髮ノ白クナルノニ對シ、ガワース氏自身及ビエンドラシク⁽¹¹⁾氏等ハアビオトロフィーナル名稱ヲ適用セリ。即、アビオトロフィーナル語ノ中ニ初、ガワース氏ガ神經系疾患ニ就テ述ベタルト同様ノ内容ガ盛ラレ、主トシテ三群ニ區分セラル。(一) 正常ノ機能ノ外ニ何等特別ノ外因ナクシテ速ニ消耗ヲ呈シテ起ル疾患、コレハ主トシテ遺傳的家族的家族性疾患ナリ。(二) 缺陷アル素因ニ何等カノ内因(内分泌等)ガ加ハリテ起ル疾患、(三) 素質ノ缺陷ニ加フルニ、外因ヲ以テシテ機能障碍ヲ來タスモノ。

以上ノ三群ノ間ニハ勿論、緩カナル移行アリテ、ソノ間ニ明確ナル分野ヲ定ムルコト能ハザルモ、アビオトロフィーニ因ル疾患ガ、神經系ノ外ニ相當廣キ範圍ニ索メラレ得ルコト明カナリ。バウエル氏ハ糖尿病ノ或者(腺臟硬變・肝硬變・畸形性關節炎・早期閉經・白内障・進行性迷路性難聽等)ラソノ中ニ數ヘタリ。眞正萎縮腎ニ就テハ既ニストム

- | | | |
|---|----------------------------------|---|
| (12) Stigmata degenerationis, Entartungszeichen | (7) Köhler | (1) Strumpell |
| (13) Missbildung | (8) Schlatter | (2) Jendrassik |
| (14) Bildungsfehler | (9) Apophysitis tibiae | (3) Martius |
| | (10) Morel | (4) Naegeli |
| | (11) Entartung oder Degeneration | (5) Perthes |
| | | (6) Osteochondritis deformans juvenilis |

ムペル⁽¹⁾、エンドラシク⁽²⁾等諸氏ガソノ遺傳的缺陷ノ原因ヲ認メ居レリ。即、實質性臟器ノ萎縮硬化ヲ來タス疾患ハ、多クハ內在的缺陷ニ外的要素ノ加ハリテ起リシモノト做サレ得ラルルナラム。マルヂウス⁽³⁾氏ハ近視ナドモコレニ數ヘタリ。氏ハ又、萎黃病ニ就テ女子生殖腺ノ生活力缺如ヲ主張セルガ、近時ネーグヅ⁽⁴⁾氏、殊ニコレニ賛成セリ。

骨疾患ニ於テモ稀ナルペルテス⁽⁵⁾氏病(弱年性畸形性骨軟骨炎⁽⁶⁾)、ケーレル⁽⁷⁾氏病、シュラッツ⁽⁸⁾氏病(脛骨骨突起炎⁽⁹⁾)ナドモ、コノ範疇ニ屬セシメラレタリ。

(三) 變質徵候 Degenerationszeichen.

精神病學ニ於テ、精神的及ビ慣習的ノ先天性低能ハ、精神病ノ生成ニ重要ナル役目ヲ演ズルモノニシテ、最初モレル⁽¹⁰⁾氏ハコレニ變質⁽¹¹⁾ナル名稱ヲ與ヘタリ。精神的異常ト竝ンテ身體的異常ヲ發見スルコト多ク(頭蓋・齒・上顎・耳・眼等ノ變形、左右ノ不同等)、コレト精神的障得トヲ顧慮シテ變質徵候⁽¹²⁾ト稱シタリ。

コノ變質徵候ト、不具畸形⁽¹³⁾トノ間ノ移行ハ甚、緩徐ニシテ、嚴密ナル境界ハ存在セズ。成形異常⁽¹⁴⁾ハ生殖細胞中ニ潛メル遺傳素地(メンデル氏法則ニ從ヒ、優勢ノモノアリ、劣勢ノモノアリ)ノ外ニ受精生殖細胞、若シクハ胎兒ノ受ケル外的ノ影響、タトヘバ酒精・煙草・鉛毒・水銀・砒素、ソノ他ノ毒素、熱・電氣等ノ影響、ラヂウム・レントゲン線。ソノ他、器械的ノ原因トシテ子宮内ノ外傷、又、卵膜異常(羊水過多若クハ過少、胎兒ト卵膜トノ癒著等ヲ含ム)、胎内感染、殊ニ微毒等ガ數ヘラル。

- | |
|----------------------------|
| (1) Cauda humana |
| (2) Foramen coecum linguae |
| (3) Kiementasche |

變質徵候ノ好發部位トシテ(イ)系統發生學的ニ若キ部分ヲナス臟器ニ現ハレルコト多シ。人類ノ器官中、退行性ヲ示シツツモ、尙、或程度ノ生理的機能ヲ存セル第一、第二、第十一、第十二肋骨、嗅覺葉、鼻甲介ノ一部等。

(ロ) 殘存器官ニシテ本來ノ意義ヲ失ヒタルモノニテハ尾骶骨(人尾)⁽¹⁾・舌盲孔⁽²⁾・ヤコブソン氏器官・蟲様突起等。

(ハ) 系統發生學的ニ退行セルモノトシテ、胎性頸肋・腰肋・薦肋・腮囊⁽³⁾・過剩乳嘴・肝・脾・腎等ノ異常分葉、原腎系統ノ殘物。

(ニ) 身體諸部ノ異常位置關係。肩胛帶ノ末梢方移動、腰帶ノ中心方移動、骨部胸廓中體腔ノ短縮、心臟・橫膈膜・胃等ノ偏移、移動性生殖腺、内臟倒錯等。

(ホ) 人類ガ立位ノ歩行スルヤウニナリシガタメニ比較的新シク獲得セル性質、即、肩胛帶・脊柱・胸廓等ノ變化、下肢ノ變化、腦脊髓傳達路ノ分化、腰椎ノ彎曲、腦ニ相當スル頭蓋ノ容積ノ増大、喉頭諸筋ノ分化等ノ異常等ガ注目セラル。

體質學上ニ於ケル成形異常ノ意義トシテ、局部的ニ所謂抵抗減少部⁽⁴⁾トナリ、又、體境⁽⁵⁾ニ對スル一般の意義トシテハ、數個ノ成形異常ヲ有セル個體ニ於テ、全身の體質的劣等性ヲ示スモノトナルベク、バルテル氏⁽⁶⁾ハ如斯モノニ腫瘍形成ノ傾向ト、死亡率ノ大ナルコトヲ認メタリ。パウエル⁽⁷⁾氏ニ據レバ、米國ノ動物學者バムプス⁽⁸⁾氏ハ、暴風ニ遭テ斃レタル雀ヲ聚メテコレヲ檢シタルニ異常變異ヲ呈シタルモノ甚、多カリシト云フ。同様ナルコトハ人類ニ於テ、傳染病ニ對スル個體的抵抗減弱ニ就テモ言ハレ得ルコトハ上述シタリ。

變質徵候ノ診斷ニ際シテ、容易ニ到達シ得ルモノトシテ、(イ)骨體形ノ成形異常トシテハ、頭顱短小⁽⁹⁾・尖頭畸形⁽¹⁰⁾・短頭顱⁽¹¹⁾・長徑頭蓋⁽¹²⁾・扁平頭顱⁽¹³⁾・頭顱舟狀畸形⁽¹⁴⁾・三角頭畸形⁽¹⁵⁾・斜頭⁽¹⁶⁾・鎖骨缺損・頸肋及ビ腰肋・肋骨分

- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| (10) Akrocephalie | (4) Locus minoris resistentiae |
| (11) Brachycephalie | (5) Körperfassung |
| (12) Dolichocephalie | (6) Bartel |
| (13) Platycephalie | (7) T. Bauer |
| (14) Skaphocephalie | (8) Bumpus |
| (15) Trigonozephalie | (9) Oxycephalie |
| (16) Plagiocephalie | |

- (1) Biakanthie
- (2) Rhachioschisis
- (3) Brachydaktylie
- (4) Polydaktylie
- (5) Spalthände
- (6) Spaltfüsse
- (7) Hallux valgus
- (8) Kalkaneussporn

- (9) Klumpfuss
- (10) Hohlfuss
- (11) Partielle Mikromelie
- (12) Vitiligo
- (13) Epheliden
- (14) Naevi pigmentosi
- (15) Naevi pilosi

- (16) Naevi vasculosi
- (17) Epikanthus
- (18) Distichiasis
- (19) Mikrophthalmus
- (20) Kolobome
- (21) Papillarmembranen
- (22) Mangelhafte Einstülpung des Helix

- (23) Darwins Höcker
- (24) Diastema
- (25) Trema
- (26) Prognathie
- (27) Mikrognathie
- (28) Progenie
- (29) Cristae

又、胸骨破裂・漏斗胸・翼狀及ヒ舟狀肩胛骨・肩胛骨ノ高位及ヒ發育不全・棘狀突起尖端ノ二重⁽¹⁾・脊椎破裂⁽²⁾・短指症⁽³⁾・多指症⁽⁴⁾・游泳膜形成(指若クハ趾間ノ)・拇指缺損・指節肥大症・裂手症⁽⁵⁾・裂足症⁽⁶⁾・第一及第二趾間ノ分裂増強・内翻趾⁽⁷⁾・跟骨柏車⁽⁸⁾・内翻足⁽⁹⁾・空洞狀畸足⁽¹⁰⁾・先天性股關節脫臼・部分的四肢矮小症⁽¹¹⁾(先天性雙對性上膊骨發育不全)・骨軟骨腫・骨形成過剰

(ロ) 筋肉ニ於テ先天性缺損ヲ最、數、見ルハ大胸筋ナリ。

(ハ) 皮膚ニ於テハ色素異常・白癜風⁽¹²⁾・夏日斑⁽¹³⁾・色素母斑⁽¹⁴⁾・有毛色素母斑⁽¹⁵⁾・血管性母斑⁽¹⁶⁾・疣贅・乳腺大サノ不同・異常ニ小ナル乳暈・毛髮及ヒ爪ノ異常・後者ハ又、内分泌異常ニ因ルコトアリ。

眼ニ於テハ、瞼裂ノ斜走・内眥半月狀贅皮⁽¹⁷⁾・睫毛重生⁽¹⁸⁾・小眼球⁽¹⁹⁾・先天性レンズ體濁濁・缺損症⁽²⁰⁾・乳頭膜⁽²¹⁾・虹彩ノ色素斑・網膜中ノ有髓神經纖維。

(ニ) 耳ニ於テハ耳殼ノ缺損・異常ニ大ナル若クハ小ナル耳・耳朶ノ缺損・耳朶ノ癒著・耳輪ノ陷凹不全⁽²²⁾・ダーウソ氏突起⁽²³⁾。

(ホ) 口腔竝ニソノ附近ニテハ小齒牙・格子狀齒牙(齒間間隙)・齒隙⁽²⁴⁾(上側門齒ト犬齒間ノ間隙)・上顎正中門齒間隙⁽²⁵⁾・齒ノ位置異常・齒數ノ異常増減・上顎突出顔⁽²⁶⁾・下顎ノ發育不全⁽²⁷⁾・下顎突出⁽²⁸⁾・Orthogenie, offener Biss, wulstige Unterlippe(Habsburger Lippe)・兔唇・狼咽・前口蓋穹ノ缺損・口蓋隆起線・Spitzbogensaugen, kontrahierter Kiefer, 口蓋ノ異常ニ短キコト、軟口蓋若クハ口蓋穹ノ缺損・懸壅垂ノ缺損・懸壅垂破裂、口蓋扁桃腺ノ缺損・副扁桃腺ノ存在・先天性腺樣増殖・皺襞舌(或ハ陰囊樣舌)・地圖樣舌・甲狀腺舌導管ノ殘存・咽腔ノ廣サノ異常竝ニ左右不同・咽頭峽部ノ狹窄・鰓溝ノ殘物・鼻中隔ノ歪曲・又、櫛⁽²⁹⁾・鼻孔竝ニ鼻咽孔ノ不

- (1) Dextrokardie
- (2) Medianstellung

- (3) Rudimentäre Beineren
- (4) Kryptorchismus

開・硬腦膜腔ト前額竇若クハ篩骨細房トノ開通・喉頭蓋ノ缺損、又、オメガ形・モルガニ一氏囊及ビソノ附屬物ノ形態異常・氣管粘膜炎ノ軟骨及ヒ骨島嶼・食道憩室・食道弛緩及ヒ擴張。

(ヘ) 心臟竝ニ血管ノ成形異常ノ診定ハ屢、困難ナリ。臨牀上、重要ナルモノトシテハ肺動脈、大動脈、僧帽瓣口等ノ先天性狹窄・心房或ハ心室隔壁ノ缺損・心臟ノ位置異常(心臟右胸位畸形⁽³⁰⁾)・大血管ノ位置倒錯・ボタリー氏管殘存。

(ト) 腹部臟器ノ成形異常ハ唯、開腹手術ノ際ニミ明瞭トナルモノトス。即、内臟位置倒錯・メツケル氏憩室及ヒ他ノ腸憩室・小腸及ヒ直腸ボリーナ形成・大腸ノ後方若クハ左方轉位・移動直腸・肝臟下面ヘノ大腸ノ轉位・盲腸弛緩症・腸管ノ長サノ異常・漏斗狀又、異常ニ長キ蟲樣突起・肝臟又、脾臟ノ異常分葉・囊狀肝。

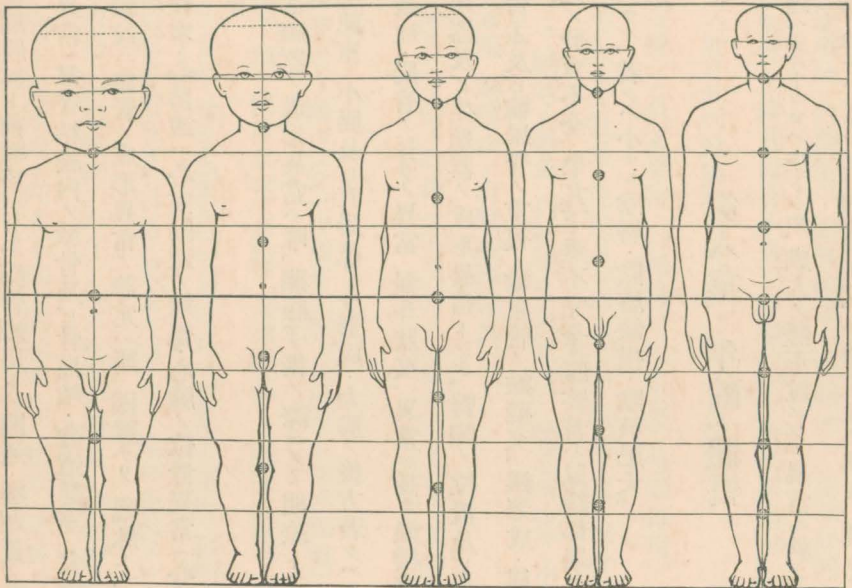
(チ) 泌尿器及ビ生殖器ノ成形異常トシテ、腎臟ノ位置及ビ形態異常・蹄腎・囊腫腎・腎發育不全・痕跡的過剰腎⁽³¹⁾・腎盂及ビ輸尿管ノ重複・輸尿管ノ皺襞又、瓣形成・屈曲・捻轉・閉塞・輸尿管ノ異常位置ヘノ開口・陰莖或ハ辜丸ノ發育不全・辜丸下垂不完全(腹腔若ハ鼠蹊部辜丸)・辜丸潛伏症⁽³²⁾・子宮及ビ腔ノ重複・子宮不開・異常ニ大ナル、若クハ小ナル陰脣・陰脣缺損・陰核肥大。

第六章 年齢ト體質

以上述べタルトコロハ主トシテ、成人ノ體形竝ニソノ異常ニ就テナリ。年齢ニ從ツテ身體計測値ノ大サ竝ニ體形ニ著シキ變化ガ伴ナハレルコトハ勿論ナルガ、身體組織ノ構成、種々ノ疾患ニ對スル罹患度、竝ニ罹患シタル場合ノ經過等ニ、甚シキ年齢の相違ヲ示スコトモ認メラル。今、ソノ主要ナル點ヲ述ベム。

生後發育期ヲ過ギテ成熟状態ニ達シ、次デ退行期ガ來タリ、遂ニ老衰死亡スルハ、生物界共通ノ現象トモ言フベ

第十圖



生長ノ割合(ストラッツ氏ニ據ル)

キガ、高等動物ニテハ、殊ニ顯著ナル現象ニ屬ス。而シテコノ變遷ハ特ニ生殖腺ノ機能ト密接ナル關係ヲ有スルモノトス、即、女子ニテハ十四五歳ノ月經ノ來潮ト共ニ、男子ニテハソレヨリ少シク後レテ生殖器ハ發育シ、體形モ成熟期ノソレニ近ヅク。男子ニテハ音聲ノ變換ガ著明トナル。而シテ女子ニテハ四十六七歳前後ニ月經閉止ト共ニ數、老衰現象ガ著シクアラハレル。男子ニテハソノ境界ハ明確ナラザルモノ、ソノ年齢頃ヨリシテ種種ノ老衰現象ノ來タルコトハ拒マレズ。七十歳以後ニテハ急角度ニ老衰ヲ來タス。生長ニ就テ述ブレバ、身長ハ生後一年ノ終リニ一倍半トナリ、五乃至七歳及ビ思春期ニ於テ殊ニ著シキ發育ヲ示ス。日本人ニテハ二十歳ニテ男子ノ身長ヲ一六〇センチメートル、女子ノヲ一五〇センチメートルトスレバ男子ハ初生兒ノ三

- (1) Quételet
(2) Bartel

(3) Max Berliner: Rückbildungsalter. Brugsch's Biologie d. Person. Bd. II. 1931. S. 286.

三倍、女子ハ二・一倍トナル。老年ニ入りテ再、多少減少ヲ示ス。體重ハ半年後ニ二倍、第一年ノ終ニハ三倍、六歳ノ終ニハ六倍ニ達ス。老年期ヘノ境ニ於テ頂點ニ達ス。女子ニテハ更年期ニ於テ急ニ脂肪ノ沈著ヲ來タスモノ多シ。ケトリー氏(1)ニ據レバ出生時ニ比シテ頭長ハ一生ノ間ニ二倍ニナリ、軀幹ハ三倍、腕ハ四倍、脚ハ五倍ノ長サニ、全身長ハ三ト五分ノ三倍ニ成長スル。頭長ト身長トノ割合ハ出生時ノ四倍ヨリシテ、成年期ニハ八倍ニ變化スト云フ。從ツテ身體ノ中央ハ出生時臍ノ高サニ在リシモノガ成熟期ニハ陰阜ノ高サニ至ル。第十一圖ハソノ關係ヲ示セルモノナリ。本邦小兒發育ニ關スル數値ニ就テハ、吉田章信氏(體育衛生統計類纂 診斷ト治療社發行昭和四年)ノ著書ニ之ヲ索ムルコトヲ得ルモ、最近、河村榮太郎氏(北陸小兒ノ發育學的研究 立命館大學出版部)ノ廣汎ニシテ且ツ一貫セル研究ハ大ニ參考ニ資スルニ足ル。胸廓ハ初、幅ヲ、後、深サヲ増シ、高サヲ減ズ。心臟ハ第一年ノ間ニハ比較的速ニ増大シ、次デ思春期ニ至ルマデ次第ニ増加率ヲ減ズ。思春期ニ至リテ再、劇増シテ二十五歳乃至五十歳ニシテ頂點ニ達ス。年齢ニ從ヒテ速カナル變遷ヲ呈スルハ胸腺ニシテ、小兒期ニ速ニ増大シテ思春期ニハ既ニソノ退行期ニ相當ス。バルテル氏(2)ニ據レバ淋巴系統發達ノ頂點ハ第一年ノ終ナリト云フ。松果腺ハ男兒ニテハ八歳以上ソノ機能ヲ保ツコトナシ。

組織ノ水分含量ハ年齢ト共ニ減少シ、固形分ノ量ハ漸次ニ増加ス。換言スレバ、身體ヲ形成セル細胞ノ膠質體系ハ年ト共ニゾールノ状態ヨリゲルノ状態ニ向ツテ移動スルモノニシテ、ソノ非常ニ甚ダシクナレル状態ヲ老衰ナリト云フ。即、初生兒ト成人トノ間ニハ水分・蛋白竝ニ膠分・脂肪・灰分・抽出物ノ含量ニ於テ體量百分中ニ次ノ如キ(第八表)相違ガ掲ゲラル(バルザネル氏ニ據ル(3))。血壓ハ最大血壓ガ五歳ニテ七〇ミリメートル水銀柱ヨリ、十五歳ニテ一二四ミリメートルマデ急角度ニ上昇シ、其後五

第八表 (ベルグネル氏ニ依ル)

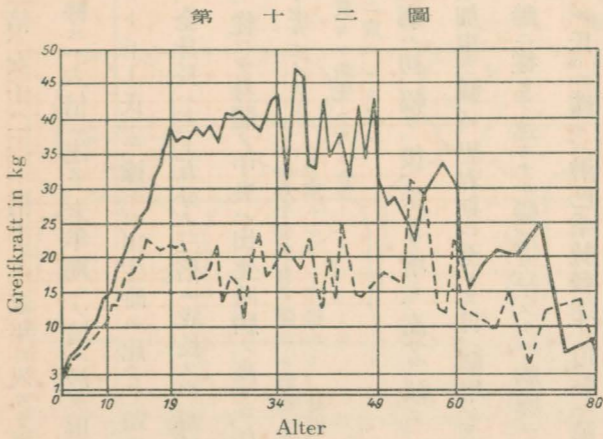
抽出成分	成人	
	Cammer u. Solmer 據ル	Bischoff 據ル
水	七一・二	六〇・〇
蛋白質	一一・四	一六・〇
脂肪	一三・三	一九・〇
灰分	二・四六	五・〇

乃至六十歳頃ニ及ブマデニ二三〇ミリメートル位ニ達シ高齡ニテハ、再、多少ノ下降ス。

身體的ノ作業能力ハアシー⁽¹⁾氏ニ據レバ二十歳位ニシテ最高ナリト云フ。日本人ニテ握力ハ第十圖ニ示スカ如ク十九歳位マデ急ニ増加シ、爾後五十歳位マデ高位ニ止マリ、次テ下降ス⁽²⁾。作業ノ

種類ニ依リテ多少年齢ノ相違アリ、自轉車乗ハ三十乃至四十歳位ガ頂點ナリ。細針金引キ作業ハ三十二歳乃至三十四歳、運搬作業ハ二十八歳、精神能力ハ三十六歳乃至四十二歳ガ最高ナリ(ビーンコフスキー氏⁽³⁾)。ウヅモル⁽⁴⁾氏ハ成長トエネルギー代謝トノ關係ヲ究メ、體重ト基礎代謝トノ間ニハ一定ノ數學的ノ關係ノアルコトヲ明カニシタリ。

疾病ト年齢トノ關係ハ甚、著シキモノアリ。殊ニ多クノ傳染性疾患(流行性腦脊髄膜炎、急性脊髄前角炎、赤痢(疫痢)、ヂフテリ、結核、ソノ他、起炎菌(葡萄狀球菌・連鎖狀球菌・肺炎球菌、等ソノ他)ニ對シテハ小兒ノ方ガ大



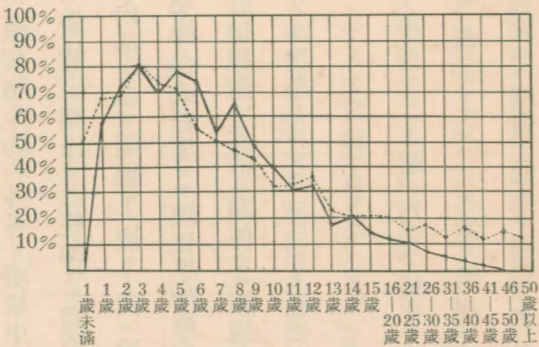
Graphische Darstellung der Greifkraft des Japaners in der rechten Hand.
日本人右手ノ握力(永井氏ニ據ル)

- (3) Bienkowski
- (4) N. C. Wetzel (Referat: Journ. of Amer. Med. Assoc. 1934 Vol. 103 No. 26 P. 2030.)

- (1) Asher
- (2) S. Nagai: Die Körperkonstitution des Japaners. Biologie der Person. Bd. II. S. 425, Berlin & Wien 1931.

- (1) Neufeld
- (2) 太田綱三。病原因ニ對スル感受性ノ年齢的差異ニ就テ。十全會雜誌。第三八卷。第六號。(昭和八年)。第三九卷。第十二號(昭和九年)
- (3) 豊田太郎。猩紅熱ト體質。稻田編疾病治療ト體質。診断と治療社。昭和三年。三七八頁
- (4) Dick Test.

第十三圖



(豊田氏ニ據ル)

ツク陽性率ト患者數トノ比較ヲ示シタルモノナリ。

年齢ノ體質的關係ニ就テハ甚、多クノ事實ガ記載セラレテ居ルモ、ココニハ極メテ概略ニ止メタリ。何レニシテモ、體質ト疾患ノ關係ヲ考フル上ニ、年齢ヲ考慮ノ中ニ入ルルハ如何ナル場合ニモ必要ナルコトナリ。又、多クノ體質的ノ特徴ハ幼年以後ニ於テ明瞭トナルハ學者ノ等シク認ムルコトナリ。

人ヨリ抵抗力弱キモ、上述ノ起炎菌ノ合併ナキ麻疹・猩紅熱・痘瘡・テキサス熱等ニ對シテハ却、小兒ノ方抵抗ガ強ク、輕症ニ經過スト言ハル。コノ事ニ關シテハノイズル⁽¹⁾氏及ヒソノ一派ノ動物試驗アリ、我國ニテモ太田原、市原氏等ノ癩菌ニ就テノ試驗アリ、殊ニ太田氏⁽²⁾ハ最近ヂフス菌・パラヂフス菌・靈菌・結核菌等ニ就テ詳細ナル試驗ノ結果、仔獸ガ成熟獸ニ比シテ遙カニ抵抗力ノ弱キコトヲ證明シタリ。第十三圖ハ豊田氏⁽³⁾ニ據ルモノニシテ大連ニテ三千人ノ猩紅熱患者ノ年齢別ヲ示セルモノニシテ、滿三歳ガ最高八六・五アロセントヲ占メタリ。コノ數字ハ一二四八名ノ健康者ニ行ヒタルツクテスト⁽⁴⁾ニテ、滿三歳ノ小兒ガ八九アロセントノ最高率ヲ呈スルコトト、極メテヨク一致スルト云フ。圖ハチ

第七章 液態體質 Die humorale Konstitution.

附 體質血清學

- (1) Virchow
- (2) Körpersäfte der Person. Bd. III. S. 1.
- (3) Max de Crinis: Die humorale Konstitution. Brugsch's Biologie der Person. Bd. III. S. 1.

古キ時代ノ液態生理學並ニ病理學ガウイルヒ、ウ氏⁽¹⁾細胞生理學並ニ病理學ニ代ラレテヨリ以來、細胞・組織・臟器・全身間ノ關係ハ重要視セラルルニ至レリ。シカレドモ、ソレハ決シテ種種ノ生物學的並ニ病理學的ノ研索上ニ體液⁽²⁾ノ研究ガ蔑視セラレタルコトヲ意味スルモノニアラズ。殊ニ一、生體内部ヲ窺フヲ得ザル臨牀家ガ體液ノ研究ニヨリテ體細胞・臟器及ビ夫等相互ノ間ニ行ハルル種種ノ機轉ヲ間接ニ窺知セントノ企圖ハ、一日モ忽セニセラレタルコトナシ。又、細菌學・血清學ノ進歩ハ、體液ニ現ハルル種種ノ免疫現象ヲバ診斷及ビ治療上ニ應用シテ大ナル貢獻ヲナシタリ。

血液・淋巴・組織間液等ハ常住的ニ細胞ヲ圍繞洗滌セリ。換言スレバ體細胞ハ體溫ノ環境ノ中ニ浮游生存スルコト、恰、單細胞生物ノ外界ノ環境中ニ於ケルノ關係ニ比スベキモノアリ。(ド、クリニス氏⁽³⁾)。從ツテ體液ト細胞トノ間ニハ密接ナル關係アリ、些細ナル體液ノ變化ガ細胞ニ顯著ナル且、重大ナル變動ヲ與フルモノトス。

細胞内部トコレヲ圍繞セル液トノ間ハ嚴重ナル理化學的透析膜ニ境セラル。兩者間ニ於ケル水及ビコレニ溶解セル物質ノ交換ハ、或程度マデ理化學的原則ニ從ツテ行ハル。即、體液環境ノ滲透壓・水素イオン濃度・諸種イオンノ含量等ハ直接細胞ノ死活ニ關係セル細胞内ノ水分・諸成分・膠質膜ノ性状等ヲ支配スルモノナリ。

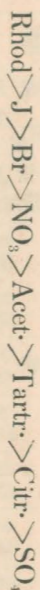
血液ノ滲透壓ハ0.567(0.55—0.57)、動脈血ノ水素イオン濃度ハ $\text{PH} = 7.35(7.30—7.40)$ 、ソノ豫備アルカリハ炭酸瓦斯43—58容積プロセントニシテ、コレ等ハ何レモ微妙ナル調節機能ニヨリテ可及的一定ニ保タレ、以テ時々刻々ノ細胞ノ生活ニヨリテ起ル内部ノ變化ヲ調整スルモノナリ。體液滲透壓ノ下降或ハ上昇ハ夫夫、細胞ノ膨脹或ハ萎縮ヲ來タシ、甚シキトキハソノ死滅ヲ誘起ス。水素イオン濃度ノ變化ハ直接細胞内諸酵素ノ作用好適ヲ支配スル外ニ、細胞ヲ形成スル膠質ノ状態ヲ變化シテ、ソノ生存ヲ困難ナラシムルモノトス。

- (1) Kappo(De Crinisニ據ル)
- (2) Snapper
- (3) Sauvage
- (4) Clogue
- (5) van Slyke
- (6) Heubner
- (7) Meyer-Bisch
- (8) Greanwald
- (9) Kramer
- (10) Tisdall
- (11) Feigl
- (12) Denis
- (13) Minot
- (14) Richter
- (15) Quittner
- (16) 茶谷康雄。カルシウム利尿ニ關スル臨牀的觀察並ニ二三血清鑛質ノ移動ニ就テ。日本內科學會雜誌。第二十卷。第三號。昭和七年六月。同人「カルシウム」代謝ニ關スル實驗的研究。十全會雜誌第四十一卷第一號(昭和十一年一月)
- (17) Kraus-Zondek
- (18) Stheeman

種種ノ鑛質イオン相互間ニハ相牽制シ、相輔佐スルノ作用アリ、コレニヨリテ身體諸機能ハ保持セラル。一般ニ一價ノカチオンハ細胞生活ニ對シテ有毒ニ働キ、コレニ對シテ二價ノカチオンノ毒力ハ餘程小ナリ。コレ等カチオンノ細胞ニ對スル毒力ノ順序ハカッポ氏⁽¹⁾ニ據レバ



ニシテ、アニオンニ就テモ左記ノ如キ毒力ノ順位アリ。



膠質化學的ニKイオンハ膠質ノ膨化ヲ來タシ、Caイオンハ縮化ヲ來タス。コレ等イオンハ生體ノ水代謝・消炎機轉ニ關係スルトコロ少ナカラズ。

諸イオンノ血液中ノ含量ハスナツベル⁽²⁾、サウヴァージ⁽³⁾、クローグ⁽⁴⁾、ワンスプライク⁽⁵⁾、ホイブネル⁽⁶⁾、マイエル・ビツツ⁽⁷⁾、グリーンワルド⁽⁸⁾、クラーム⁽⁹⁾、ヂスダール⁽¹⁰⁾、ライグ⁽¹¹⁾、デニス⁽¹²⁾、ミノ⁽¹³⁾、リビテル⁽¹⁴⁾、カッポ⁽¹⁵⁾、ソノ他、諸氏ノ測定ニ從ヘバ、第九表ノ如クナリ。コノ價ハ大野、茂在、谷野、菊池、谷口、ソノ他多數ノ人人ノ日本人ニ就テノ測定ノ値ト大凡一致セリ。血清鑛質含量ハ又、極メテ良ク調節セラル。我教室、茶谷氏⁽¹⁶⁾、人、犬等ニ就テ CaCl_2 、 MgCl_2 等ノ相當大量ヲ連日靜脈内ニ注射スルモ、血清諸鑛質含量ニ甚シキ變化ヲ來タサザルコトヲ經驗シタリ⁽¹⁷⁾。

近來、K、Caノ拮抗關係ガ植物神經、内分泌ト關聯シテ興味ヲ以テ研究セラル。クラウス・ツォンデク氏⁽¹⁸⁾一派ノ研究ニ據レバ、Kハ迷走神經ノCaハ交感神經ノ緊張ヲ亢進シ、心臟ニ對シテハ前者ハ抑制的ニ、後者ハ促進的ニ作用ス。Ca代謝ト血液ノCa含量トハ一方ニ上皮小體、他方ニビタミンDニ影響セラルルコト大ナリ。ステーマン⁽¹⁸⁾

- (1) Kalziprive Konstitution
- (2) Lubowski : Deutsch mediz. Wochenschr. 1923. s. 673. (Borchardt 氏ニ據ル)

第九表 血液中ノ鑛質成分
(Tabulae Biologicae Bd. III. S. 389)

アニオン	條件	100 珪中ノ 限界値 平均値	濃度並 ニ當量	報告者
Cl ⁻	正常人血漿	320—400	355	0.100n. Snapper 等
	初生兒	310—350		Sauvage et Clogue
	靜脈血漿	動搖25%	150	0.026n. Henderson 及 V. van Slyke
	正常人血清	150—235	200	0.005n. Heubner 及 V. Meyer-Bisch
SO ₄ ⁻	血漿並ニ血清	30—150	100	0.002n. Greenwald.
HPO ₄ ⁻				
J, Br, F, 等 硅酸				
計 0.133 酸當量				
カチオン	條件	100 珪中ノ 限界値 平均値	濃度並 ニ當量	報告者
Na ⁺	血清	280—310	300	0.130n. Kramer
	總カチオンノ 90%ヲ占ム	285—315		Feigl
K ⁺	血清	16—22	20	0.005n. Kramer
		16—24	20	0.005n. Feigl
Mg ⁺⁺	血清	1.6—3.5	2.5	0.002n. Denis
		2.1—2.9		Kramer u. Tisdall
		0.8—3.8		同上
		2.3—5.2		Feigl
Ca ⁺⁺	血清	8—16	10	0.005n. Kramer u. Tisdall
	枸橼酸血漿	8—12	10	Denis u. Minot
	ヒルチン血漿	9—24		Richter u. Quittner
	血漿		9	Jansen
ヒルチン血漿	8—36		Richter-Quittner	
NH ₄ ⁺	血清	1/4—1/2	0.27	不定 Henriquez u. Christensen
Al, Mn, As 等				
計 0.142 鹽基當量				

氏ハ小兒ノ低Ca體質ナルモノヲ提唱シ、ルボフスキー氏(2)モ成人ノ無力性體質者ニ、正常値下ノ血液Ca量ヲ有セルモノノ多キコトヲ認メタリ。

吾人ガ血液ニ就テ認メ得ルトコロノ變化ニ、ソノ有形成分ト化學成分トアリ。有形成分ハ主トシテ造血臟器ノ状態ヲ反映シ、コレニ關シテ赤血

球(男500萬々450萬)血色素(男14.5%、女13.5%)ノ値ノ外ニ、ソノ形態、網狀赤血球ソノ他モ注意セラル。白血球數ハ一面ニ造血機能ニ關係スル外ニ、種種ノ感染ソノ他ニ際シテ生體ノ反應防禦ノ状態ヲ映スモノナリ。

- (1) 日置陸奥夫・倉重外幾雄。臨牀的脂肪代謝障礙ニ關スル研究。第一編。十全會雜誌。第三卷。第九號(昭和六年九月)
- (2) 清水清輔。東京醫事新誌。第五十九年。第二九一七號。昭和十年二月十六日。四〇九頁

(3) 日置陸奥夫・倉重外幾雄。臨牀的脂肪代謝ニ關スル研究。第二編。十全會雜誌。第三卷。第九號。昭和六年九月

血液化學成分ノ一一ニ就テ述フルハ、本書ノ範圍外ニ屬スルモ、ソノ恒常成分トシテノ血糖(81—105 mg/100 ml)及ビ脂質含量ナドハ體質ト密接ナル關係アリ。第十表ハ日置、倉重兩氏(1)ニ據レルモノニシテ、同一方法ヲ用ヒタルブルーア、辻兩氏ノ成績ヲ比較スルモ、後者ノ値ガ、前者ノソレヨリ一般ニ小ナルコトガ認メラレ

第十表 血液脂質(日置、倉重氏ニ據ル)

測定者	測定法	總脂酸			レチヂン			總コレステリン			遊離コレステリン			總コレステリンレチヂン		
		全血	血漿	血球	全血	血漿	血球	全血	血漿	血球	全血	血漿	血球	全血	血漿	血球
ブルーア	ブルーア	0.36	0.39	0.33	0.29	0.21	0.42	0.22	0.23	0.22	—	0.087	—	0.741	0.520	0.470
注	ブルーア	0.32	0.30	0.34	0.28	0.20	0.39	0.19	0.17	0.21	0.11	0.06	—	0.860	0.850	0.530
日置・倉重	ブルーア式法 大里・日置法	0.2630	0.1650	0.3620	0.2360	0.1440	0.3150	0.1190	0.1070	0.1390	0.0760	0.0340	0.1290	0.500	0.740	0.440
														0.590	0.520	0.650

*コレステリンノ値ガブルーア式法ニ比シテ通ニ小ナルハ、ブルーア式法ハ比色法ニ依リ日置・倉重氏ハチギエーニ法ニ依リメスルナル。日置氏等ハ別ニ比色法ヲ辻氏ト大同小異ノ値ヲ掲ゲテ居ル

コノ事ハ最近、殊ニ清水氏(3)ノ注目セル事實ニシテ、コレガ果シテ日本人ト西洋人トノ食物ノ相違ニ由來スルカ、或ハ人種の相違ニ依ルモノナルカハ興味アル問題ナリ。日置、倉重氏(1)等ハコレステリンノ投與ガ、正常人ニ比シテ動脈硬化ヲ有スル個體ニテハ、血液コレステリン量ノ增加率及ビ増加持續期間ヲ大ナラシムルコト、及ビ早朝空腹時ノ値ヲモ大ナラシメルコトヲ認メタリ。體質の見地ヨリモ多少ノ興味ナキニアラズ。

血液諸成分中ニハ極メテ微妙ニ全身若シクハ局部ノ状態ヲ反映スルモノ尠カラズ。上述ノモノノ外ニ、水、蛋白質、ソノ他ノ有機性成分・無機性成分等ニツキテハ體質學の見地ヨリスルモ大ニ究メラルベキモノ多クアルモ、今日ノトコロ、ソノ間ノ關係ニ就テ闡明セラレタルモノ尠、多カラザルガ如シ。

(1) Comessatti
 (2) 須藤憲三. 小醫化學實習. 第十五版
 瓜生滋生館發行. 昭和五年
 (3) 石川九. 日本內科學會雜誌. 第十五
 卷. 第八號(昭和二年十一月)

(4) 平田久光. 愛知醫學會雜誌. 第三八
 卷. 第七號(昭和六年七月)
 (5) Veil u. Sturm: Deutsch. Arch. f.
 Klin. Med. 1925 Bd. 147 S. 190
 (6) Mikrozytose

吾人ガ今日、未、十分定量的ニ追及スルコトヲ得ズシテ、而モ體質學的ニ重要ナル意義ヲ有スル物質ニ、諸種ノホルモ
 ン、ウタミン等アリ。コレ等物質ノ化學的探究ハ實ニ日進月歩ノ状態ニアリ、近キ將來ニ於テコレヲ定量的ニ追及スル
 コトヲ得ル日ノ來タルベキモ、今日マデノ生物學的及ビ化學的定量的法(タトヘバアドレナリンノ定量ニ關スルコメサツヂ
 氏⁽¹⁾法ノ須藤氏⁽²⁾ノ變法⁽³⁾等)ハ尙、理想ニ遠キモノノ如シ。最近、ウタミン化學ノ進歩ト共ニ種種ウタミンノ化學的定量
 法モ考案セラレツツアリ、殊ニウタミンCノ定量ノ如キハ臟器組織體液共ニ相當信賴スベキ値ヲ出スコトヲ得ルガ如シ。コ
 レ等ハ將來大ニ刮目スベキ成績ヲ齎スナラム。甲状腺ホルモンノ主要成分タル沃度ニ就テハ今日吾人ノ相當信賴スベ
 キ定量的測定法ヲ有セリ。本邦ニ於テ石川氏⁽⁴⁾ハ昭和二年健康人ノ血液沃度値ヲ測定シタルニ、ソノ成績ハ、
 男:最高11.7, 最低8.1, 平均9.38%; 女:最高16.0, 最低8.0, 平均11.08%
 ニシテ男子ガ女子ヨリ低キ値ヲ示スコトヲ述ベタリ。平田氏⁽⁵⁾モ略、同様ノ値ヲ掲ゲ、冬期ガ夏季ニ於ケルヨリ少シク低キ
 値ヲ呈スト云フ。以上ハ何レモ西洋人ニ就テノマイル及ビスツルム氏⁽⁶⁾ノ成績ト相似タリ。中川門下殊ニ石川氏
 ハ尙、多クノ沃度代謝ニ關スル業績ヲ發表シタリ。單純性甲状腺腫ニアリテハ血中沃度價低ク、バセドウ氏病ニアリ
 テハ高キコトモ、和、洋同一ノ成績ニシテ、體質的見地ヨリ見ルモ誠ニ興味アルコトニ屬ス。コノ問題ハ尙、無機沃度有
 機沃度ノ量的比率等ノ興味アル問題ニ入り行クベキモ、コノハコレニ觸レズ。
 赤血球及ビ血色素ノ形態的竝ニ量的相違ガ屢、體質的ニ特質ヲ反映スルコトハ多數ノ學者ノ認ムルトコロニシテ、
 殊ニ青春期・更年期等ニ於テ體質的低色調性貧血者ヲ見ルコト稀ナラズ。女子ニアリテハ萎黃病トシテ特ニ著シキ低
 色調性貧血ヲ呈スルモノアリ、ソレガ卵巢ノ機能不全ニ歸セルルコトハ前述シタリ。溶血性貧血患者ノ小血球症⁽⁶⁾ハ
 赤血球容積ノ減少ヨリハ寧、ソノ直徑ヲ減ジテ厚サヲ増セルコト、換言スレバ扁平形ヨリ球形ノ赤血球トナルニヨルコト

(1) Naegeli, Allgemeine
 Konstitutionslehre
 參照
 (2) Turmschädel
 (3) Naegeli
 (4) Sichelzellen
 (5) Ovalozyten

(6) Böhringer :
 (Borchardt
 =據ル)
 (7) Barath
 (8) Eosinophilie
 (9) Eosinophile
 Diathese
 (10) Kocher

(11) Veil (12) Kloze
 (13) Lampe u. Liesegang
 (14) Post (15) Brumow
 (16) K. Wossidlo. Über die
 vegetative Regulation des
 weissen Blutbildes. Folia
 haematologica. Bd. 53.
 Heft. 2. 1935. S. 113

(17) 篠崎哲四郎. 日本
 內科學會雜誌. 第
 二十二卷. 第五號.
 昭和九年八月. 昭
 和十年三月. 臨時
 號

ハ近來、殊ニ高唱セララルトコロナリ⁽¹⁾ (Kugellanaemie)。ソノ症狀トシテ發作的ノ溶血ニ伴ナフ黃疸、肝及ビ脾ノ腫
 脹等ノ外ニ、體質的徵候トシテ、塔狀頭⁽²⁾ガネーグラー氏⁽³⁾ニ依テ高唱セラレタリ。ソノ他、新月形赤血球⁽⁴⁾、卵形赤
 血球⁽⁵⁾等何レモ突然變異ニ因リテ起レルモノナリト云フ(ネーグラー氏)。
 白血球簇ガ種種ノ感染、毒物ノ作用等ニ對シテ活潑ナル反應ヲ呈スルハ周知ノコトニ屬ス。ソノ反應ノ状態ハ個
 體的體質的ニ或程度ノ著シキ相違ヲ示セリ。コノコトハヌクレイン液注射ニ對スル多核白血球增多ニヨル反應状態
 ニ依テ示サレタリ。ペーリソングル氏⁽⁶⁾ニ據レバ、コノ反應ハ正常體質ノ人ヨリハ無力性體質ノ個體ニ於テ殊ニ顯著ナリ
 ト云フ。コレニ反シテ、毒物ノ作用後、若クハ感染ノ恢復期ニ於テ見ラルル淋巴球竝ニエオジン嗜好細胞增多症モ體質
 的ニ相違ヲ示スモノニシテ、バラート氏⁽⁷⁾ニ據レバ、腸デフス豫防注射後ノ該反應ハ無力性體質者ニハ缺如シ、主トシ
 テ多核細胞增多ヲ呈スト云フ。エオジン嗜好細胞增多症⁽⁸⁾ガ種種ノ寄生蟲病ニ顯著ニ現ハルルコトハ周知ノ事實ナル
 ガ、コレヲ除外スルモ、折折遭遇スルモノニシテ(エオジン嗜好細胞增多症素質⁽⁹⁾)コノ状態ハ或程度マデアレギー性體質
 ト一致スルコトガ知ラレタリ。

コツヘル氏⁽¹⁰⁾以來、甲状腺腫患者ニ單核細胞增多ガ注目セラレタルガ、マイル⁽¹¹⁾、クローズ⁽¹²⁾、ランペ、グラーセ
 ガング⁽¹³⁾、ポスト⁽¹⁴⁾、ブルモフ⁽¹⁵⁾ソノ他多數ノ人ノ研索ニヨリテ、白血球像ガ内分泌臟器及ビ植物神經機能ヲ反映
 スルコトガ認めラレタリ。コレ等ノ詳細ニ關シテハ尙、幾多ノ疑問モアリ、研究者間ノ成績ノ一致セザル點モ尠ナカラザルガ
 如シ。近來、血液白血球像支配ノ中樞ハ腦幹核ニアリト言ハル(文獻ウツシンドロ氏⁽¹⁶⁾ニアリ)。本邦ニ於テハ最近、
 篠崎氏⁽¹⁷⁾等ガ深クノ問題ヲ研究セルモノアリ。

體質血清學 Konstitutionsserologie.

ランドスタイン(1)氏(一九〇一年)次デモツス(2)、ヤンスキー(3)、ベルンスタイン(4)、フォン・ヅンゲル(5)及ビヒルススルド(6)、古畑、桐原、ソノ他多數ノ人々ニ依テ、人類ノ血液型ニ就テノ研究ガ漸次ニ進展セシメラレタリ(7)。今日一般ニ信ゼラルルトコロニテハ、人ノ血液ハソノ血球並ニ血清ノ有スル凝集原並ニ凝集素ノ種類ニ從ツテ、主トシテ次ノ四型ニ區分セラレ。

I	O	αβ
II	A	β
III	B	α
IV	AB	αβ

コノ血液型ノ區別ハ血液以外ノ體液ノミナラズ、身體内ノ臟器・細胞ニ於テモ認メラレ得ルコト明カトナレリ(最近ニテハA₁、A₂、B₁、B₂等ノ亞型モ唱ヘラル)。
ベルンスタイン、フォン、ヅンゲルン及ビヒルススルド、古畑等諸氏ノ研究ニ依リテ、右ノ血液型ハ遺傳形質ニ屬スルコトノ證明ヲ得タリ。ズルシール(8)氏ハ一卵性雙生兒ニテハ血液型ハ一〇〇%一致スト云フ(一四九頁第二圖參照)。今日一般ニハベルンスタイン氏、古畑氏等ノ三遺傳單位說ガ行ハレテ居ルガ、兩者ノ所說ノ内容ニハ相當ノ開キガアリ、古畑氏(9)ハ氏等ノ唱フルO、A、Bノ人類血型ノ三元說ニ基ツテ遺傳ノ形式ヲ以テ正シキモノナリ

(8) Verschuer (1) Landsteiner (2) Moss (3) Jansky
 (9) 古畑種基。血液型遺傳ノ再檢討。型的凝集素ノ產生ニ遺傳アルカ。犯罪學雜誌。第八卷。第六號。昭和九年十一月
 (4) Bernstein (5) von Dungern (6) Hirsfeld
 (7) 文獻 L. Lattes, Die Individualität des Blutes in der Biologie, in der Klinik und in der gerichtlichen Medizin. Übersetzt von Fr. Schiff. 1925. L. Hirsfeld, Konstitutionsserologie und Blutgruppenforschung 1928 ニアリ

ト主張セリ。氏ハ又、血清ノ性質モ遺傳スト説キタリ。

デンドスタイン(1)及ビシグン(2)氏(一九二七年)ガ家兔ニ人血球ヲ注射シテ抗人血球抗血清ヲ試験セル中ニ、ソノ家兔ノ或モノニ容易ニ發生シ得ル抗血清ヲ利用シテ、更ニ人類ノ血清ニM、N型ヲ分ツテ得ルコトヲ報告シタリ。日本ニ於テモ橋本氏(一九三二年)ハコレヲ追試證明シ、滋野、石津、ソノ他古畑門下諸氏等ハソノ確實性ヲ認メタリ。次デランドスタイン(3)及ビシグン(4)氏ハ又、P型ヲ報告セルガ、最近(一九三四年)古畑、今村氏等ハ豚血清ノ有スル抗人血清ヲ利用シテ、Q型ノ存在ヲ報告セリ(5)。以上諸型ハ何レモ遺傳形質トシテメンデル(6)氏ノ法則ニ從ツテ遺傳セララルコトガ證明セラレタルモノナリ。

O、A、B、ABノ血型ガ特殊ノ疾患トノ間ニ何等カノ關係アルヤニ就テ、一時學者ノ興味ヲ以テ研究シタル成績ハ、否定的ノ結果ニ到達シタリ。シカレドモコレハ輸血ノ實施等ノ場合以外ニ、法醫學上ニ個人ノ鑑別・親子ノ鑑定等ニハ實際上甚、重要ナル役割ヲ演ズルニ至レリ。

一九一八年、ヒルススルド(7)氏ハ、當時、マケドニアノ平原ニ屯セル世界十六ヶ國ノ兵士ノ血液型ヲ調査シ、各人種ニ比率上著明ノ差異アルコトヲ發見シ、ソノ比率

$$\frac{A\% + AB\%}{B\% + AB\%}$$

ヲ生化學的人種係數(8)ト名ツケタリ。ソノ値(9)以上ヲ以テ歐羅巴型、(10)以上ノモノヲ亞細亞・阿弗利加型、此ノ兩者ノ中間ニアルモノヲ中間型ト命名セリ。コノ考ハソノ後オツテンベルグ(11)(一九二五年)、スイデル(12)等諸氏ニ依リテ變改サレシガ、今日、尙、人種學的ノ興味ヲ失ハズ。

古川氏(13)(一九三一年)ハ血液型ガ人ノ氣質(14)ト密接ナル關係アルコトヲ唱道シ、殊ニ教育者ノ間ニ大ナル興

(1) K. Landsteiner u. Th. Levine, Proc. Soc. exp. Biol. and med. Vol. 24. 1927.
 K. Landsteiner u. Th. Levine, Journal of exp. Med. Vol. 48. 1928
 (2) 古畑種基。今村昌一：新血液型Qノ遺傳ニ就テ。日本醫事新報。第六四七號。昭和十年一月二十六日
 古畑種基：最近ニ於ケル血液型ノ研究。醫界展望。第八號。昭和十年一月二十六日
 (3) Mendel
 (4) Hirsfeld, H. u. L., Serological differences between the blood of different races. Lancet vol. 180. p. 678 1919.
 Hirsfeld, H. u. L., Essai d'application des methodes sérologiques en problème des races. Anthropologie. Bd. 29. S. 505. 1918/19
 (5) Biochemical Racial Index
 (6) Ottenberg (7) Suyder
 (8) 古川竹二。心理研究。第一輯。犯罪學雜誌。第四卷。第二號 (9) Temperament

- (1) Weichardt
- (2) Puppe (3) Leers
- (4) Ehrenroth
- (5) Lattes
- (6) Bermbach
- (7) Dervieux
- (8) Hooker & Anderson

味ヲ以テ迎ヘラレシガ、今日尙、賛否交々ナル状態ニテリ。
 個人特異性ノ免疫血清ヲ得ベク、ワイピアルト⁽¹⁾、ブツベ⁽²⁾、シールス⁽³⁾、エーレンロート⁽⁴⁾、グヅテス⁽⁵⁾、ベルムバツ⁽⁶⁾、デルヴィウ⁽⁷⁾、フリーカー⁽⁸⁾及ビアンダーソン⁽⁹⁾ソノ他諸氏ニ依リテ、人ノ血漿・精蟲・血球、ソノ他ヲ以テノ動物ノ免疫試験ハ、或程度ノ成績ヲ得タルモ、今日、未、ソノ目的ヲ達スルニ至ラズ。但、血型特異ノ高價ノ免疫血清ヲ得ルコトハ成功シタリ。上述ノM、N型ノ如キモ、ソノ一產物トモ做サルベキモノナラム。
 血清學ノ研索ニ從事スル人ノ誰シモ日常經驗スルトコロナルガ、同一種屬ノ動物ノ間ニモ、各動物血清ノ有スル種ノ正常免疫素ノ量ニ大ナル開キアリ。タトヘバ山羊ノ血球ニ對スル正常家兔血清ノ正常溶血素價ハ個體的ニ大ナル相異ヲ示セリ。コノ性質ヲ利用シテ吾人ハ屢、容易ニ高價ノ抗山羊血球抗家兔血清ヲ作ルノ便宜ヲ得タリ。同様ノ現象ハ人類ノ血清ニ於テモ認めラレルトコロニシテ、コノ吾人ノ實驗室裡ノ經驗ヲ敷衍スルトキハ、人體ノ種種ノ物質ニ對スル正常免疫體ノ量竝ニコレニ隨伴スル抗體產生ノ個體的難易現象ガ、種種ノ傳染病ニ對スル個體ノ態度ノ相違ヲ説明シ、又、アレルギー性疾患ノ成生ニ對スル或程度ノ合理的ナル説明ヲ與ヘ得ルモノナラム。

第八章 體質異常 Konstitutionsanomalien.

以上、體質ニ就テ一般的記述ヲナシタル後ニ、體質ト密接ナル關係ヲ有スル疾病ヲ論述スルヲ當然ノ順序トスベシ。今、體質の見地ヨリシテ、個人ヲ觀察スルニ、大多數ノ正常人ニ比シ種種ノ環境⁽¹⁰⁾ノ影響ニ對スル反應狀況ヲ異ニセル個體ノ數、存スルコトヲ認め得ベシ。コレガ斷片ノ二早クヨリ臨牀家ノ注目ヲ惹キ、ソノ場合場合ノ命名ガ付セラレタルコトハ既ニ緒言ニ述ベタリ。コノ特殊ノ状態ニアル個人ヲ幾何カノ群ニ分ケテ觀察スルトキ、ソコニ體質異常トモ稱セラルベキ

- (1) Löwenthal
- (2) Torsten
- (3) T. von Hellmann
- (4) Fahr

(5) Hellmann: Studien über das lymphoide Gewebe IV. Zur Frage des Status lymphaticus. Zeitschr. f. Konstitutionslehre. Bd. 8 s. 191 1922.

- (6) Ceelen
- (7) Riesenfeld
- (8) Fahr u. Kuble
- (9) Rieder
- (10) Löwenthal

モノノ先人ニ依リ記載セラレタル所以ノモノガ自ラ明瞭トナルナラン。即、體質異常ノ一部ハ既ニ第四章ニ述ベタルトコロニ包括セラレ、主トシテ形態學の見地ニ基ツキ、他ノモノハ全ク機能的・反應的特異點ニ重キヲ置ケルモノトス。而シテコノ形態的及ビ機能的特異點ハ互ニ不可分ノ關係ニアルモノニシテ、ソノ輕度ノモノハ正常人ト、又、ソノ高度ノモノハ、疾病状態トノ間ニ緩カナル移行ヲ示セリ。今ココニハ、單ニ先輩ニ從ツテ簡單ナル記述ヲナスニ止メントス。

一、胸腺淋巴體質 Status thymicolymphaticus, A. Paltauf.

胸腺ガ正常以上ノ大サヲ呈シ、且、淋巴組織ノ普遍的ノ肥大ヲ特長トストコロノ體質異常ニシテ、淋巴腺・舌根及ビ喉頭濾胞・腸粘膜及ビ脾臓ノ濾胞等、スベテ肥大ヲ來タス。コノ體質ノ特有ノ反應様式トシテ、些細ノ影響ニ因ル突發死ヲ來タスコトガ強調セラレ。

世界戰爭ニ於ケル經驗ニヨリテ、健康人ノ淋巴裝置ハ、從來考ヘラレタルヨリハ、遙カニ良好ナル増殖度ヲ示スモノナルコトガ知ラレタリ。即、普通病死者ノ剖檢ニ際シテ見ラレ得ルトコロノ淋巴裝置ハ、全身的ノ衰弱ニ伴フ退行状態(シーエンター⁽¹⁾、トルステン⁽²⁾、ヘルマン⁽³⁾、フリー⁽⁴⁾等諸氏)ナルコトガ明瞭トナレリ。即、バルテル氏⁽⁵⁾ノ他ノ人人ガ、淋巴裝置ノ異常肥大ト認メタルモノノ中、尠ナカラザル部分ガ、正常範圍ニ屬シ、眞ノ胸腺淋巴體質ハ、割合ニ稀有ナルモノト考ヘラル。コノ點ニ關シテハ殊ニヘルマン氏⁽⁶⁾ガ比較的廣汎ナル檢索ヲ爲シタリ。此種ノ異常體質者ニテハ淋巴裝置ガ異常發生部位ノ存在ヲ呈セルハ、從來、數、見ラレタル處ナリ。タトヘバ心筋⁽⁷⁾、リーゼンズ⁽⁸⁾、フリー⁽⁹⁾、アール⁽¹⁰⁾及ビクレー⁽¹¹⁾、リー⁽¹²⁾、諸氏⁽¹³⁾ノ腦(シー⁽¹⁴⁾、ヴンター⁽¹⁵⁾、ル⁽¹⁶⁾氏)甲狀腺骨格筋等コレナリ。

二、發育不全性體質 Status hypoplasticus, Bartel.

バルタウフ氏ノ胸腺淋巴體質ニ就テ、ソノ後多クノ學者ガ種種ノ體質異常ノ知見ヲ附ケ加ヘタリ。即、大動脈

- (18) Stein (19) Hermann (12) Schur (6) Status lymphaticus, (1) Ortnet
- (20) Kyrle (21) Wiesner (13) Hammar Lymphatismus (2) Bartel
- (22) Bindegewebsdiathese (14) Fahr (7) Hedinger (3) Wiesel
- od. fibröse Diathese (15) Kuhle (8) Wiesel (9) Matti (4) W. Neusser
- (23) Pfaundler (16) Borchardt (10) Horsnowski (5) Kolisko
- (24) Stoerch (17) Czerny (11) Lubarsch
- (25) Lymphatismus

及ビ血管系統ノ異常ニ狹小ナルコト、生殖器ノ發育不全、クローム親和系統ノ發育不全、部分的小兒型、ソノ他種ノ形態學的若クハ機能的ノ缺陷ガ(オルトネル⁽¹⁾、バルテル⁽²⁾、ウーセル⁽³⁾、ノイツセル⁽⁴⁾、コリスコ⁽⁵⁾等諸氏)胸腺淋巴體質ト同時ニ發見セラレタリ。バルテル氏ハ如斯ノ體質ヲ總稱シテ發育不全型體質トセリ。彼ハ又、淋巴體質ナル名稱ヲ以テ、淋巴系統ノ増殖アルモノヲバ胸腺淋巴體質ヨリ區別セルガ、コノ淋巴體質ハ彼ノ發育不全型體質者ニ數、見ラルトコロノ部分現象ニ過ギズトナセリ。シカシ又、胸腺ノミノ肥大増殖ヲ主トスル胸腺體質ニクローム親和系統ノ發育不全ノ伴ナフコトヲ主張スル論者(ヘチンゲル⁽⁶⁾、ウーセル氏⁽⁷⁾)アリ。淋巴體質ニ伴ナフトスル論者(マツヂー⁽⁸⁾、ホルスノフスキー氏⁽⁹⁾)トアリテ、互ニ相譲ラザル見地ニ立テリ。

淋巴系統ハ種種ノ感染竝ニ毒素ノ影響ニヨリテ容易ニ増殖ヲ來タスモノニシテ、淋巴體質ヲ、一面、先天的ノモノナルト同時ニ、他面後天的ノモノナリトスル論者(ルバー⁽¹⁰⁾、シュール⁽¹¹⁾、ハムマー⁽¹²⁾、フール⁽¹³⁾及ビクローン⁽¹⁴⁾、ボルバルト⁽¹⁵⁾諸氏)モアリ。ツェルニー⁽¹⁷⁾氏ハコレヲ彼ノ滲出性素質ノ上ニアラハタル二次的ノモノトナセリ。

バルテル氏及ビ共同研究者等(スタイン⁽¹⁸⁾、ヘルマン⁽¹⁹⁾、キルン⁽²⁰⁾、ウイスネル⁽²¹⁾諸氏)ハ、幼年ノ頃ノ淋巴體質ガ青春期以後ニ於テ淋巴装置ノミナラス、卵巢、辜丸、動脈等ガ萎縮スルト共ニ結締組織増殖トヲ來タスコトアルヲ認メタリ。即、自然ノ防禦装置タル淋巴系統ノ能力ノ低下ト、結締組織増殖ノ傾向トハ、右ノ體質ヲ、古クベネケ氏ヤ佛國學派ノ考ヘタル結締組織肥大ノ一般の傾向、若クハ結締組織性素質⁽²²⁾ニ比スベキモノアリ。

フハウンドレル⁽²³⁾、ストエルビ⁽²⁴⁾等諸氏ハ、胸腺淋巴體質ト發育不全型體質トヲ全ク同一視シテ、リムフチスミス⁽²⁵⁾ナル語ニ當嵌メタリ。ストエルビ氏ハコレヲ以テ中胚葉性組織ノ先天的劣質ヲ意味スルモノトナセリ。

發育不全型體質ガ種種ノ急性傳染病等ニ於テ屢、不利ナル條件ヲ提供スルモノナルコトハ既ニ上述シタリ。小兒ノ疫

- (1) 箕田貢。主トシテ一定ノ年齢ノ小兒ニ見ル所謂中毒症狀ニ就テノ考察。伊東教授退職記念論文集。昭和三年
- (2) コノ問題ニ關シテハ小兒科方面ニ甚多數ノ文獻アリ
- (3) Bazain (4) Lanceraux
- (5) Bouchard

- (6) Richardière
- (7) Sicard
- (8) Hanot
- (9) Debove
- (10) Huchard
- (11) Diathèse fibreuse
- (12) Bouchard

- (13) Bradytrophie
- (14) Leopold-Lève
- (15) Rothschild
- (16) Endriquez u. Sicard
- (17) Wiesel

病様疾患ハ好シテ胸腺淋巴體質ノモノニ發生シ、且、悪性ノ經過ヲ取ルト云フ(伊東、箕田⁽¹⁾氏等)。

三、アルトリチスミス Arthritis (Herpetismus).

佛國側ノ學者(バザン⁽²⁾、ブレンスロー⁽³⁾、ブーシール⁽⁴⁾等諸氏)ニ依リテ用ヒラレ、全ク臨牀的見地ヨリ附シタル名稱ニシテ、英國學者ハコレニ對シ、リチアミ(Thiamie)トモ稱セリ。痛風、糖尿病、肥胖病、膽石、尿道結石、早發性動脈硬變症、ロイマチス、神経痛、偏頭痛、氣管枝喘息、濕疹、ソノ他、皮膚發症等ヲ好シテ同一個體ニテ併發シ、若クハ繼續的ニ發來スルモノナリ。他方、又、多分ニ遺傳的傾向ヲ有スル體質トシテ同一家族間ニ種種ノ組合セラ以テコレ等ノ疾患ノ出現スルヲ見ル。アルトリチスミスナル語ハ一時誤ラレテ結核病ノ素質ナドモソノ中ニ數ヘラレタルコトアリシガ、ソノ後リカルヂエール⁽⁵⁾、シカール⁽⁶⁾等、佛國學者ニヨリテ再、往昔ノ本來ノ意義ニ限定セラルルコトナレリ。

アルトリチスミスノ因子トシテ遺傳的體質的ノ素因ノ外ニ、過量ノ食餌殊ニ、肉食過多ナドニモ原因の意義ガ附セラレ。ソノ解剖學的基礎トシテアノー⁽⁷⁾、ドボーヴ⁽⁸⁾、フシール⁽⁹⁾等ノ諸氏ハ纖維性素質⁽¹⁰⁾ナル名稱ヲ用ヒタリ。又ブーシール⁽¹²⁾氏ハ物質代謝ノ見地ヨリシテ同化作用及ビ異化作用ノ一般的ノ遲滯、即、組織ノ榮養遲滯⁽¹¹⁾ニソノ基礎ヲ求メタリ。次テ内分泌學ノ盛ナルニ及ビ、甲狀腺ノ體質性不全(シオポルド、ジローヴィ⁽¹⁴⁾、ロートシルト⁽¹⁵⁾諸氏)又ハ多腺性異常(アンリケー及ビシカール⁽¹⁶⁾氏等)モ考ヘラレタリ。

獨逸學派ニテウーセル⁽¹⁷⁾氏ナドモ内分泌腺異常ニ重キヲ置キタリ。上記ノアルトリチスミスノ包抱スル諸疾患ヲ見テモ明カナルガ如ク、リムフチスミス及ビツェルニー氏ノ滲出性素質等ト合致スル點ノ相當ニ多キコトヲ認ムベシ。ホルバルト氏ハアルトリチスミスヲ内外胚葉ヤメゼンビーム系統ノ被刺戟性が異常ニ強ク、且、結締組織ノ異常及ビ反應性増殖ヲ本質トスル體質トシテ、コレニ刺戟性體質(Status irritabilis)ナル名稱ヲ與ヘテ、コレヲ無力性體質ト反對極ニ對

立セシメタルガ、コレニ對シテハ異論モ相當アリ(バウエル氏ソノ他)
四、**滲出性體質**(Exsudative Diathese, Czerny).

病理解剖學的及ヒ生理生理學的ノ見地ヨリシテ命名セラレタル體質ニシテ、普通ニ殆、變化ヲ起サザル程ノ外因ガ、容易ニ體表面ノ炎症ヲ惹起シ、強キ滲出性・増殖性反應ヲ來タス傾向ノ存スルヲ體質的特徴トス。即、上氣道ニハ反復性ノ慢性カタルラ來タシ、アデノイド組織及ビ局所淋巴腺ハ續發的増殖ノ傾向ヲ呈ス。ソノ他、結膜カタル瘡痒性濕疹(殊ニ小兒ノ頭濕疹)乳痂(1)・濕爛(2)・痒疹(3)・濕疹等ヲ小兒期ニ來タシ、後年及ビ成長後ニハ枯草鼻炎・氣管枝喘息・膜様腸疝痛症(ストルムムペル(4)氏)等ヲ來タス傾向アリ。又、ロール氏(5)ハ近來、小兒綠内障ノ滲出性體質ニ合併スルコトヲ述ベタリ。

滲出性體質ハ、オー、ミルレル氏(6)等ニヨレバ、血管神經性體質ノ身體的發現ノ一部ナリトセラル。而シテ滲出性體質ヲ有セル小兒ノ皮膚毛細血管ノ異常モ、毛細管顯微鏡的ニ證明セラレタリ(ホルゲンンド及ビマイエル(7)ソノ他)。

ヰルニー氏ハ滲出性體質小兒ノ 症狀發生ノ上ニ、食餌性條件の因子ガ意義ヲ有スルコトヲ證明セリ。即、實際的ニハ動物性脂肪ノ攝取ヲ避ケシムルコトニヨリテ、消化管ノ慢性炎症ノ 症狀、殊ニ淋巴裝置ノ腫脹ヲ消失セシメ得ベシト云フ。モンラード(8)氏。ツェルニー氏以前ニ既ニ炎症性素質(Diathesis inflammatoria, Whites; Entzindliche Diathese, Virchow)ナドノ語ガ用ヒラレタルコトアリ(バウエル氏ニ據ル)。

ホイブネル(9)、ブハウンドレル(10)、クラウス(11)等諸氏ハ滲出性體質・淋巴性體質・アルトリヂスムス等ヲ、スベテ同一ノ體質ト解セントセリ。コレ等ハ又、血管神經性體質・アレギー性體質等トモ多分ニ共通スル點ヲ有スルモノトス。

- (8) Monrad
- (9) Heubner
- (10) Pfaundler
- (11) F. Kraus

- (5) Rohr
- (6) O. Müller
- (7) Holland & Meyer

- (1) Milchschorf
- (2) Intertrigo
- (3) Prurigo
- (4) v. Strumpell

五、**血管神經症性體質** Die vasoneurotische Konstitution.

血管神經症性體質ナル名稱ハミルレル(1)、バリシウス(2)氏ニ初マル。オー、ミルレル(3)、エーンシュ(4)、コンエツニー(5)、バリシウス、マイエル、リスト及ビヒブネル(6)、ボツク(7)、ベツトマン(8)、ドキシアーデス(9)等諸氏ガ、毛細血管ノ顯微鏡的檢索ヲ深メ、コノ領域ニ於クル生理的竝ニ病理的知見ガ頓ニ加ハリタルハ比較的最近ノコトニ屬セリ。

血管神經症性體質ニテハ、哺乳期ノ最初ノ三ヶ月ニ於テ既ニ顯著ナル皮膚血流ノ障礙ヲ示シ、足趾ハ暗青色トナリ、軀幹・四肢等ノ皮膚ハ甚ダシキ大理石様ノ斑紋ヲ呈シ、乾燥シ、中等度ノ色素沈著ヲ呈ス。口唇・口腔粘膜等ハ蒼白ニシテ泣クトキニハ甚ダシク赤クナル。血壓及ビ脈搏ハ甚、不安定ナリ。(ドキシアーデス氏ニ據ル)。コノ種ノ小兒ハ哺乳期後半期ニ於テ皮膚粘膜等ノ著シキ滲出性素質ヲ呈シ、又、寒冷ニ對シテ敏感ナリ。榮養氣候等ノ外的因子ニヨリテモ誘發サレルコト多シト言ハル。

血管神經症性小兒ニテハ、猩紅熱・麻疹・百日咳・デフテリア等ノ傳染病・種痘等ガ重キ經過ヲ取ルコト多シ。又、屢、所謂、臍疝痛(10)ニ惱マサルコトアリ。後年ニハ偏頭痛・狭心症様苦惱・氣管枝喘息・鼻粘膜ノ短期間ノ非傳染性刺戟状態・蕁麻疹性發疹・輪狀ノ皸癢ヨリ圍繞セラルル兩眼(11)・皮膚蒼白・失神發作・白帶下・攣縮性便秘等ガ幼年期竝ニ學童期ニ現ハル。又、起立性蛋白尿ヲ呈ス。皮膚毛細血管ハ持續的攣縮竝ニ弛緩體勢ヲ呈シ、又、爪母毛細血管ハヒスタミン注射ニ速ニ反應スル。婦人ニアリテハ月經困難ヲ呈ス。

ミルレル、エーンシュ、コンエツニー等諸氏ハ、胃及ビ十二指腸潰瘍・結膜及ビ呼吸器道粘膜等ノ加答兒、ソノ他、又、非感性大腸炎、腸管攣縮性無力性状態、白帶下、偏頭痛・氣管枝喘息・血管神經症性狭心症、

- (10) Nabelkoliken
- (11) Halonierte Augen

(9) Doxiades. Die Bedeutung der vasoneurotischen Konstitution den verschiedenen Lebensaltern. : in Konstitutions- und Erbblologie. 1934. S. 185.

- (6) Meyer-List u. Hübner
- (7) A. Bock
- (8) Bettmann

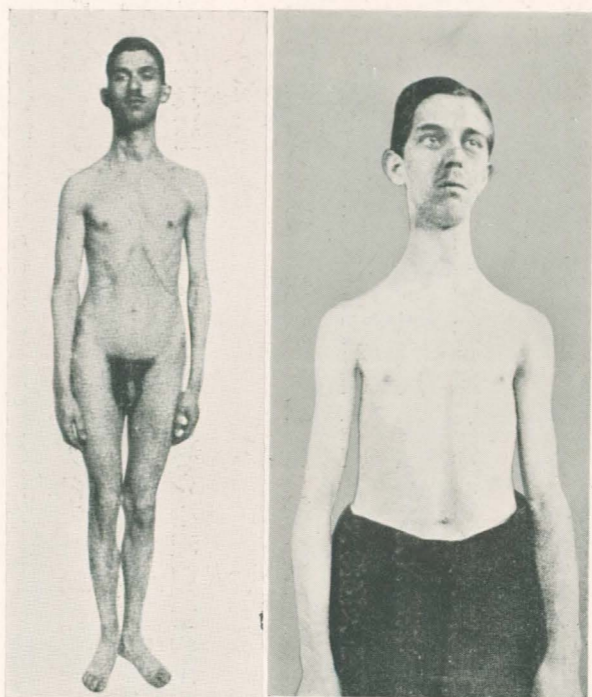
- (1) Müller
- (2) Parrisius
- (3) O. Müller
- (4) W. Jaensch
- (5) Konjetzny

- (1) Dolichocephal
- (2) Costa X fluctuans

本質性高血壓症並ニ低血壓症等、諸症ガ體質性血管神經症ノ刺戟状態トシテ來タルコトヲ言ヘリ。哺乳期並ニ小兒期ニ蛋白並ニ鹽類制限食・轉地療養、ソノ他哺育上ノ注意ニヨリテ、或程度マテ、コノ状態ノ治療的效果ヲ擧ゲルコトヲ得ベシ。成人ニ於テハ治療ノ效果ハ期待シ難シト云フ。

六、無力性體質異常。Asthenische Konstitutionsanomalie (Stiller) 瘦身長軀、細長ノ頸ニ坐セル長頭顱⁽¹⁾ニ、細クシテ高キ鼻ヲ有シ、胸廓モ狹長・扁平ニシテ、ソノ上方開口モ、狹ク、第二肋骨環ハ突出シ、撫テ肩ニシテ、上腹角ハ銳角ヲナシ、第十肋骨ハ前方ニテ浮動性ヲ呈ス。(コノ第十肋骨浮游⁽²⁾

第十四圖



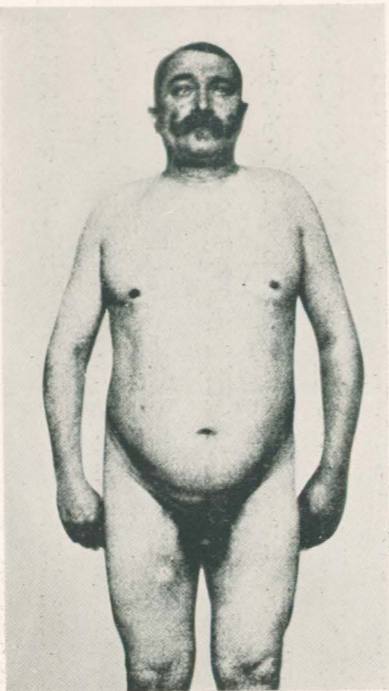
無力性姿質(Bauer = 據ル)

ラスデルレル氏ハ本體質異常ニ重要ナルモノトセリ。肩胛骨ハ翼狀ヲ呈シ、鎖骨ハ外側端ニテ下方ニ向ヒ、脊柱ハ頸胸部ニテ輕ク前屈シ、四肢ハ長ク、筋肉ハ薄弱、且、緊張力減退シ、眼瞼ニハ輕度ノ下垂アリ、タメニ眠氣ヲ催セル如キ顔貌ヲ呈ス。横隔膜ハ低位ヲ占メ、心臟ハ小、且、懸垂位ヲ取ル(滴狀心)。下腹部ハ屢、膨隆シテ腹部臟器ハ下垂ス。以上ノ記述ハ古クヨリ行ハ

- (1) Habitus phthisicus
- (2) Neuropathische Veranlagung
- (3) Neuroarthritismus
- (4) Neuropathische Konstitution
- (5) Kretschmer
- (6) Leptosomer Typus
- (7) Kretschmer, Körperbau und Charakter. 1931.
- (8) Pnyknischer Typus

(9) Borchardt

第十五圖



關節症性體質(Bauer = 據ル)

ナカラズ、コレヲ一括シテ神經症性體質⁽⁴⁾ヲ認ムル學者アリ。無力性姿質(第十四圖)ハ、クレツテ⁽⁵⁾氏ノ長身型⁽⁶⁾ト同一體型ニ屬スルモノニシテ、クレツテ⁽⁵⁾氏ハコノ體形ニ特ニ精神乖離症型ノ疾患ヲ發スルコト多ク、他方氏ノ肥滿型⁽⁸⁾ニハ循環性躁鬱病型精神症狀ヲ認ムルコト多シト云フ。而シテ、後者ノ體型ハ實ニアルトリチスムノ體質者ニ屢、認メラレトコロノ體型的特長(第十五圖)ナリ。

ボルバルト⁽⁹⁾氏ハ無力性體質ヲ、メゼンビウム系統ノ成形不全ト一般的反應力低下トヲ兼ネ備ヘタルモノニシテ、彼ノ刺戟性體質ト對蹠的位置ニアルモノトセルガ、コレニ反對スル學者ノ尠ナカラザルコトハ既ニ述ベタリ。スデルレル氏ニ據レバ無力性姿質ヲ有スル人ハ、痛風・糖尿病・重症ノロイマチス・慢性腎炎・變質性心臟及ビ血管疾患等ニ罹患スルコト尠ナク、又、心臟性浮腫・突發的心臟死、或ハ卒中ヲ來タスモノ、及ビ高度ノ動脈硬變・狹心症等ヲ來タスモノモ稀ナリト云フ。ボルバルト氏ハ無力性體質者ガ肺結核ノ奔馬性急性増悪ヲ來タス傾向大ナルハ、ソノメゼンビ

レ、癆咳性姿質⁽¹⁾ト共通ノ點ヲ認ム。

又、無力性姿質ノ人ニテ、植物神經系統ノ機能的異常興奮性ヲ伴ヘル神經症性素質⁽²⁾ヲ呈スルモノ多ク、所謂、神經衰弱症ノ症狀ヲ有スルモノ多シ。然レドモ、又、神經系統ノ刺戟性衰弱トアルトリチスム⁽³⁾ト併合セル神經關節症性體質⁽⁸⁾ニ屬スルモノ尠

I-M系統ノ機能不全ニヨル癩痕化ノ傾向ヲ缺クニ因ルトシ、アルトリヂスムノ體質者ガ恰、コレト正反對ノ態度ヲ呈スルコトヲ、ソノ中胚葉性組織機能ノ體質的ニ良好ナルコトニ歸シタリ。
 ソノ他、無力性小兒型 (Athenischer Infantismus, Mathes)・虚弱兒童 (Schwachtes Kind, Speck)・水腫性體質 (Hydropische Konstitution, Czerny)・膽汁性體質 (Biliäre Konstitution, 德國派學者)・起立性體質型 (Orthotische Konstitutionstypus, P. Pollitzer, Payr) 等、體質異常的亞型トモ見ルベキ名稱モ多シ。
 以上ノ如キ異常體質ノ多數ガ家族的ニ若クハ遺傳的ニ發來スルコトニ就テハ、吾人ハ多クノ文獻上及ビ臨牀的觀察上ノ證明ヲ有セリ。胸腺淋巴體質ノ家族的遺傳的關係ニ就テハ、フリードユング⁽¹⁾、ヘヂンゲル⁽²⁾、バルテル⁽³⁾、ムリツデ⁽⁴⁾、ソノ他諸氏ノ報告アリ。

コレヲ要スルニ、種種ノ體質異常ニ關シテ、學者ハ夫々自家ノ經驗ト觀察トヨリシテ、種種ノ名稱ヲ提唱シ、後ノ學者モ亦、コレニ種種ノ追加・意義限定・變改等ヲ主張シ、ソノ名稱モ、内容モ區區ニシテ、異名同質・同名異質ト目サルベキ點少ナカラザレドモ、シカモ上述ノ記載ヨリシテ、又、各自ノ經驗ニ照シテ、大凡、ソノ本質ヲ把握スルニ難カラズト信ズ。人種ノ異ナルニ從ヒ、又、環境・衣食住等ノ影響ハ、自然或種ノ異常體質ノ偏在ヲ促スモノナラム。タトヘバ淋巴體質ハ希臘 (アラヴンチノス⁽⁵⁾・フリツピン (クロウエル⁽⁶⁾氏) 等ニソノ頻度ノ多キヲ認ムト云フ。從ツテ、以上ノ如キ異常體質ノ見解モ全然、世界普遍的ノモノニアラザルナラム。

七、アレルギー及ビソノ體質トノ關係 Allergie und ihre Beziehung zur Konstitution.

アレルギーナル語ヲ初メテ用ヒシハピルケー⁽⁷⁾氏ナリ。治療血清ノ注射ニ當リテ、同一ノ血清ヲ用ヒナガラ、第二回ノ注射後、第一回ノソレニ比シテ血清病ノ發呈ノ速カナルトコロヨリ生ジタル言葉ナリ。ソノ後、コノ言葉ノ意味ガ次第ニ

- (1) Friedjung
- (2) Hebinger

- (3) Bartel
- (4) Schridde

- (5) Aravandinos
- (6) Crowell
- (7) Pirquet

- (1) Allergie
- (2) Anaphlaxie
- (3) Idiosynkrasie
- (4) Richet
- (5) Smith

- (6) Arthus
- (7) Allergen

- (8) Meyer-Gottlieb 著 Experimentelle Pharmakologie ニモ兩者ノ區別ハ餘リ嚴格ニハ區別セラレズ
- (9) Weichardt
- (10) Schittenhelm
- (11) Kämmerer

廣ゲラレテ、スベテ蛋白質ノ形ニテ體內ニ侵入スルコトヲ許サレタル物質ガ、或變化ヲ該個體ニ惹起シ、第二次ニ同一物質ガ侵入シタルトキニ、コレニ對シテ非常ニ過敏トナリ、正常ノ個體ニテハ何等ノ變常ヲ來タザザルトコロノ微量ニ對シテモ尙、著シキ變化ヲ惹起スルコトガ知ラレ、アレルギーナル語ハ屢、「過敏ナル反應」ト同一意義ニ用ヒラルルニ至レリ。シカシナガラ、本來ハ「變化セラレタル、反應」ヲ意味シ、却、減弱若クハ質的ニ異ナル反應ヲ呈スルコトモ間、コレアリ。アレルギートアナフィキシー⁽⁸⁾トノ異同、又、イデオシンクラシー⁽⁹⁾トノ異同等ニ就テハ相當ニ議論セラレ居レリ。

アナフィキシーナル現象ハ、アレルギート前後シテリシェー⁽⁴⁾、スミス⁽⁵⁾、アルプス⁽⁶⁾等諸氏ニ依テ發見セラレタリ。即、實驗的ニ非經口的ニ蛋白質ヲ輸入シ、該個體ニ特異ノ過敏状態ヲ惹起シ得ルコトガ證明セラレタリ。今日用ヒラルルトコロノアレルギーナル語ハソレヨリハ遙ニ廣義ノ内容ヲ有シ、經口的ト非經口的トヲ問ハズ、又、アレルギート目サレル物質中ニハ普通ニ蛋白質ニ加ヘラレザルモノモ含有セラレ。何レニシテモアレルギーガ前ニ一度當該物質ニ感作セラレルコトヲ必要トスルニ、イデオシンクラシーナル語ハ、初メテ輸入サレル物質ニ對シテモ正常人ニハ見ラレザル顯著ノ反應ガ認めラレル場合ニ用ヒラレタリ。イデオシンクラシーハ最初、藥物ニ對スル異常反應ヲ呈スルモノニ用ヒラレシモノナルガ、母乳ヲ通ジテ若クハ胎盤ヲ透シテ個體感作ノ可能性等ガ論ゼラレ、且、アレルギートイデオシンクラシートヲ區別シタル蛋白・非蛋白トノ區別モ次第ニ撤回セラレタル今日、兩者ノ本質的ノ相違ハ明確ナラズ⁽⁸⁾。且、又ワイバルト⁽⁹⁾、シツテンヘルム⁽¹⁰⁾ノ他ノ研究者ニヨリテモ、アレルギー・アナフィキシー・イデオシンクラシー、何レノ場合ニ於テモ、ソノ反應ヲ呈セル個體ノ血液・分泌液等ノ中ニ、著明ノエオジン嗜好細胞ノ増加ヲ認メル等ノコトヨリシテ、コレ等二者ノ間ノ本質的相違點ハ次第ニ解消シテ、唯、從來ノ慣習發達ノ歴史等ニ從ツテ場合ニ應ジタル語ガ用ヒラルモノナリト考ヘラルル場合多シ。アレルギー性症狀群トシテ、ケムメレル⁽¹¹⁾氏ハ次ノ如キモノヲ擧ゲタリ。

- (1) Cooke
- (2) Schittenhelm
- (3) Weichardt
- (4) Wolf, Eisner
- (5) Coca
- (6) Cooke
- (7) van der Veer
- (8) de Besche

(9) 眞鍋嘉一郎。米杉喘息ノ發見。臨牀の日本。第一卷。第二號。昭和八年十二月

一般症狀。體溫ノ動搖(殊ニ體溫下降)・血壓下降・虚脱・シツク・腦性痙攣
 皮膚。瘙癢・刺戟・蕁麻疹・クインケ氏浮腫・炎症・溢血
 粘膜。噴嚏刺戟・鼻加答兒・炎症・眼結膜炎・氣管枝攣縮・胃障碍(タトヘバ嘔吐)・下痢
 血液。白血球崩壞・嗜エオシン細胞增多症・ヘモクラジー性發症
 血管系。血壓下降・血管神經麻痺・局所性血管擴張及ヒ漿液ノ滲出
 何人ニテモ或ルアレルギーニ長時、且、相當ノ強サニ接觸シ居ルトキハ、ソノ體內ヘノ侵入ヲ容易ナラシメ、遂ニハコレニ
 對スルアレルギー性ヲ獲得スルニ至ルコトハ、種種ノ物質ニ就テ經驗セラレタリ。殊ニ工業的ニ用ヒラルル物質ノ場合ニハ
 相當嚴密ナル觀察報告アリ。アレルギー性反應ガ病的狀態ニマテ高マレルモノニシテ、アレルギー性疾患トシテ總括セラレタ
 ル一群アリ。コノ語ハ米國ニテクーク⁽¹⁾氏ガ初メテ用ヒシモノナルガ、今日ニテハ一般ニ用ヒラルルニ至レリ。氣管枝喘息・
 蕁麻疹・濕疹・クインケ氏浮腫・偏頭痛・粘膜炎・大腸炎、ソノ他、種種ノ疾患コレニ屬ス。アレルギーニ關シテハ最
 見ル、F. Urbach: Klinik u. Therapie der Allergischen Krankheiten. Wien. 1935. ハ多數
 ノ文獻ヲ網羅セルガ、ソノ後ニ於テモアレルギー性疾患ノ範圍ハ次第二擴ゲラレツツアリ。
 アレルギー性疾患ヲ惹起スルアレルギーントシテ、種種ノ蛋白ガ考ヘラレル。枯草熱・枯草喘息等ハ、植物花粉ニ對ス
 ル過敏症トシテ古クヨリ知ラレタリ。シツテンヘルム⁽²⁾、ワイパルト⁽³⁾、ウルフ・アイスネル⁽⁴⁾、次デコカ⁽⁵⁾、ク
 ク⁽⁶⁾、ワン、デル、ヴェール⁽⁷⁾等諸氏ガ深ク研究ヲ進メテ、今日ニテハ甚、多クノアレルギーノ種類ガ知ラレ居レリ。タトヘ
 バ馬ニ觸レルコトニヨリテ起ル喘息ハ、ド、ベ、ツ、シ⁽⁸⁾氏ガ初メテ記載シ、多クノ人ニヨリ證明セラレタリ。ソノ他ノ家畜、即、
 猫・家兎等ノ落屑毛等ヤ鳥類ノ羽毛等モ喘息ヲ惹起スルコトモ認メラレタリ。前述植物ノ花粉ノ外ニ木犀ノ花ノ香
 氣・米杉材ノ揮發物質等ニヨル喘息(眞鍋氏⁽⁹⁾)モ發見セラレタリ。室内ノ塵埃・寢具等ノ滲出液中ニモ特殊ノ喘息

- (1) Storm van Leeuwen, Allergische Krankheiten. Übersetzt von Prof. Verzar. Berlin. 1926.
- (2) Petow = 據ル (Allergische Krankheiten und Konstitution: Konstitutions- u. Erbologie. 1934. S. 116)

- (3) Chandler
- (4) Walker
- (5) Cooke
- (6) Rockmann & Graham
- (7) Miasma
- (8) Spain & Cooke
- (9) Klewitz
- (10) Rost

アレルギーノ證明スルコトヲ得ベシ。(ストルムワン、レウエン⁽¹⁾氏)。食品類ニ關スル過敏症トシテ、蝨・蟹・種種ノ
 魚肉・鳥獸肉・卵等ノ攝取ニ對スル過敏性ハ、古クヨリ俗人ノ間ニモ周知ノ事實ニシテ、嘔吐・下痢・胃腸症狀等ノ
 外ニ、蕁麻疹・喘息・結膜炎・噴嚏、等ヲ來タスモノアルコトモ知ラレタリ。時トシテハ豆類・種種ノ果物・穀類(小麥・燕
 麥等)ニ對スル過敏症スラ報告セラレタリ。伊藤教授ニヨレバ金澤地方小兒濕疹ニハ、米ノ蛋白ヲアレルギーントシテ起
 ルモノ相當多シト。氣管枝喘息患者ノ中ニテ牛乳・バター・乾酪等ニ對スル過敏症ヲ呈スルモノ尠ナカラズ。細菌產生
 物ニ對スル過敏症⁽²⁾ハ、初メシンドレル⁽³⁾、ワルケル⁽⁴⁾等諸氏ガ細菌蛋白體ノ感作性能ヲ記載シ、クーク⁽⁵⁾、ロ、ツ
 クマン及ビグラハム⁽⁶⁾氏コレヲ確證シタリ。
 氣象的影響ニヨリ空中ニ存スル不明組成ノ膠質⁽⁷⁾ニ對スル過敏症ノ存在モ認メラレタリ。和蘭・英國・北歐地方
 等ノ喘息患者ノ多數ガソノ範疇ニ屬スルト云ハル(ストルムワン、レウエン氏)。
 ソノ他、溫熱・寒冷の刺戟等ニ對スルアレルギーモ認メラレタリ。
 多クノ臨牀的竝ニ統計的觀察ニヨリテ、アレルギー性疾患ハ屢、遺傳的負荷ヲ有スルモノニ發現スルコトガ知ラレタリ。
 タトヘバスペーン及ビクーク⁽⁸⁾氏ハ四六二例ノ枯草熱及ビ喘息患者ニ就テ、五八・四プロセントハ遺傳的素質ヲ有
 シ、ソノ中ノ九一プロセントハ兩親ノ一方ヨリ負荷セルモノニシテ、兩親ノ雙方ヨリ遺傳セルモノニアリテハ、多クハアレルギーガ
 小兒期ニ現ハレルト云フ。クレヴ、ツツ⁽⁹⁾氏ハ米國ニテ四二三名ノ喘息患者中ニ五五プロセントハ尊屬ニ喘息ヲ見出セ
 リト云フ。喘息ソノ他ニ就テ、從來多クノ家系ガ報告セラレシガ、ロスト⁽¹⁰⁾氏ニ據レバ、アレルギー性濕疹者ノ家族中、喘
 息二七プロセント、枯草熱四・七プロセント、イチオシクラシーニプロセントヲ見出スト云フ。
 コノ種ノ統計ハ、ソノ他ニモ多ク發表セラレタリ。而シテ體質的ニハ滲出性素質、アルトリヂスムス或ハホルパルト氏ノ

- (1) Kämmerer, Allergische Diathese und allergische Erkrankungen. II. Aufl. 1934.
- (2) Allergische Diathese

所謂、刺戟性體質ニ屬スルモノヲ多シトス。即、コレ等ノ體質ニ於テハアレルギーニ依リ粘膜・皮膚等ノ炎症ヲ起シ易ク、コノコトガアレルギーノ體内侵入ヲ容易ナラシムルコトガ一面ニ重要視セラルルモ、他面、又、アレルギー性素質トシテ遺傳セラルルモノモ尠カラザルコトハ上述ノ如シ。如斯、家族的、遺傳的素質ニ對シテケムレル氏⁽¹⁾ハ一般のニアレルギー性素質、ナル名稱ヲ提唱シタリ。

第九章 體質ノ改善 Die Konstitutionstherapie.

體質ノ解釋ニ關スル學者ノ見解ニ大ナル差異ノ存スルコトハ、緒論ニ述ベタリ。勿論、體質ノ内容ヲ廣義ニ解スルカ、狹義ニ見ルカニ依リテ、本問題ノ範圍ハ餘程異ナルモノナルガ、何レニシテモ、二ツノ方面ヨリシテ、コノ問題ヲ取扱フコトガ最、合理的ナリト言ハザルベカラズ。

- 一、遺傳類型ニ屬スル現象型ノ改善
 - 二、個人體力ノ一般の強壯法
- コレナリ。

一、遺傳類型ハ全然遺傳ノ法則ニ從ツテ子孫ニ傳ヘラルルモノナリ。優秀ナル遺傳形質ヲ撰擇のニ繁榮セシメ、劣悪ナルモノヲ可及的滅殺スルコトニ依リテ體質ノ改善ヲ圖ルノ方法ハ優生學⁽²⁾或ハ民族衛生學⁽³⁾ノ説クトコロト一致セリ。ソノ方法トシテハイ婚姻ニ因ル優秀遺傳要素ノ撰擇。コレニハ多分ニ醫學的知識ヲ加ヘタル遺傳學的相談機關ヲ必要トス。劣性遺傳ニ因ル發病ノ機會ヲ尠ナカラシメルガタメニ血族結婚ヲ避クルコトモ必要ナル事項ニ屬ス。(ロ)優生學的立場ヨリノ避妊。コレハ個人的ニモ或程度マデ成サレ得ルコトナルガ、國家ノ權力ヲ以テ法律的ニ之ヲ定メルコトハ最、有

- (3) Eugenik
- (4) Rassenhygiene

- (1) O. Naegeli 上掲
- (2) Mutation
- (3) 平野光藏、吉川秀男。猩々蠅ノ遺傳ト實驗法。昭和九年。東京養賢堂發行ニ據ル
- (4) Muller

- (5) Naegeli
- (6) Franz Evans

效ナラン。コノコトハ已ニ以前ヨリ北米合衆國ノ二三ノ州ニ於テハ行ハレ居レルモノニシテ、一千九百二十三年夏以來、獨逸國「ナチス」政府ノ獨逸民族改善ノ手段トシテ斷種法ガ實施サレテ以來、殊ニ世界ノ注目ヲ惹クニ至レリ。(ハ)生殖細胞ヲ傷害スルガ如キスベテノ惡影響(タバコヘバ酒精、ソノ他ノ毒物、レントゲン、ラヂウム等)第四章參照ヲ遠クルコト。遺傳類型ニ屬スルコトニハアラザルモ、胎兒ヲ傷害スルガ如キスベテノ外界ノ影響ヲ妊婦ヨリ遠ザクルコトモ、ココニ附加セザルベカラズ(第四章參照)。

體質學ノ方面ニテ、ネーグリー⁽⁴⁾氏ガ近來殊ニ力説スルトコロノ突然異變⁽⁵⁾ニ依ル遺傳形質ノ轉換⁽⁶⁾ニ就テハ、一千九百二十七年ムルセル⁽⁴⁾氏ガレントゲン線ニヨリテ猩猩蠅ノゲンニ突然變異ヲ起サシメ得タルノミナラズ、コレニ依リテ染色體ノ異常形態、又ハ活動ヲモ起シテ、轉位・缺失・重複・合著等ヲ誘發スルト共ニ、染色體ノ不分離ノ率ヲモ變化セシメルコトガ判然タルニ至レリ。シカレドモコレヲ以テ任意ニ遺傳類型轉換ノ端緒ガ得ラレタリト見ルハ尙早ナラム。

二、個人體質ノ一般の改善
後天的ニ體質ヲ轉換セシメ得、若シクハ少ナクモ體質上ノ缺陷ヲ補填改善シ得ルヤハ、吾人醫家ニ取リテ當面ノ問題トナル場合ガ多カラムト考フ。

(一)環境・衣食住ソノ他ノ生活様式・社會的慣習等ノ、體質殊ニソノ身體的ノ方面ニ及ボス影響ニ就テハ、餘リ纏マレル記述ナキガ如シ。勿論、體質改善ノ問題ノ上ニ非常ニ重要ナル事項ニ屬スルトコロノ環境ノ影響ニ就テハ生物界殊ニ自由移動ノ能力ヲ有セザル植物界ニ於テハ同一種屬間ノ地方的環境の相違ニ關スル甚、多クノ觀察アルガ如シ。既述ネーグリー⁽⁵⁾氏ノ著書ニハ此ノ如キ例ガ澤山擧ゲラレタリ。人ニ就テハ歐洲ヨリ米國ニ移住シタルモノノ兒童ニ就テノエヴンス⁽⁶⁾氏(一千九百十年)ノ調査アリ。日本ニテハ、吉田氏ノ同様ノ調査報告アリ。社會的慣習殊ニ

- (1) 「日本人ノ坐リ方」ニ就テハ入澤達吉氏ノ興味アル研究アリ。克誠堂發行。大正十年四月
- (2) 石原房雄。米國ニ生育セシ日本民族ノ壯丁體格特ニ脚長ト坐高ニ就テ。民族衛生。第一卷。第五號

- (3) 大井敏雄。日本人膝關節ノ研究。十全會雜誌。第三十二卷
- (4) 十全會雜誌。第三十四卷。第二號。第三十五卷。第八號。第三十六卷。第十六卷。第三十七卷。七月臨時號。日本溫泉氣候學會雜誌。第一卷。第一號

「日本人ノ坐リ方」⁽¹⁾ヲ顧慮セル石原⁽²⁾氏ノ調査ハ特ニ本章ノ見地ヨリ興味アルモノナリ。氏ニ從ヘバ米國ロスアンゼルス地方ノ日本民族壯丁百四名ノ比脚長ハソノ身長一六九・五センチメートルニ對シテ五三・七プロセントナリ。コノ値ハ歐洲人ノソレニ匹敵スルモノニシテ、日本内地人ノ五一・六プロセントニ比較スレバ、二一・一プロセント大ナリ。コレヲ實數ニ就テ見レバ、日本民族内地人ト米國生レノモノトヲ比較スレバ身長ノ差九・三センチメートルナリ、ソレヲ分解シテ檢スルトキハ、脚長ノ差八・三センチメートルニシテ坐高ハ僅カニ一・〇センチメートルノ差ニ過ギズ。氏ハコノ顯著ナル相違ノ理由トシテ、單ニ身長ノ相違ノミハ⁽³⁾内地ヨリ移住シタル兩親ノ身長ノ大ナリシ事實⁽⁴⁾（ロスアンゼルス地方ノ氣候、榮養等ノ關係良好ナルコト及ビ⁽⁵⁾諸般衛生施設ノ進歩セルコト等ニテ説明シ得ルトシテモ、脚長ノ如斯ノ良好ナル發育ハコレヲ内地人ニ特有ナル坐居ノ影響ノ除カレシコトニ歸セザルベカラズトセリ。因ニ日常跪坐ニ依ル日本人ノ膝關節ノ解剖學的ノ變化ハ岡本氏及ビ門下⁽⁶⁾ニ依リテ報告セラレタルモノアリ。

或特殊ナル事項、タトヘバ高山環境ノ人體ニ及ボス短期ノ影響ニ關シテハ相當、澤山ノ文獻アリ。我ガ教室⁽⁴⁾ニ於テモ昭和四年以來、白山・富士山・立山等ニ於テノ觀察ノ成績ヲ年年發表セシガ、コレヲ本トシテ體質改善ノ問題ニ關聯シテココニ述ベルコトハ尙早ナリト考フ。

(二)食餌或ハ榮養ト體質トノ關係ハ殊ニ近來注目セララルニ至レリ。久シク西洋ニ居リタル日本人ノ皮膚外觀ガ次第ニ白人ノソレニ似テ來ルトハ折折言ハルルトココニシテ、而シテソレハ主トシテ食餌ノ關係ニ歸セラルルモ、素ヨリ何等信ズベキ科學的根據ヲ存スルニアラズ。

- (1) Luxusbildung
- (2) Minusbildung
- (3) W. Brandt, Grundzüge einer Konstitutionsanatomie. Berlin. 1931 ニ多數ノ記述文獻アリ
- (4) Gerson
- (5) Sauerbruch-Hermannsdorfer

- (6) S. Bommer, Konstitution und Ernährung: in Konstitutions- und Erbbiologie. 1934. S. 127.
- (7) M. u. A. Hermannsdorfer, Praktische Anleitung zur kochsalzfreien Ernährung Tuberculö-
- (8) Klasper
- (9) H. H. Meyer
- (10) Kraus
- (11) Brugsch
- (12) P. Keller

明カトナレリ。タトヘバビタミンDノ發育期ニ於ケル缺乏ハ身體支持裝置ノ重要成分ヲナスCa及Pノ代謝障礙トコレニ伴フ畸形ヲ醸スコトハ周知ノ事實ナリ。最近、化學ノ進歩ニ依リホルモントビタミントガソノ化學構造上極メテ近似ノ關係ニアリ、且、コレ等ノ物質ガ動物界ニ廣ク存在シテ居ルコトガ知ラルニ至レリ。腦下垂體前葉・甲狀腺・胸腺・松果腺等ノホルモンガ發育ト密接ノ關係ニアルコト、又、タトヘバ甲狀腺ノ投與ニヨリ種種ノ過剩成形⁽¹⁾・缺損成形⁽²⁾等ガ動物實驗ニテ作り得ラルルコトハ餘程以前ヨリ知ラレタリ⁽³⁾。即、母胎内外ノ早期生活ニ於ケルコレ等ノ物質ノ適當ナル應用ニ依リテ、或程度ノ體形體質ノ積極的轉換ヲ企テルコトハ、必シモ痴人ノ夢ニアラザルベシ。

(ロ)右ノホルモンノ成形上ノ影響ニ鑛質イオンガ種種ニ參與スルコトハ動物實驗的ニモ闡明セラレタリ。タトヘバ甲狀腺ノ蝌蚪ノ發育ニ對スル作用ハ微量ノCa若クハK及Mgノ存在ニ依ツテ正反對ニ影響セラル。副甲狀腺ホルモントビタミンDトガCa代謝ニ關係スルコトハ上述セリ。鑛質ノ榮養學的地位ハゲルソン⁽⁴⁾・サウエルブルツ⁽⁵⁾・ヘルマンズ⁽⁶⁾・ドルフル⁽⁷⁾等諸氏ノ乏食鹽食餌ガ治療界ニ輸入セラレテヨリ、一層、重要視サルニ至レリ⁽⁸⁾。

ゲルソン食餌⁽⁹⁾ハ結核殊ニ皮膚結核ノ治療ニ有效ナリトセラレテ居ルガ、ソノ皮膚症狀ノ改善機轉ハ主トシテ皮膚血管ノ再生ニ依ル血流ノ改善、次デ皮膚組織榮養ノ佳良ナルコトニアル事實ガ、組織學的ニモ毛細管顯微鏡的ノ檢索ニテ明カニセラレタリ。同様ノ事ハ胃ノ消化性潰瘍ニ就テモ確メラレ、何レモ食鹽ニ乏シキCaニ富メル食餌ノ影響トセラレ。クデスベル夫人⁽¹⁰⁾ハ凍傷ニ就テモ右ノ事實ヲ證明シタリ。即、右ノ食餌ニヨル皮膚再生機能ヲ促ス毛細管狀態ノ改良ハ人體ニ於ケル一般的ノ現象ト見做サレ得ルマデニ推シ擴ゲラレタリ。マイエル⁽¹¹⁾・クラウス⁽¹²⁾・ブルグシ⁽¹³⁾・ケルシ⁽¹⁴⁾等諸氏ノ所述ヨリシテ、ココニモ一方ニCa、Na等、他方ニK、Mg等ノ諸イオン間ノ對立關係ガ容認セララルナラン。

(1) 片瀨淡。體質病理ノ實驗的研究。日本病理學會會誌。第二十二卷。二頁。一九二三。
 (2) Brugsch
 (3) Viola

(4) Mac Auliff
 (5) Stiller
 (6) Tandler
 (7) Bartel
 (8) Morgan

(9) Referat: The Journal of American Medical Association. 1934. Vol. 103. No. 24. P. 1857.
 (10) Umstimmungstherapie
 (11) Umstimmung als Behandlung. Leipzig. 1930

第十二表 (片瀨ニ據ル)

1. 血液「アナドージズ」ヲ誘發スルハ	チ) 諸種ノホルモン
イ) 主養素ノ過剰攝取	リ) 諸種ノ嗜好食品
ロ) 諸種ノ藥物	ヌ) 網狀織内皮細胞系統機能減退
ハ) 過量ノ鹽類攝取	ル) 膽汁脫失
ニ) 諸種ノ細菌及細菌毒	ヲ) 施鍼ノ過剰
ホ) 諸種ノ光線照射ノ過不足	
ヘ) 過度ノ運動	
ト) 過剰ノビタミン攝取	
2. 血液アルカロージスヲ誘發スルハ	
イ) 或種ノ蛋白攝取	ト) 果實
ロ) 諸種鹽類ノ適量攝取	チ) 嗜好食品
ハ) 諸種光線ノ適量照射	リ) 有機性非特异性刺戟物質
ニ) 諸種ノビタミン	ヌ) 酵素
ホ) 諸種ホルモン	ル) 適度ノ運動
ヘ) 野菜	ヲ) 適度ノ鍼灸施術

ジス性影響ニテソノ對蹠的狀態ガ得ラルルコトヲ實驗的ニ確メラルベシト言ヘリ。氏等ノ考ヘ方ト實驗等トガ全ク完璧ナリトハ認メ難キニシテモ、コノ所見ニハ後天的ノ體質轉換ノ見地ヨリシテ意義アル多數ノ事實ヲ包含シテ居ルナラン。最近米國ニテモルガン⁽⁸⁾氏及ビ共働研究者等ハ犬ニ就テコレニ似タル成績ノ部分的實驗ヲ公ニシタリ⁽⁹⁾。

(三) 三種ノ刺戟ニ依テ體內 或ル變調ヲ起サシメントメル企圖ハ、餘程以前ヨリシテ疾病ノ治療ニ應用セラレシガ、近來、變調療法⁽¹⁰⁾ナル名ノモトニ殊ニ廣ク用ヒラルルニ至レリ⁽¹¹⁾。ソノ變調ニ用ヒラルル刺戟ノ種類ハ極メテ廣キ範圍ニ亘リテ、種

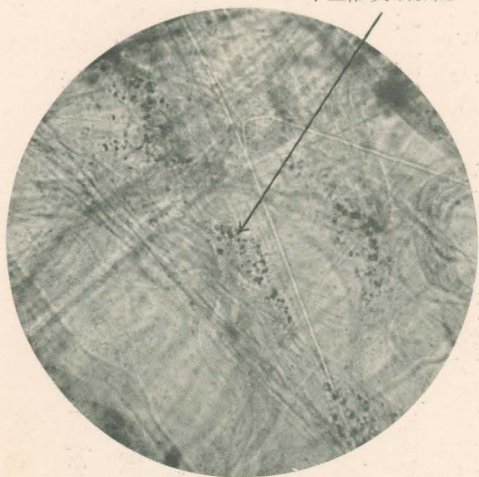
我國ニ於ケル片瀨教授⁽¹⁾及ビソノ一派ノ體質學的立場ヨリノ動物實驗ノ成績ヲ、右ノゲルソン⁽²⁾食餌ヨリ出發シタル諸觀察ト照應スルトキハ一層興味アリ。氏等ハ種種ノ榮養素ノ他ヲアテドージス竝ニアルカロージス誘發ノ二方面ニ分チ(第十ニ表)、幼弱家兔ヲアテドージスヲ來タス如キ影響ノ下ニ生長セシメルトキハ、胸廓ハ狹長トナリ、又、漏斗胸ヲ呈シ、長管骨ハ細長トナリ、滴狀心、血管ハ成形不全性トナリ、ソノ他、生殖器、消化管等ノ機能減弱、創傷ノ治癒遲滯、傳染病ニ對スル抵抗ノ減弱等、スベテブルグ⁽³⁾氏ノ狹胸型、ウイオラ⁽⁴⁾氏ノ長軀型、マツク、アウリツツ⁽⁵⁾氏ノ扁平型、スヂルレル氏⁽⁶⁾ノ虛弱體質又ハタンドレル⁽⁷⁾氏ノ低張力體質、バルテル⁽⁸⁾氏ノ發育不全型等ニ一致スルコトガ認めラレ、アルカロー

(1) 瀧川武雄。組織球性細胞貪喰機能ニ關スル研究(續報)非特异性蛋白體注射ニ依ル組織球性細胞ノ貪喰機能ニ及ボス影響。日本病理學會會誌。第二十一卷。二二八頁

種ノ化學的刺戟ノスベテヲ包括セリ。ソレニ對スル反應狀態トシテ起ル體液ノ變化(殊ニ血液有形成分竝ニ種種ノ化學的成分ノ檢索ノ如キハ微ニ入り細ラ極メタルモノアリ。我國ニテハ柿沼氏及ビソノ門下ガ廣汎ナル研究ヲ行ヘリ。私ハ茲ニソノ形態學的根據ノ一トシテ中胚葉性組織機能ノ、刺戟ニ對スル反應トシテ、私ノ教室ニテ故瀧川氏⁽¹⁾ノ行ヒタル實驗ヲ殊ニ興味アルモノノ一ツトシテ略述セン。氏ハ家兔ノ背面皮下ニ極メテ微量〇・〇三立方センチメートルノカゼオザン(〇・〇〇一五グラムノカゼインニ相當スル)ヲ注射スルコトニ依ツテ、ソノ注射部位トハ全ク無關係ノ場所ニアル腹壁皮下ノ結締組織中ニ、多數ノ極メテ活潑ニ墨粒貪喰ヲ行フ中等大圓形ノ組織球性ノ細胞ノ出現ヲ證明シタリ(第十ニ表)。コノ實驗ハ身體ノ一部ニ非經口的ニ輸入セラレタル異種蛋白質體ノ刺戟ガ、如何ニ顯著ナル變化ヲ全身ノ細胞ニ惹起スルカヲ如實ニ示シタルモノトシテ、單ニ治療學的ノ立場ヨリノミナラズ、體質的の見地ヨリモ興味ヲ唆ルモノアリト

第十六圖 家兔皮下組織球性細胞ノ墨粒貪喰像

甲 對照 不正形貪喰細胞



乙 カゼオザン注射



對非 照 射 九 名 兒童	第一回計測平均値	56.724.3	17.2	18.5	18.5	17.7	12.3	44.0	144.0	66.333.	536.926.	0.26.	217.1	51.6	168.9
第二回計測平均値	58.423.8	19.0	20.6	19.3	19.8	13.9	44.7	145.4	70.035.	338.227.	327.0	18.8	53.2	174.8	
差 (增加實際値)	1.7-0.5	1.8	2.1	1.0	2.1	1.6	0.7	1.4	3.5	1.8	1.3	0.7	0.8	1.7	
增加率 (%)	3.01	10.5	11.3	5.45	11.9	13.0	1.59	0.97	5.26	5.38	5.52	2.69	3.06	9.95	
增加率 (%)															3.10
															3.51

備考：表中「ゴツク」ニテ印刷シタ数字ハ、照射組兒童ノ非照射組ニ比シ、増大率ノ大ナルモノヲアル

第 十 三 表

優 秀 兒 童	中 下 (12例ノ平均)	「オクタライト ヲ照射セルモノ (四例ノ平均)	虛 弱 兒 童	平 均 年 齡	勞 作 能 力 指 數 O'Leary	心 臟 容 積	心 臟 比 較	體 重 (斤)	身 長 (釐)	肥 滿 指 數	比 胸 圍	肺 活 量 (斤)	比 肺 活 量	右 上 腰 最 大 圍	右 下 腰 最 大 圍
				11.5	7.27	610	1	35.3	141.0	1.270	49.2	2210	1568	40.5	29.2
				11.5	4.15	497	1	31.8	136.0	1.262	49.8	2016	1475	38.7	27.5
				11.3	2.78	525	1	31.1	135.6	1.250	48.8	1837	1355	38.7	27.6
				11.4	2.92	492	1	29.5	133.6	1.215	48.8	1797	1346	38.8	26.7
				11.4	2.44	512	1	28.5	134.2	1.178	46.3	1855	1379	38.7	26.4

(1) Brugsch, Allgemeine Prognostik. 2. Anfl. 1922

橋本氏が實驗ヲ行ヒタル虛弱兒童ハ、ソノ計測値ヨリシテモ見ラレ得ルガ如ク、多クハ無力性姿質ニ屬スルモノナリキ。ブルグシ氏⁽¹⁾ハ虛弱者ニ對シテ施ストコロノ種種ノ補強的ノ處置ハ、主トシテ循環器ノ狀態ニ懸ルモノニシテ、小ナル心臟、細狹ナル血管系統ヲ有スルモノハ疲勞及ビ過勞現象ガ速カニ起リテ、體操・スポーツ・呼吸練習等ニ依リテモ狹キ胸廓ヲ増加セシムルコトハ望マレズ。血管ガ狹カラズ、心筋ニ成形不全ノ無キ時ニノミ、狹胸ヲ正常胸ナラシムルコトヲ得ル

- (1) Training
- (2) Godin
- (3) Mathias
- (4) Kohlrausch
- (5) Arnold
- (6) Herxheimer
- (7) Hoske, Leibestübing als Entwicklungsreiz: in Konstitutions- und Erbologie. 1934. S. 351

ト云ヘルガ、私ハ橋本氏ノ上述ノ實驗ニ本ツキ、少、幼年期ニ於テ適度ノ操作ヲ加ヘルコトニ依リテ或程度マデノ虛弱體質ノ補強ガ可能ナルコトノ希望ヲ大ナラシメルモノアリト信ズ。

(四) 練習⁽¹⁾ノ身體ニ對スル影響ニ初メテ興味ヲ有セルハ、瑞西⁽²⁾ノゴダン氏⁽³⁾ナリ。次デマヂアス⁽⁴⁾、コールラウシ⁽⁵⁾、アルノルド⁽⁶⁾、ヘルクスハイメル⁽⁷⁾、ホスケ⁽⁸⁾ノソノ他多クノ人人ガ、コノ問題ニ就キテ論述セリ。近時、スポーツノ隆盛ト共ニ、本邦ニ於テモ漸、コノ問題ニ手ヲ染メタル學者ガ多クナレリ。身體的練磨ヲ一種ノ發育刺激ト見做スホスケ⁽⁹⁾ノ見方ハ、體質改善ノ立場ヨリシテ興味アルモノナリ。練磨ニ依ル體質ノ改善ニ對シテ、ブルグシ氏⁽¹⁰⁾ナドハ相當大ナル可能性ヲ認ムルガ、多クノ學者ハ、或範圍内ニ於ケル改善ヲシカ認メザルガ如シ。練習ニ伴フ身體的變化、「スポーツマン」的體質等ニ就テ多數ノ報告アレドモ、ココニハ唯、手許ニ存スル一二ノ綜說的文獻ヲ示スニ止ムベシ。

- 1) H. Herxheimer, Die Dauerwirkung harter Muskelarbeit auf Organe und Funktion(Trainingswirkungen): in Handbuch der normalen und pathologischen Physiologie. XV/1 Berlin. 1931. S. 699.
 - 2) H. Herxheimer, Grundriss der Sportmedizin. Leipzig. 1933.
 - 3) 小田俊郎, 運動醫學. 東京. 診斷ト治療社出版部. 昭和六年.
 - 4) 北村直躬, 「スポーツマン」ノ體質的變態ト其鑑別診斷. 日新醫學. 第二十二年. 第八號. 昭和八年四月.
- 此外ニ Azler, Schinde-Kohlrausch, Gould-Dye, Bainbridge ノナドノ運動生理學ノ書モ非常ニ興味アル内容ヲ有セリ。練磨ニ依ル體質・體力等ノ補強ニハ、個性ヲ顧慮シタル慎重周密ノ醫學的指導ノ必要ナルコトハ勿論ナリ。

昭和十一年十一月六日印刷
昭和十一年十一月十日發行

正價金壹圓參拾五錢



日本文科全書
第九卷・第二冊

編者 小田平義

東京市本郷區龍岡町三十一番地

發行者 萩原孝一郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所 杏林舍

合資會社

電話小石川〔七七九番
四七二五番〕

發行所

東京市本郷區龍岡町三十一番地
振替口座東京四一八番〔電話小石川
七六八七番七〇六六番〕

合資會社

吐鳳堂

